

一般社団法人全国高等学校PTA連合会・株式会社リクルートマーケティングパートナーズ 合同調査

第7回
「高校生と保護者の進路に関する意識調査」
2015年
報告書

少子高齢化・人口減やグローバル化の進展などに伴う急激な社会変化の中で、
高校生の進路観の育成、進路先の決定における保護者の関わりがますます重要に
なっています。行政、学校教育はむろんですが、高校生にとって最も身近な大人
である「保護者」ができることは为什么呢。

高校生と保護者の進路をめぐる意識と行動の実態を調べ、両者のよりよい意思
疎通のあり方を研究するとともにその成果を広く社会に提言することを目的に、
一般社団法人全国高等学校PTA連合会と株式会社リクルートマーケティングパ
ートナーズは、全国の高校生をもつ保護者とその子どもに対して、コミュニケー
ションの実態と様々な進路観に関するアンケート調査を2003年より隔年で実施し
てまいりました。その7回目となる調査の分析結果をまとめましたので、ここに
ご報告申し上げます。

一般社団法人全国高等学校PTA連合会
会長 佐野元彦
進路対策委員長 森崎綾子

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
進学事業本部長 中島淳二

▼本調査や「キャリアガイダンス」に関するお問い合わせ▼

(株)リクルートマーケティングパートナーズ リクルート進学総研

<http://souken.shingakunet.com/>

- ※ この調査結果については、キャリア教育専門誌『キャリアガイダンス』Vol.411(リクルート)にも掲載しています。
- ※ 出版・印刷物等へデータ転載する際には、“一般社団法人全国高等学校PTA連合会・(株)リクルートマーケティングパートナーズ調べ”と付記していただきますようお願い申し上げます。

調査結果トピックス

I 親子コミュニケーションの実態

- 進路について親子で「話す」割合は、高校生は79%、保護者は87%。保護者は話しているとの認識が高校生より高い。
 - ・高校2年生の時点で、卒業後の進路について保護者との対話頻度は「よく話をする」高校生は18%、「話す・計」で79%。一方、保護者は「話す・計」87%であり、高校生よりも保護者のほうが「話している」認識が高い。【5ページ】

II 進路・将来にまつわる考え

- 高校生・保護者とも進路に関して「役立つ資格」「安定している仕事」「手に職」を望んでいる。
 - ・進路に関する価値観について、「将来は役立つ資格を身につけたい/つけてほしい」「収入や雇用が安定している仕事をしたい/してほしい」「将来は手に職をつけて仕事をしたい/つけてほしい」の3項目は「そう思う・計」の割合が高校生と保護者ともに約8割に達し、上位。【24～25ページ】
- 貸与型奨学金を「利用したい」割合は、高校生は36%、保護者は49%。「考えたことがないのでわからない」割合は、高校生は43%、保護者は26%。保護者の利用意向が高校生に比べて高い。
 - ・貸与型奨学金制度の利用意向について、「ぜひ利用したい」高校生は11%、「利用したい・計」で36%、「考えたことがないのでわからない」は43%を占める。一方、子どもに「ぜひ利用してほしい」保護者は16%、「利用してほしい・計」は49%、「考えたことがないのでわからない」は26%。保護者に比べて、高校生は「考えたことがない」割合が高く、「利用したい」の割合が低い【29ページ】

III 進路にまつわる期待と不安

- 進路を考えると、高校生の7割が「不安」。進路について保護者と話をする高校生は比較的「楽しい」の割合が高く、進路を前向きに捉えている。
 - ・高校生の進路を考えるとときの気持ちは「不安な気持ち」「どちらかというと不安」あわせて72%が不安を感じている。一方、「楽しい・計」は22%。進路対話頻度別にみると、話をする層のほうが話をしない層に比べ「楽しい・計」の割合が高く、進路を考えることに前向きな姿勢がみられる。【33ページ】
- 未来社会について、高校生・保護者とも2011年以降「好ましい」認識が増加。
 - ・これからの社会について「非常に好ましくない」「あまり好ましい社会ではない」と感じている高校生は44%、保護者は55%だが、過去調査と比較すると2011年から「好ましくない」は減少し、「好ましい」が増加している。
 - ・「好ましい」と思う理由について、高校生では「東京オリンピック開催」「アベノミクス」「グローバル化」「女性の社会進出」を受けて、これからの社会を楽観的に捉えているコメントがみられた。【38～39ページ】

IV 保護者の動き

- 進学先検討で重要な情報は、「現在の入試制度の仕組み」「進学費用」「将来の職業との関連」「学部・学科の内容」「就職の状況」。2011年より入試に関する情報の重要性が増している。
 - ・子どもに進学を希望する保護者に、重要だと思う進学情報を最大5項目まで選んでもらったところ、上位は「現在の入試制度の仕組み」「進学費用」「将来の職業との関連」「学部・学科の内容」「就職の状況」。2011年以降「現在の入試制度の仕組み」「入試の内容」のスコアが上昇しており、入試情報の重要性が増している。【40ページ】

V 学校での教育

- 社会人基礎力のうち、高校生・保護者ともに将来必要とされるが現在不足している能力は、「主体性」「実行力」「発信力」。
 - ・経済産業省で定義されている『社会人基礎力』:3つの能力(12の能力要素)のうち「現在持っている能力」を3つまで高校生に選んでもらったところ、トップは「傾聴力」(32%)。以下「規律性」(29%)「柔軟性」(24%)。同様に保護者に尋ねたところ、トップは「規律性」(48%)。以下、「主体性」(32%)、「傾聴力」(27%)が続く。
 - ・高校生が考える将来必要とされるが現在の自分に不足している能力(将来必要とされる能力-現在持っている能力ギャップ)は、「主体性」(32%)がトップ。以下、「実行力」(29%)、「発信力」(25%)。同様に保護者に尋ねたところ、「主体性」(23%)がトップ。以下、「実行力」(18%)、「発信力」(17%)が続く。【48～49ページ】

VI 家庭での教育

- 保護者の仕事について、高校生の41%は「話す」。2011年より減少傾向。保護者の「話す」は68%で、2011年から大きな変化はみられず、高校生と保護者の認識ギャップは広がった。
 - ・保護者の仕事の内容や楽しさ、大変さを話し合っているかという質問に、高校生は「よく話す」「時々話す」合わせて41%が話している。一方、保護者は「話す」が68%。過去調査と比較すると高校生の「話す」は2011年以降減少、保護者は大きな変化はみられず、高校生と保護者の認識ギャップは広がった。【56ページ】

VII グローバル化社会における高校生と保護者の意識

- 将来へのグローバル化の影響は高校生・保護者ともに4割が「ある」と回答。
- グローバル化による具体的な影響として「日本国内でも英語を使う機会が増える」「語学が苦手だと仕事を得ることが難しくなる」「異文化・多様性の理解がより重要になる」が高校生・保護者の両者において高い。
 - ・自分の将来に社会・経済のグローバル化の影響があると思う高校生は40%。一方、子どもの将来にグローバル化の影響があると思う保護者は43%。【61ページ】
 - ・高校生と保護者のいずれも、グローバル化による具体的な影響として「日本国内でも英語を使う機会が増える」「語学が苦手だと仕事を得ることが難しくなる」「異文化・多様性の理解がより重要になる」が高い。【62～63ページ】

コンテンツ

調査概要・回答者プロフィール	4
I 親子コミュニケーションの実態	
1. 進路について話す頻度	5
2. 進路について話す内容	6
3. 進路について話さない理由	7
4. 保護者がよく使う言葉／その言葉をどう感じるか	8
5. 希望進路・進路の悩みの共有度	10
6. 保護者からのアドバイス／アドバイスして欲しい内容	12
7. 保護者がアドバイスすることの困難	13
8. 進路選択についての相談相手	15
9. 進路選択について影響を受ける人物	16
10. 目指している・あこがれている人／その理由	18
11. 進路選択について保護者が取る態度	19
12. 保護者の行動・態度	20
13. 保護者にしてほしい行動・態度	21
14. 保護者にやめてほしい行動・態度	22
II 進路・将来にまつわる考え	
15. 高校卒業後の希望進路	23
16. 進路についての価値観	24
17. 将来就きたい・就いてほしい職業／その理由	26
18. 貸与型奨学金制度の利用意向	29
19. 奨学金制度に関する認知	30
III 進路・将来にまつわる期待と不安	
20. 進路意識と将来への自信	32
21. 進路を考えるとときの気持ち	33
22. 進路選択についての気がかり	34
23. 将来働くことについての気がかり	35
24. 未来社会への認識:これからの社会は好ましいか／その理由	38
IV 保護者の動き	
25. 進学情報の必要性・入手方法	40
26. 進学先検討の重視点	42
27. 保護者の進路選択行動	44
V 学校での教育	
28. 現在持っている能力と将来必要とされる能力	48
29. 必要な能力を身につけるために有効な活動	50
VI 家庭での教育	
30. 家庭教育の実施状況	52
31. なぜ学び・働くのかについての話し合い／その内容	54
32. 保護者の仕事についての会話／その内容	56
VII 学校への要望	
33. 家庭と学校の役割に関する認識	57
34. キャリア教育の認知と期待／意見・要望	58
35. 進路指導への要望／意見・要望	59
VIII グローバル化社会における高校生と保護者の意識	
36. 将来の進路に対するグローバル化社会の影響	61
37. グローバル社会で通用する人材になりたい(なってほしい)か／その理由	64
38. グローバル社会で通用する人材になるために必要な力	66
39. 子どもを留学させたいか／その理由	68
40. 学生時代に積みたい海外経験／その理由	70

調査概要・回答者プロフィール

▶ 調査概要

- 調査実施者 一般社団法人全国高等学校PTA連合会 / 株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
- 調査対象 全国の高校2年生とその保護者
全国高等学校PTA連合会より依頼した9都道府県の公立高等学校26校
2年生2クラス分の高校生と保護者
- 調査期間 2015年9月24日～10月28日
- 調査方法 学校を通した質問紙による自記式調査
①高校生：ホームルームにてアンケートに回答
②保護者：高校生から保護者へアンケートを手渡し
③学級担任が高校生と保護者分を取りまとめ、その後学校責任者が学校分として返送
- 有効回答数 高校生1,887人 ※全問無回答7人を除く
保護者1,584人 ※全問無回答10人を除く

▶ 回答者プロフィール

【高校生】

- 性別 男子48.5% 女子48.4% (無回答3.0%)
- 所属学科 普通科78.0% 専門学科22.0%
- 地域分布 北海道11.0% 宮城県11.8% 群馬県11.4% 東京都11.3% 三重県11.4% 福井県10.1%
兵庫県12.1% 広島県8.2%、福岡県12.7%
- 高校卒業後の希望進路
大学進学57.6% 短大進学 3.2% 専門学校進学14.7% 海外の大学等への進学0.4%
就職20.3% パート・アルバイト0.1% その他1.9% (無回答1.8%)

【保護者】

- 続柄 父親11.0% 母親85.7% その他0.8% (無回答2.5%)
- 子どもの性別 男子48.3% 女子49.2% (無回答2.5%)
- 所属学科 普通科 74.3% 専門学科 20.8%
- 地域分布 北海道8.6% 宮城県12.2% 群馬県13.4% 東京都7.5% 三重県12.4%
福井県10.7% 兵庫県13.6% 広島県9.3%、福岡県12.1%
- 子どもの高校卒業後の希望する進路
大学進学49.2% 短大進学 2.5% 専門学校進学8.0% 海外の大学等への進学0.1%
就職14.2% その他0.8% 子どもが希望する進路なら何でもよい23.8% (無回答1.5%)

【注】

※第5回調査(2011年)は、2011年9～10月に全国の高校2年生とその保護者を対象に実施

(有効回答数:高校生1,959人／保護者1,417人)

※第6回調査(2013年)は、2013年9～10月に全国の高校2年生とその保護者を対象に実施

(有効回答数:高校生2,043人／保護者1,696人)

※報告書内の表記について

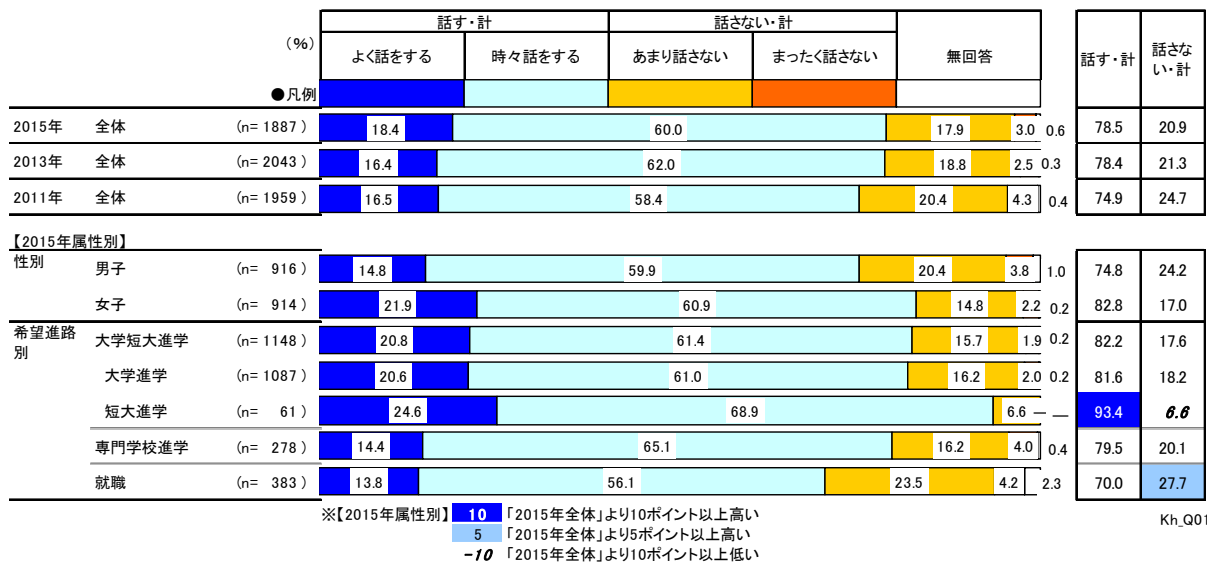
- グラフの数値は、小数点第2位以下を四捨五入して表示している
- 本文の数値は、グラフ中の数値の小数点第1位を四捨五入して記載している
- <フリーコメント>末尾カッコ内は以下の属性を表す
高校生: [都道府県/性別/希望進路]
保護者: [都道府県/続柄/子どもの性別]

I 親子コミュニケーションの実態

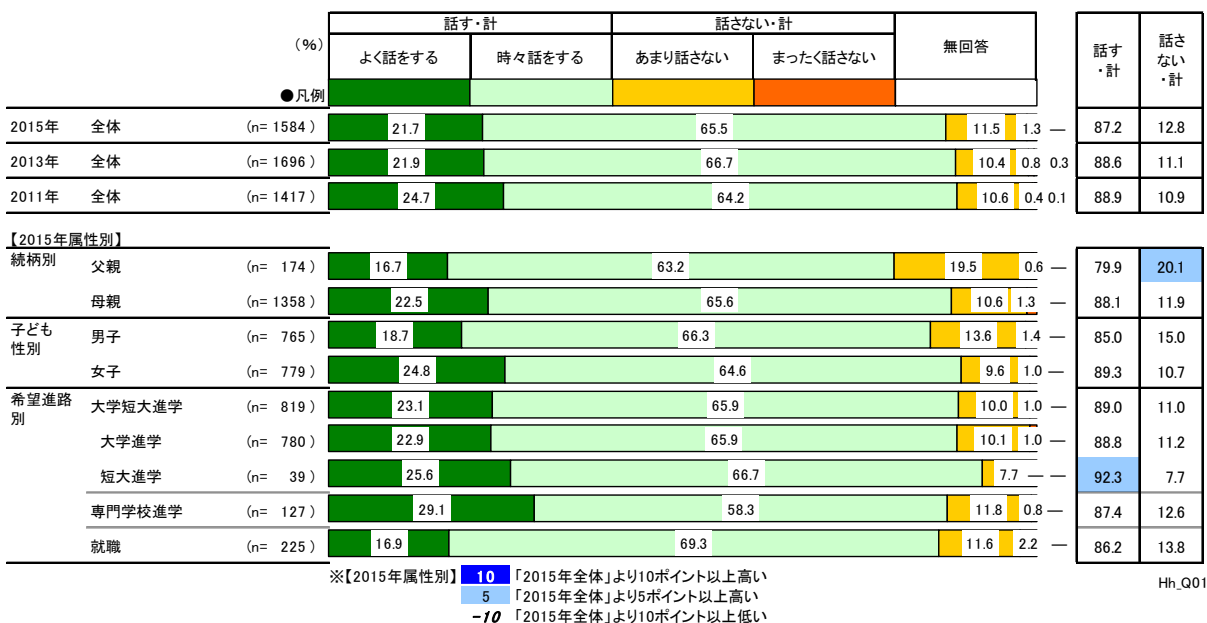
1.進路について話す頻度

- ▶ 高校生の79%、保護者の87%が進路について「話す」。保護者の認識が高校生に比べ高い。
- ▶ 高校生の「話す」割合は2013年と同程度。
- ▶ 高校生のうち「女子」、保護者のうち「母親」の「話す」割合が高い。
- 高校2年生の時点で卒業後の進路について保護者と話しているかという質問に、高校生の18%が「よく話をする」と回答。「時々話をする」の60%と合わせると79%が進路について会話をしている(話す・計)。
- 性別にみると、「話す・計」の割合は女子(83%)が男子(75%)よりも高い。
- 希望進路別にみると、「話す・計」は大学短大進学希望者は8割を占める。それに比べて就職希望者は会話している割合が少ない。
- 同様に、保護者にも子ども(高校生)と話しているかと尋ねたところ、22%が「よく話をする」。「時々話をする」(66%)を合わせた「話す・計」87%は高校生の回答を上回る。
- 続柄別にみると、「話す・計」の割合は母親(88%)が父親(80%)よりも高い。
- 子どもの性別にみると、女子は男子よりも「話す・計」が高い。

【高校生】 進路についての話を保護者としているか (全体／単一回答)



【保護者】 進路についての話を子どもとしているか (全体／単一回答)



2.進路について話す内容

▶ 進路について話す内容のトップは、「卒業後の具体的な進路について」が6割。

- ① 卒業後の具体的な進路について (58%)
- ② 将来どんな職業に就きたいか (55%)
- ③ 将来の自分の夢 (45%)
- ④ 現在の成績について (39%)
- ⑤ 将来どんな生活をしたいか (28%)

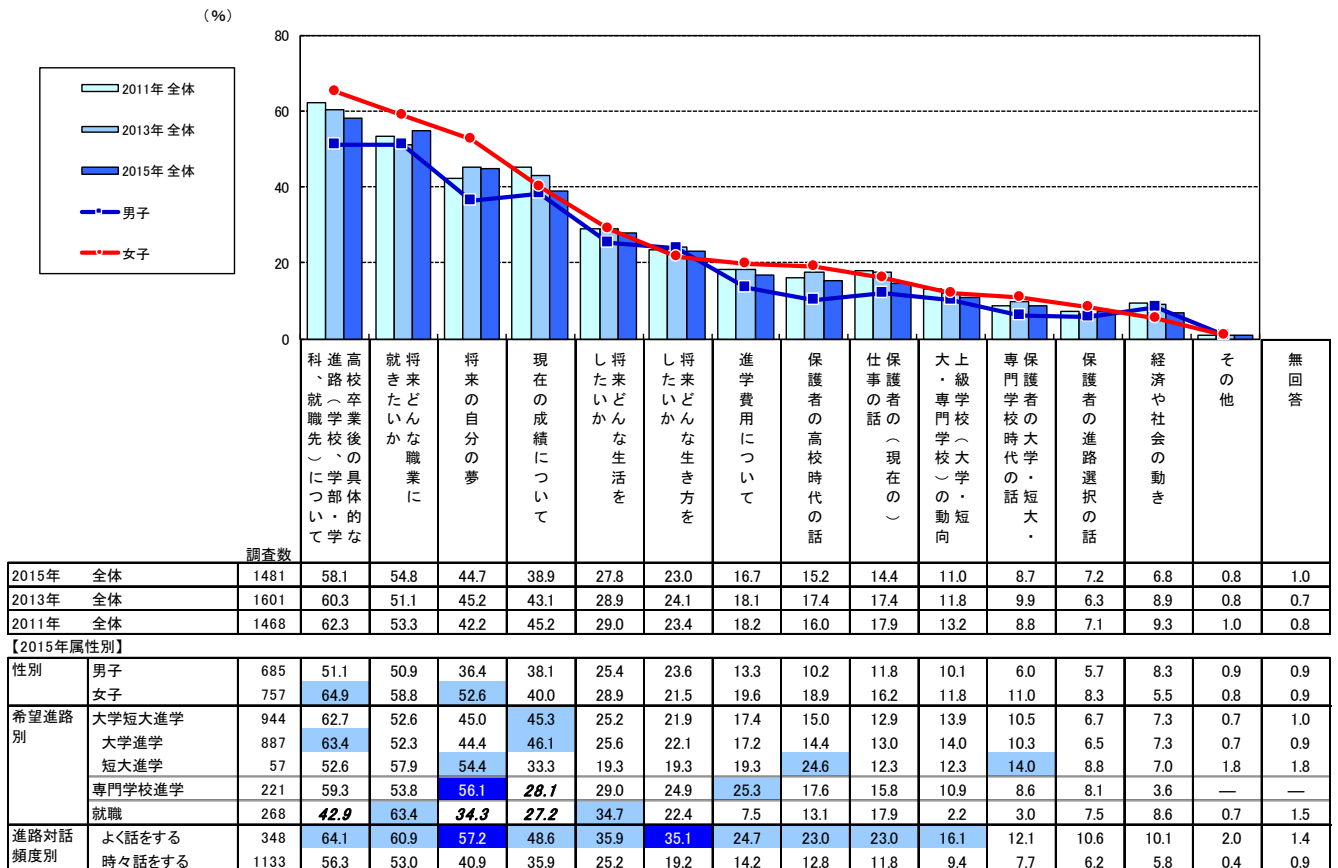
● 5ページの卒業後の進路について保護者と話しているかという質問に会話がある(「よく話をする」～「時々話をする」)と回答した高校生に、どんな話をしているかすべて選んでもらった。トップは「高校卒業後の具体的な進路について」で6割。ついで「将来どんな職業に就きたいか」(55%)、「将来の自分の夢」(45%)、「現在の成績について」(39%)が挙げた。過去調査と比較して、上位の顔ぶれは変わらない。

● 性別にみると、女子は男子に比べスコアが高い項目が多く、会話の内容が幅広い。特に「高校卒業後の具体的な進路について」「将来の自分の夢」は男子を大きく上回る。

● 希望進路別にみると、大学進学・専門学校進学のトップは「高校卒業後の具体的な進路について」。一方、短大進学・就職希望者は「将来どんな職業に就きたいか」がトップ。

● 進路対話頻度別(5ページの回答別)にみると、全項目で「時々話をする」層よりも「よく話をする」層のほうがスコアが高く、会話頻度が高いほうが進路について会話する内容が幅広いことがうかがえる。

【高校生】 進路について保護者とどんな話をしているか (よく話をする～時々話をする／複数回答)



※「2015年全体」降順ソート

※「2015年属性別」

10 「2015年全体」より10ポイント以上高い

5 「2015年全体」より5ポイント以上高い

-10 「2015年全体」より10ポイント以上低い

Kh.Q01.SQ1

3.進路について話さない理由

▶ 進路について話さない理由のトップは「めんどくさいから」。

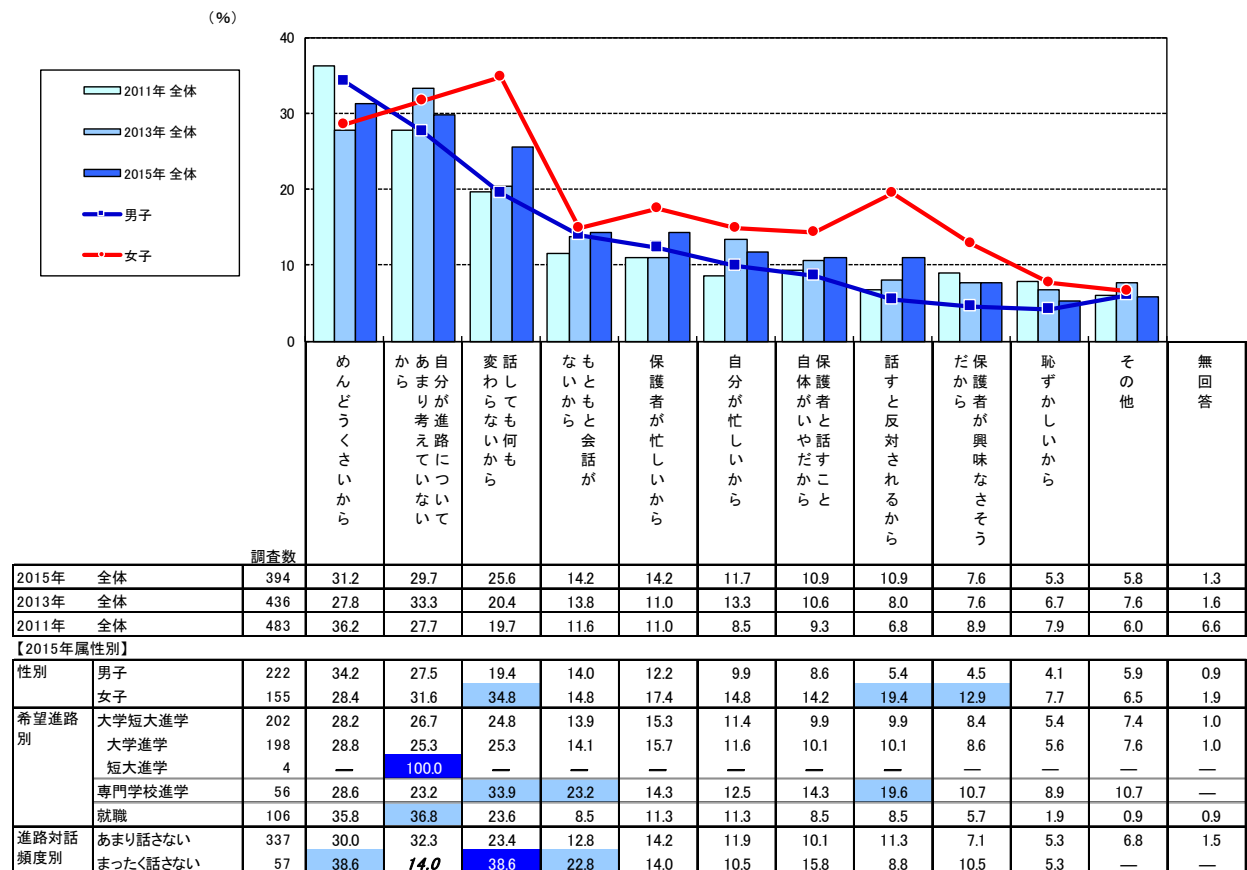
- ①めんどくさいから (31%)
- ②自分が進路についてあまり考えていないから (30%)
- ③話しても何も変わらないから (26%)
- ④もともと会話がなかったから (14%)
- ⑤保護者が忙しいから (14%)

●5ページの卒業後の進路について保護者と話しているかという質問に会話がなかった(「あまり話をしない」～「まったく話さない」と回答した高校生に、その理由をすべて選んでもらったところ、トップは「めんどくさいから」(31%)、ついで「自分が進路についてあまり考えていないから」(30%)と高校生自身の態度が1、2位に挙げられた。以下「話しても何も変わらないから」(26%)、「もともと会話がなかったから」(14%)と保護者との関係による要因が続く。

●過去調査と比較すると前回1位の「自分が進路についてあまり考えていないから」は減少、一方で「めんどくさいから」は増加し、順位が入れ替わった。前回3位の「話しても何も変わらないから」は2013年より増加した。

●性別にみると、女子は男子に比べ「話すと反対されるから」「保護者が興味なさそうだから」など保護者の否定的な態度や無関心な態度に関する項目のスコアが高い他、「話しても何も変わらないから」が高い。一方、男子は「めんどくさいから」が女子に比べてスコアが高い。

【高校生】 進路について保護者と話さない理由（あまり話さない～まったく話さない／複数回答）



Kh.Q01_SQ2

4. 保護者がよく使う言葉／その言葉をどう感じるか

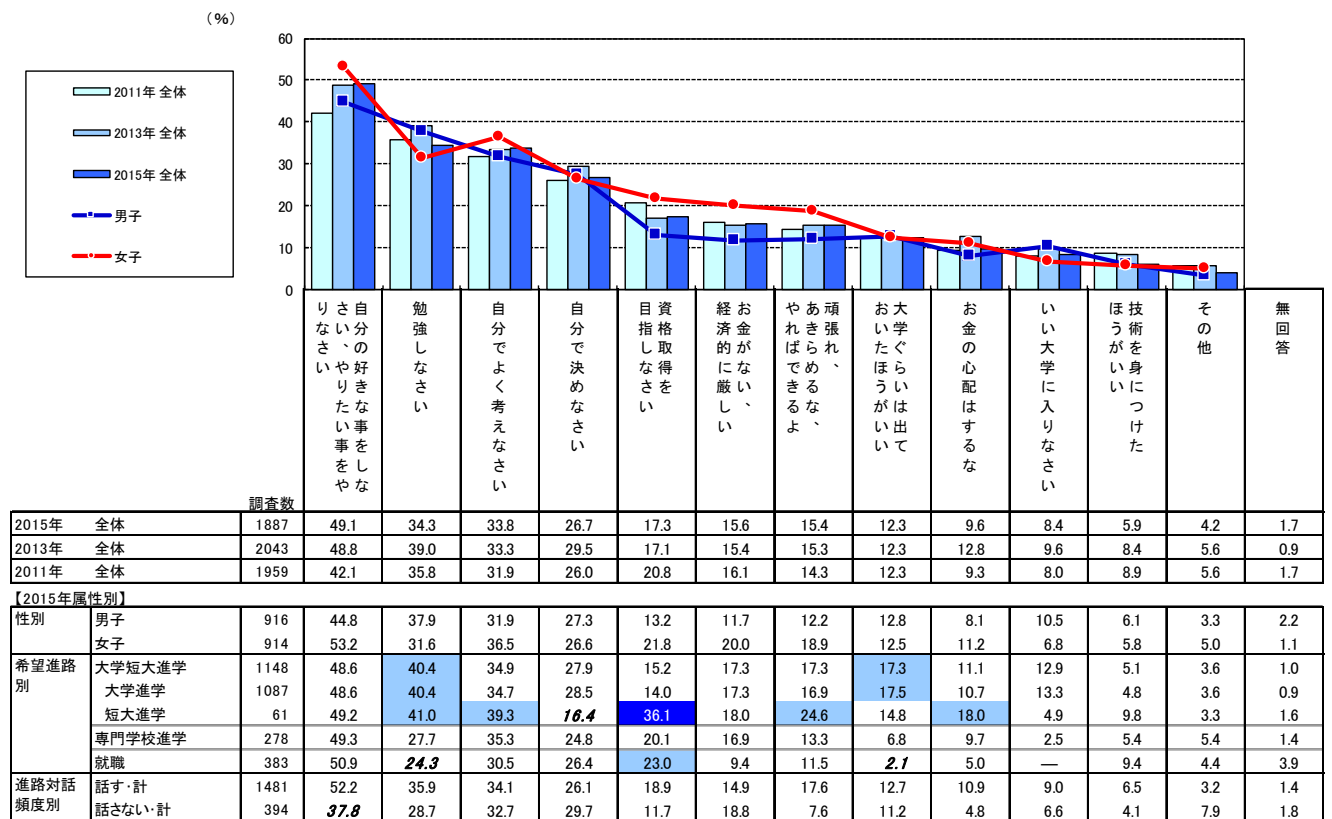
▶ 進路の話をするとき保護者がよく使う言葉について、高校生の認識トップは「自分の好きな事をしなさい」

- ① 自分の好きな事をしなさい、やりたい事をやりなさい (49%)
- ② 勉強しなさい (34%)
- ③ 自分でよく考えなさい (34%)
- ④ 自分で決めなさい (27%)
- ⑤ 資格取得を目指しなさい (17%)

▶ 高校生に委ねる言葉はポジティブに捉える意見が多い反面、アドバイスを求める意見も挙げられている。

- 進路の話をするとき保護者はどんな言葉を使うか、高校生と保護者に尋ねた。高校生の回答上位は上記のとおり。過去調査と比較して上位項目の顔ぶれは変わらない。
- 女子は「好きなことをしなさい」「資格取得」「お金がない」のスコアが男子に比べ高く、幅広い言葉が使われている。男子は女子に比べ「勉強しなさい」「いい大学」がやや高い。
- 高校生に保護者の言葉への印象を書いてもらった。「好きなことをしなさい」「自分で考えなさい」「自分で決めなさい」では判断を任せられることを前向きに捉えるコメントが多いが、一方で「アドバイスを欲しい」「心細くなる」と保護者にアドバイスを求める声も挙がっている。

【高校生】 進路の話をするとき保護者がよく使う言葉 (全体／複数回答)



※「2015年全体」降順ソート

※【2015年属性別】 10 「2015年全体」より10ポイント以上高い

5 「2015年全体」より5ポイント以上高い

-10 「2015年全体」より10ポイント以上低い

Kh_Q02

<フリーコメント> 保護者の言葉をどう感じるか【高校生】

■自分の好きなことをしなさい、やりたいことをやりなさい

- きちんと大学を出て夢を叶えようと思う[福岡県/女子/大学]
- 強制されないからうれしい。もっと頑張ろうと思う[福岡県/女子/大学]
- ありがたいが、明確な目標がないのもっとアドバイスなどが欲しい。[福岡県/女子/大学]

■勉強しなさい

- とりあえず勉強することが優先であるから頑張らなくてはいと思う。[群馬県/男子/専門学校]
- しようとするときに、その言葉を言われてやる気を失う。何か信用していない感じがする。[福岡県/男子/就職]
- 勉強しているのに、言われるのが、少し不満に思う。[福岡県/女子/大学]

■自分でよく考えなさい

- 強制されたことはないから、ちゃんと自分のことを考えてくれていると思う。[東京都/女子/大学]
- 考えても分からないから聞いてるのに、そんなことを言われたら、本当にどうしていいか分からない。[宮城県/女子/就職]

■自分で決めなさい

- 自由に選ばせてくれありがたいと思う[福岡県/男子/大学]
- やりたいことをやらせてもらえると思う反面、少し、心細くなる。[福岡県/女子/大学]

■資格取得を目指しなさい

- 必要だとは思いますが具体的に何を取ればいいのかよく分からない[福岡県/男子/大学]

▶ 進路の話をするとき保護者がよく使う言葉について、保護者の認識トップは「自分の好きなことをしなさい」

- ①自分の好きな事をしなさい、やりたい事をやりなさい (54%)
- ②自分でよく考えなさい (53%)
- ③資格取得を目指しなさい (37%)
- ④技術を身につけたほうがいい (29%)
- ⑤自分で決めなさい (27%)

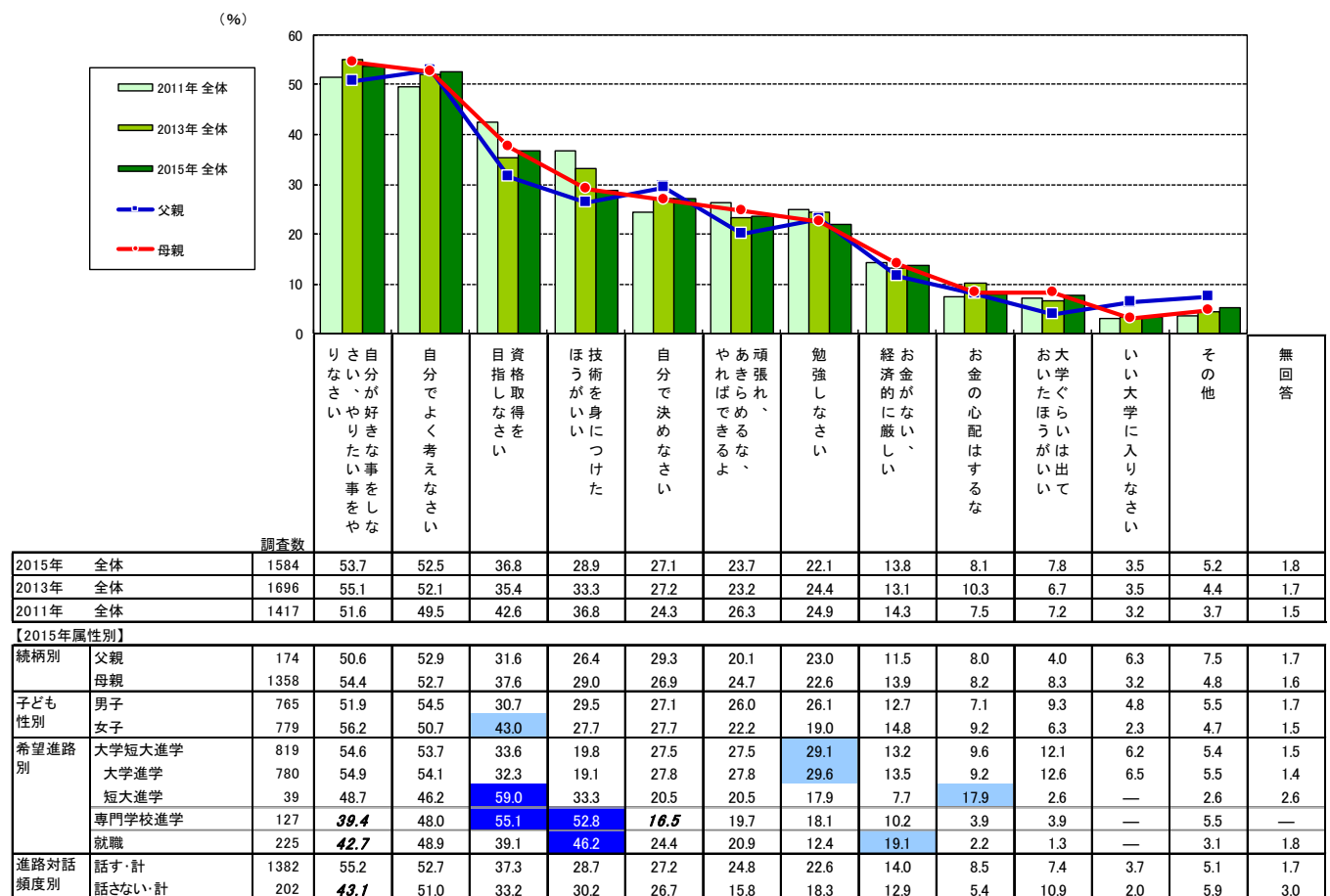
- 保護者の回答上位は上記のとおり。過去調査と比較して上位の顔ぶれは変わらない。
- 続柄別にみると、母親は父親に比べ「資格取得」が比較的高い。
- 子ども性別にみると、「資格取得」は男子よりも女子のほうがスコアが高い。
- 希望進路別にみると、進路先により順位・スコアに差がある。大学短大進学では「自分の好きなことをしなさい」がトップだが、専門学校進学では1～2位に「資格取得」「技術」が挙がる。就職希望者では「自分でよく考えなさい」がトップ。

▶ 高校生・保護者ともトップは「自分の好きなことをしなさい」で一致。

▶ 「勉強しなさい」は、保護者が思っている以上に子どもに届いており、資格や技術については、保護者が伝えていると思っているほど子どもに届いていない。

- 「勉強しなさい」は、高校生では2位だが保護者においては上位5項目に届かない。高校生が感じているほど保護者は言っていないという認識である。
- 「資格取得を目指しなさい」「技術を身につけたほうがいい」は高校生に比べて保護者のスコアが大幅に高く、子どもにスキル習得を推奨しているという認識が目立つ。また「自分でよく考えなさい」も高校生に比べ保護者のスコアが高く、両者の認識の差が大きい。

【保護者】子どもと進路の話をするときに使う言葉（全体／複数回答）



※「2015年全体」降順ソート

※【2015年属性別】 10 「2015年全体」より10ポイント以上高い
5 「2015年全体」より5ポイント以上高い
-10 「2015年全体」より10ポイント以上低い

Hh_Q07

5.希望進路・進路の悩みの共有度

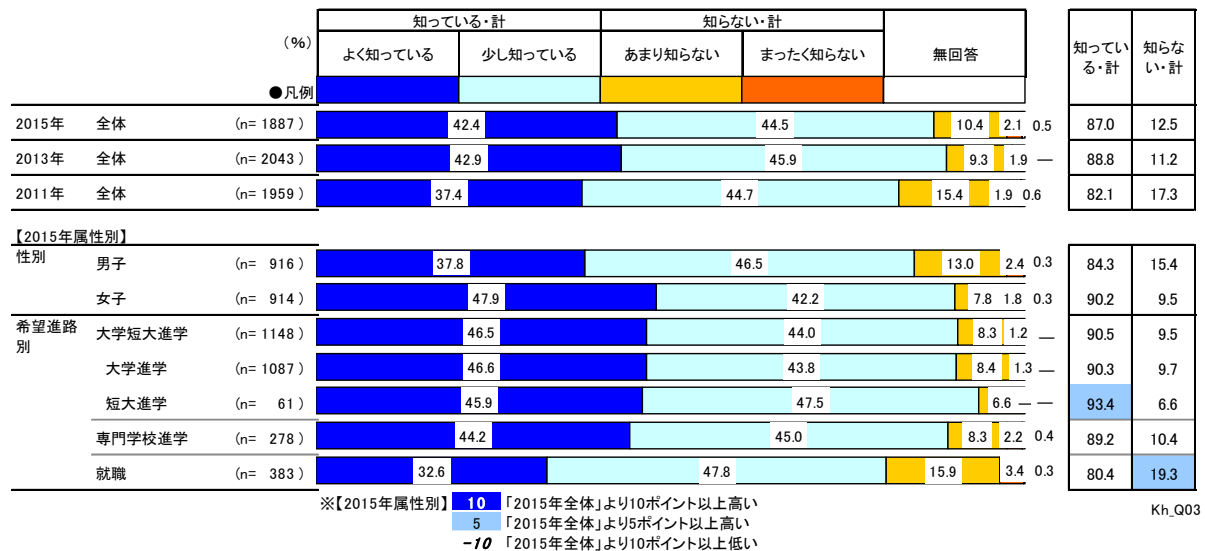
1)希望進路の共有度

▶ 高校生の87%、保護者の91%が希望進路や進路に対する考えを「知っている」。保護者の認識が高校生に比べてやや高い。

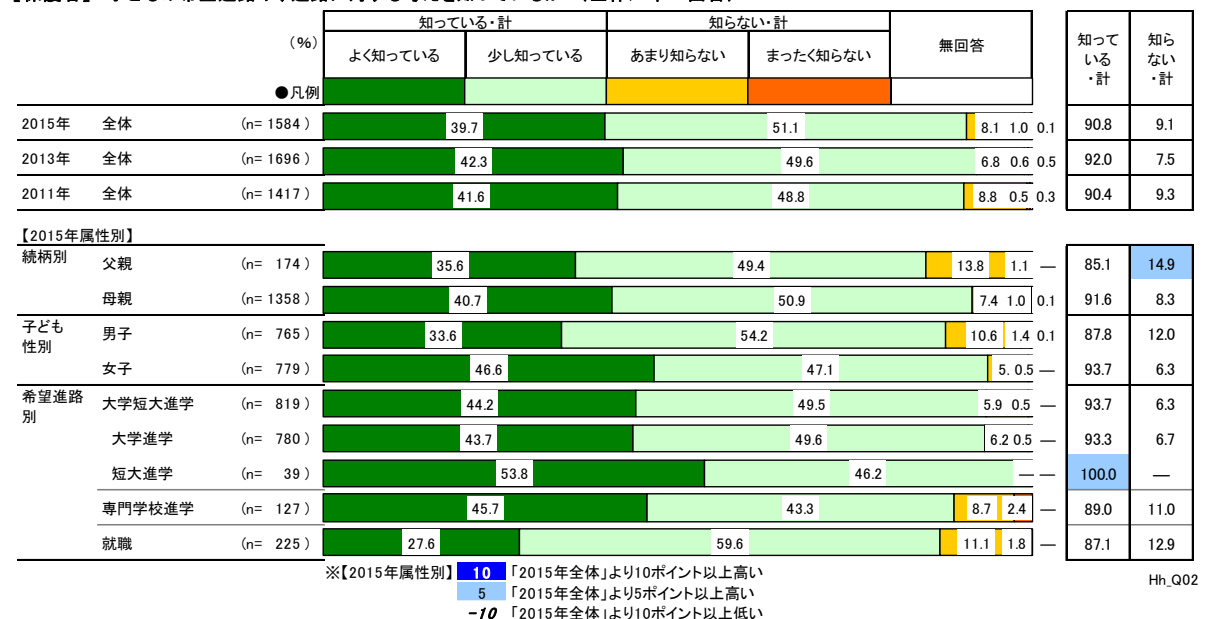
▶ 高校生・保護者とも「知っている・計」は2013年と同程度。

- 高校生の希望進路や進路についての考えを保護者はどの程度知っているかという質問に、高校生の42%が「よく知っている」と回答。「少し知っている」の45%と合わせ87%が考えを共有している(知っている・計)。
- 性別にみると、女子は男子に比べて「知っている・計」が高い。
- 希望進路別にみると、「知っている・計」は大学短大進学、専門学校進学の希望者で約9割を占めるが、就職希望者は8割にとどまり、共有度が相対的に低い。
- 同様に、保護者にも子ども(高校生)の希望進路や考えを知っているか尋ねたところ、40%が「よく知っている」。「少し知っている」(51%)を合わせた「知っている・計」91%は高校生の回答を上回る。
- 続柄別にみると、「知っている・計」の割合は母親(92%)が父親(85%)よりも高い。
- 子ども性別にみると、「知っている・計」の割合は女子(94%)が男子(88%)よりも高い。

【高校生】希望進路や進路に対する考えを保護者は知っているか(全体／単一回答)



【保護者】子どもの希望進路や、進路に対する考えを知っているか(全体／単一回答)

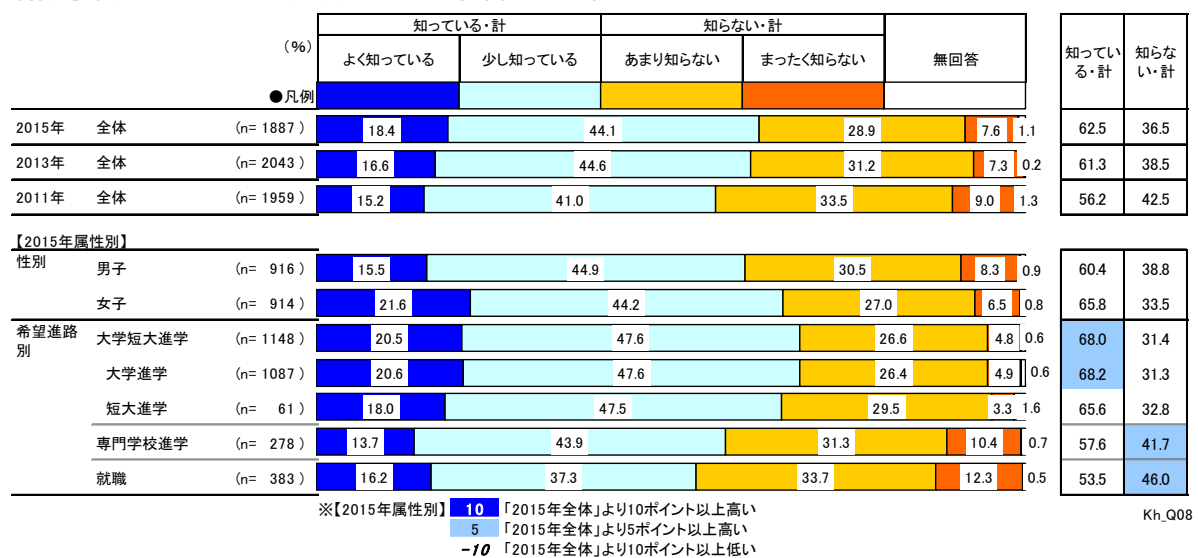


2)進路選択の不安の共有度

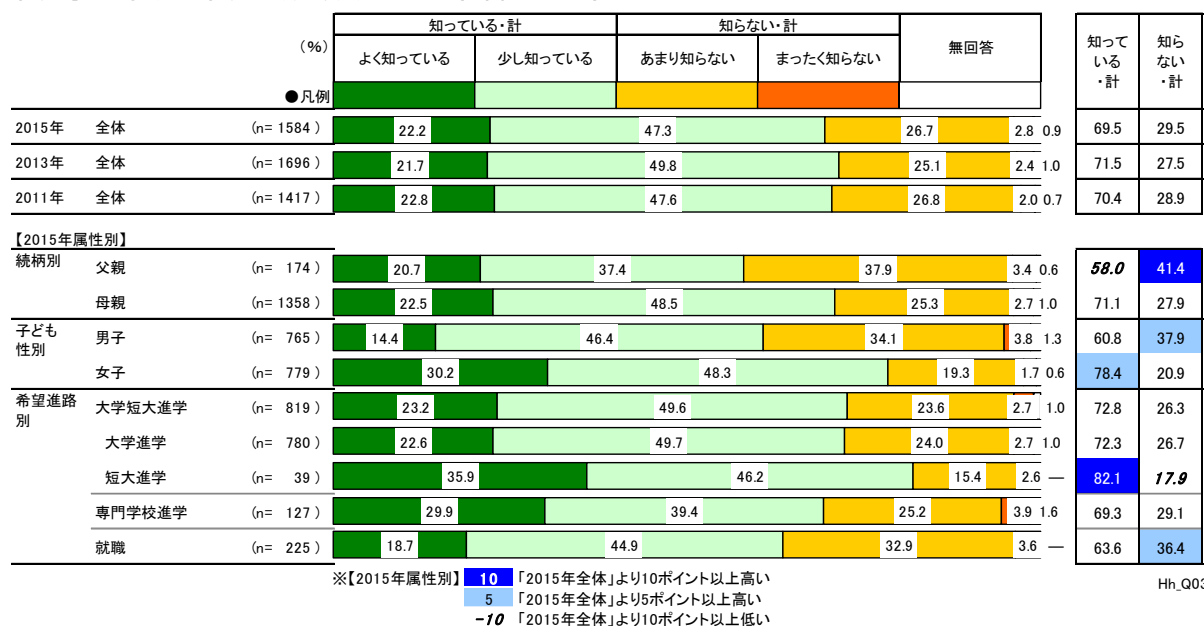
- ▶ 高校生の63%、保護者の70%が進路選択の悩みや不安を「知っている」。
- ▶ 高校生は過去調査から「知っている」が増加傾向。高校生・保護者の認識差は縮まりつつある。

- 高校生の進路選択の悩みや不安を保護者はどの程度知っているかという質問に、高校生の18%が「よく知っている」と回答。「少し知っている」の44%と合わせ63%が共有（知っている・計）。過去調査と比較すると「知っている・計」の割合は増加傾向。
- 性別にみると、「知っている・計」の割合は女子（66%）が男子（60%）よりもやや高い。
- 希望進路別にみると、「知っている・計」のスコアは大学短大進学では約7割を占めるが、就職希望者は約5割と共有度が相対的に低い。
- 一方、保護者は、子ども（高校生）の進路選択の悩みや不安を22%が「よく知っている」と回答。「少し知っている」（47%）を合わせた「知っている・計」は70%。希望進路の共有度と同様に「知っている・計」は高校生を上回るが、そのスコア差は2011・2013年に比べ減少しており（2015年：高校生63%－保護者70%＝7ポイント差）、保護者と子どもとの間で悩みや不安の共有が進んでいることがうかがえる。
- 続柄別・子ども性別にみると、希望進路の共有度（10ページ）同様、父親よりも母親、男子よりも女子のほうが「知っている・計」の割合が高く、共有度が高い。

【高校生】 保護者は進路選択の悩みや不安を知っているか（全体／単一回答）



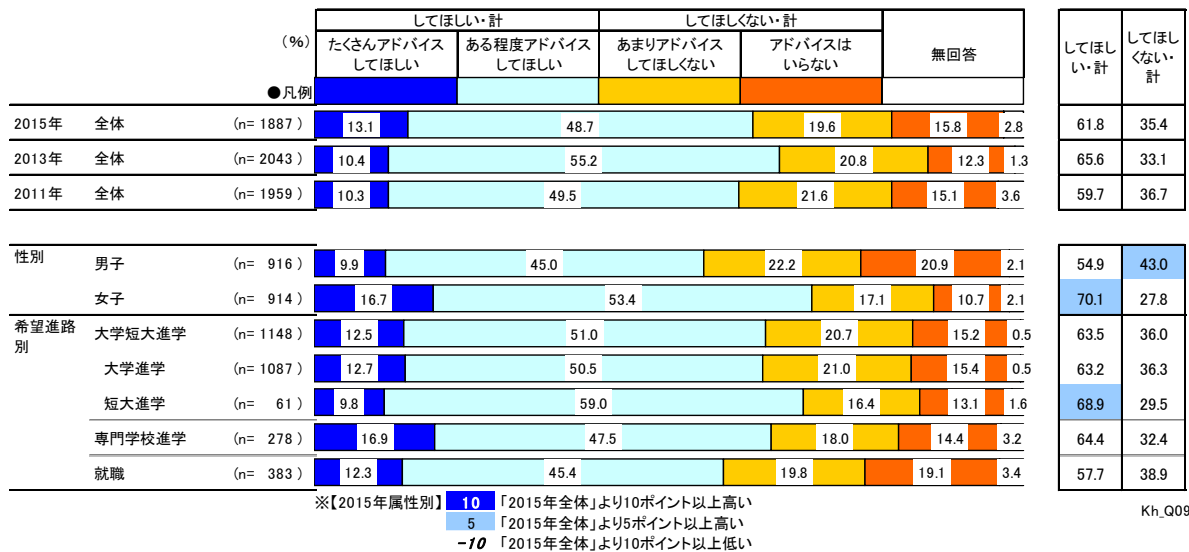
【保護者】 子どもの進路に関する悩みや不安を知っているか（全体／単一回答）



6.保護者からのアドバイス／アドバイスしてほしい内容

- ▶ 高校生の62%が保護者からのアドバイスを「してほしい」。保護者の79%が相談・アドバイスを「している」。
- 進路選択について保護者からアドバイスしてほしいかという質問に、高校生の13%が「たくさんアドバイスしてほしい」。「ある程度アドバイスしてほしい」の49%と合わせ62%が保護者からのアドバイスを必要としている(してほしい・計)。
 - アドバイスしてほしい内容や理由を書いてもらったところ、「してほしい」理由としては、「自信がつく」、「してほしい」理由として、「押し付けてくる」「自分で決めたい」などの意見が挙がった。
 - 一方、保護者に子どもの相談に乗ったりアドバイスしているか尋ねたところ、23%が「よくしている」。「少ししている」(56%)を合わせ79%がアドバイスをしている(している・計)。
 - 続柄別にみると、「している・計」の割合は父親(71%)よりも母親(80%)のほう多い。

【高校生】 進路選択に際して、保護者にアドバイスしてほしいか (全体／単一回答)



<フリーコメント> 保護者にアドバイスしてほしい内容や理由【高校生】

■たくさんアドバイスしてほしい

- たくさんアドバイスをもらうことで自信がつくから。[三重県/女子/大学]
- 人生の先輩として、必要な能力などを教えてほしい[宮城県/女子/大学]

■ある程度アドバイスしてほしい

- 1人で決めるのは不安[福井県/女子/大学]
- あまりアドバイスが多すぎてもかえってストレスになるから。
[三重県/女子/大学]

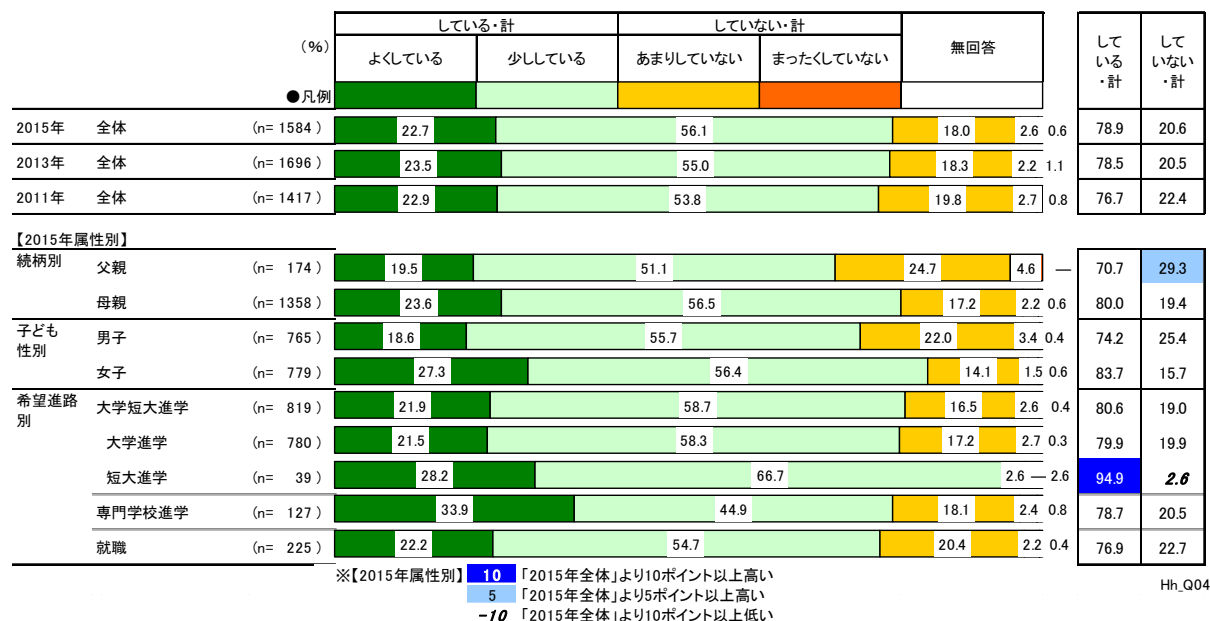
■あまりアドバイスしてほしくない

- アドバイスというより自分の希望ばかり押し付けてくるから。
[宮城県/女子/専門学校]
- 自分できめたい[福井県/男子/大学]

■アドバイスはいらない

- 自分で決めることだから[広島県/男子/大学]
- 余計にプレッシャーに感じる[兵庫県/女子/大学]

【保護者】 子どもの進路に関する悩みや不安について、相談に乗ったりアドバイスしているか (全体／単一回答)



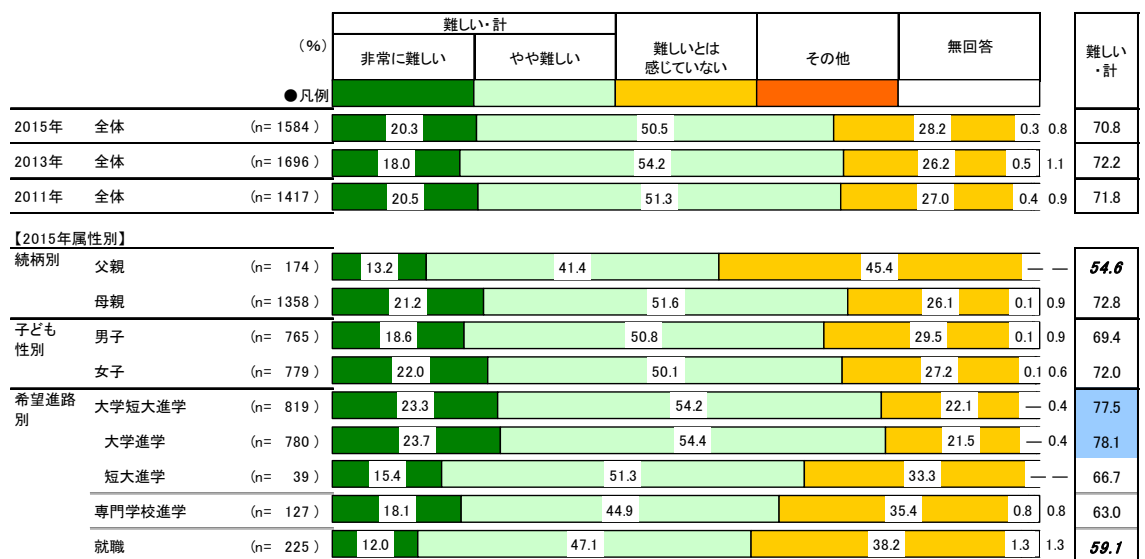
7.保護者がアドバイスすることの困難

1)子どもの進路選択についてアドバイスすることは難しいか

▶保護者の71%が進路選択について子どもにアドバイスすることは「難しい」。

- 12ページで保護者に子どもの進路選択についてアドバイスしているか実施状況を尋ねたが、その難しさの程度も質問した。「非常に難しい」が20%、「やや難しい」(51%)を合わせた「難しい・計」は71%。過去調査と比較すると、2011年以降「難しい・計」は約7割で推移している。
- 続柄別にみると、「難しい・計」の割合は母親(73%)が父親(55%)を大きく上回り、母親は父親に比べ「難しい」と感じながらアドバイスしていることがうかがえる。
- 子ども性別にみると、「難しい・計」の割合に大きな差異はみられない。
- 希望進路別にみると、「難しい・計」の割合は大学短大進学希望者(78%)で比較的高く、アドバイスが難しいと感じられている。

【保護者】 進路選択について子どもにアドバイスすることは難しいか（全体／単一回答）



※【2015年属性別】 10 「2015年全体」より10ポイント以上高い

5 「2015年全体」より5ポイント以上高い

-10 「2015年全体」より10ポイント以上低い

Hh_Q05

2) 子どもの進路選択についてアドバイスすることが難しい理由

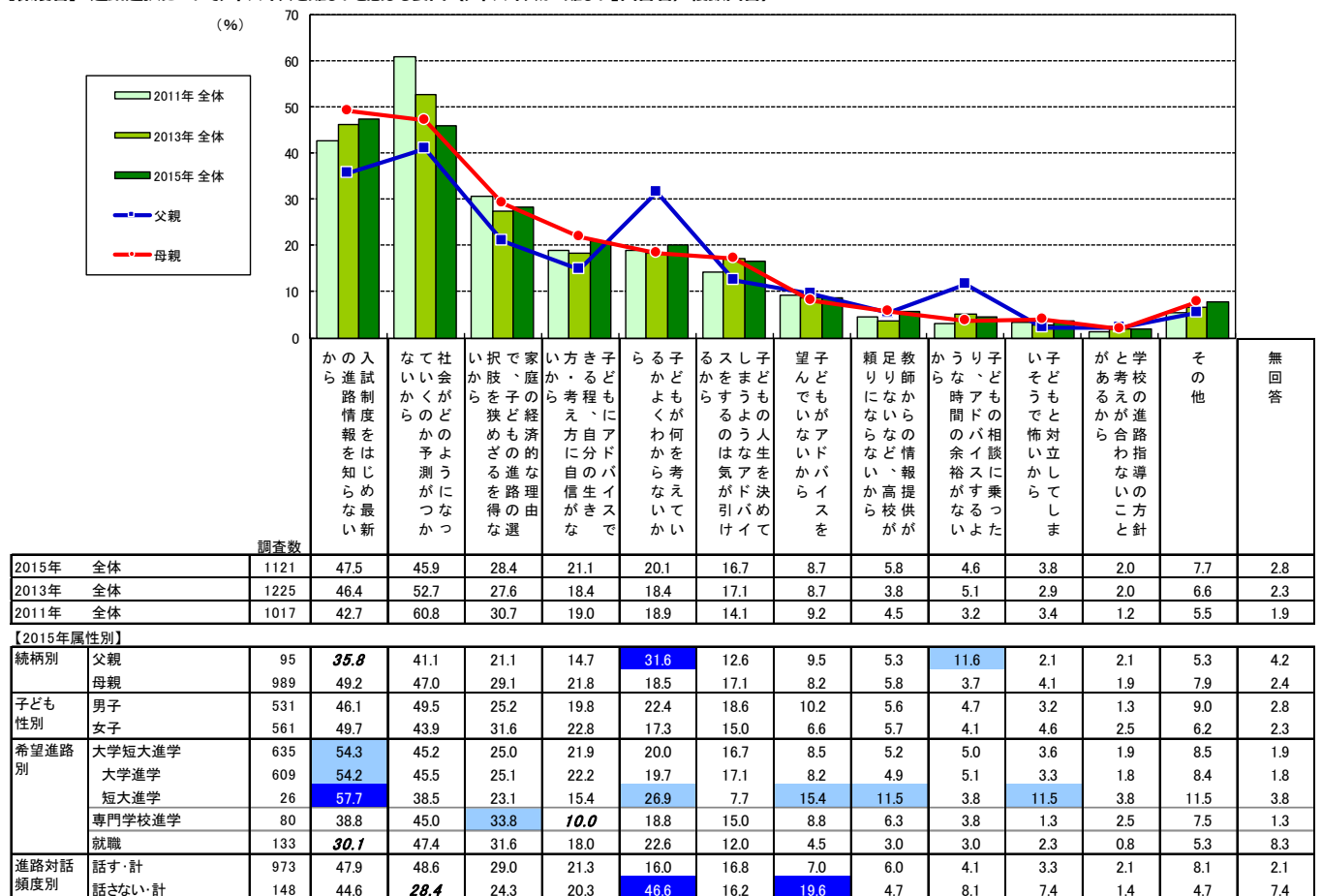
▶ アドバイスが難しい理由のトップは、保護者が「入試制度をはじめ最新の進路情報を知らないから」。

- ① 入試制度をはじめ最新の進路情報を知らないから (48%)
- ② 社会がどのように変わっていくか予測がつかないから (46%)
- ③ 家庭の経済的な理由で、子どもの進路の選択肢を狭めざるを得ないから (28%)
- ④ 子どもにアドバイスできるほど、自分の生き方・考え方に自信がないから (21%)
- ⑤ 子どもが何を考えているかわからないから (20%)

▶ 「社会がどのように変わっていくか」は2011年以降減少、「入試制度」が増加しトップとなった。

- 13ページの子どもの進路選択についてアドバイスが「難しい」と回答した保護者に、その理由をすべて選んでもらった。トップは「入試制度をはじめ最新の進路情報を知らないから」で48%と約半数。過去調査と比較すると、2011年トップだった「社会がどのように変わっていくか予測がつかないから」は減少、2位だった「入試制度をはじめ最新の進路情報を知らないから」は増加が続き、今回順位が入れ替わった。
- 続柄別にみると、父親は母親に比べ「子どもが何を考えているかわからないから」「子どもの相談に乗ったり、アドバイスするような時間の余裕がないから」が相対的に高く、意思疎通ができないことを難しい理由としている。
- 進路対話頻度別にみると、話さない層は話す層に比べて「子どもが何を考えているかわからない」「子どもがアドバイスを望んでいない」のスコアが高く、子どもとの関係性の希薄さがアドバイスの難しさの要因となっている。

【保護者】 進路選択についてアドバイスを難しいと感じる要因（アドバイスが「難しい」回答者／複数回答）



※「2015年全体」降順ソート

※【2015年属性別】

10 「2015年全体」より10ポイント以上高い

5 「2015年全体」より5ポイント以上高い

-10 「2015年全体」より10ポイント以上低い

Hh_Q05_SQ1

<フリーコメント> 進路選択についての心配や気がかり【保護者】

○ 入試制度がよくわからず子供任せになっているので、心配
[三重県/母親/女子]

○ 私が専門学校出身なので大学の事について、アドバイスが出来ない。
わからない。[福岡県/母親/女子]

○ 将来、やりたい事がまだはっきり決まっていなくて、それについて
進路が定まっていなくて事[北海道/母親/男子]

○ 子供の自覚、選択などにまかせてやりたいと思う反面大人として経験
してきた事等を参考にしてみたいと思うので少し押しつけた考えを
してしまいそうになる[三重県/母親/男子]

○ 子供の将来の目標が見えない。自分自身(保護者)に知識がないの
でアドバイスして正しいのかどうかかわからない。[兵庫県/母親/女子]

○ 社会情性が変化がはげしく先が読めない[群馬県/母親/女子]

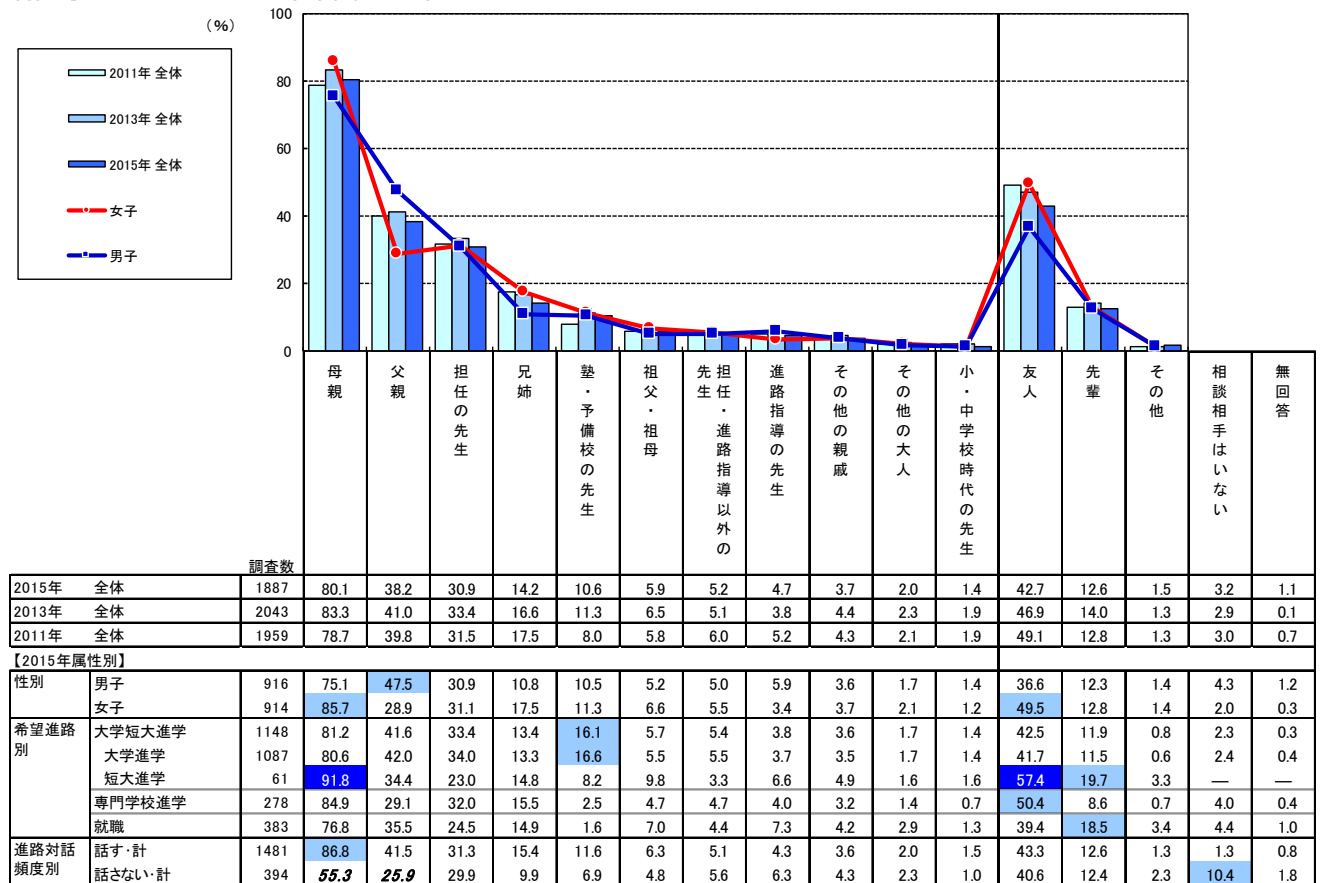
8.進路選択についての相談相手

▶ 高校生が進路を考えるうえで相談する相手は、「母親」が突出。

- ①母親 (80%)
- ②友人 (43%)
- ③父親 (38%)
- ④担任の先生 (31%)
- ⑤兄弟 (14%)

- 高校生に進路を考えるうえで相談する人すべてを尋ねた。トップは「母親」で突出。過去調査と同様、8割に達する。
- 性別にみると、男女とも「母親」がトップ。2位に男子は「父親」、女子は「友人」が続く。
- 希望進路別にみると、いずれの進路とも「母親」がトップ。大学短大進学は他進路希望者に比べ「担任の先生」「塾・予備校の先生」のスコアが高く、相談相手が幅広い。
- 高校生に一番の相談相手についてその理由を書いてもらったところ、「母親」は会話・相談の頻度が高く自分を理解してくれているという“親近感”、「父親」は冷静な判断や的確な答えなどに対する“信頼感”があることがうかがえる。また、「友人」は、同じ状況・立場などの“仲間意識”から、話しやすさ・理解・励みを感じているようだ。
→フリーコメントは17ページに掲載

【高校生】進路についての相談相手（全体／複数回答）



※「2015年全体」降順ソート

※【2015年属性別】

10 「2015年全体」より10ポイント以上高い

5 「2015年全体」より5ポイント以上高い

-10 「2015年全体」より10ポイント以上低い

Kh_Q10

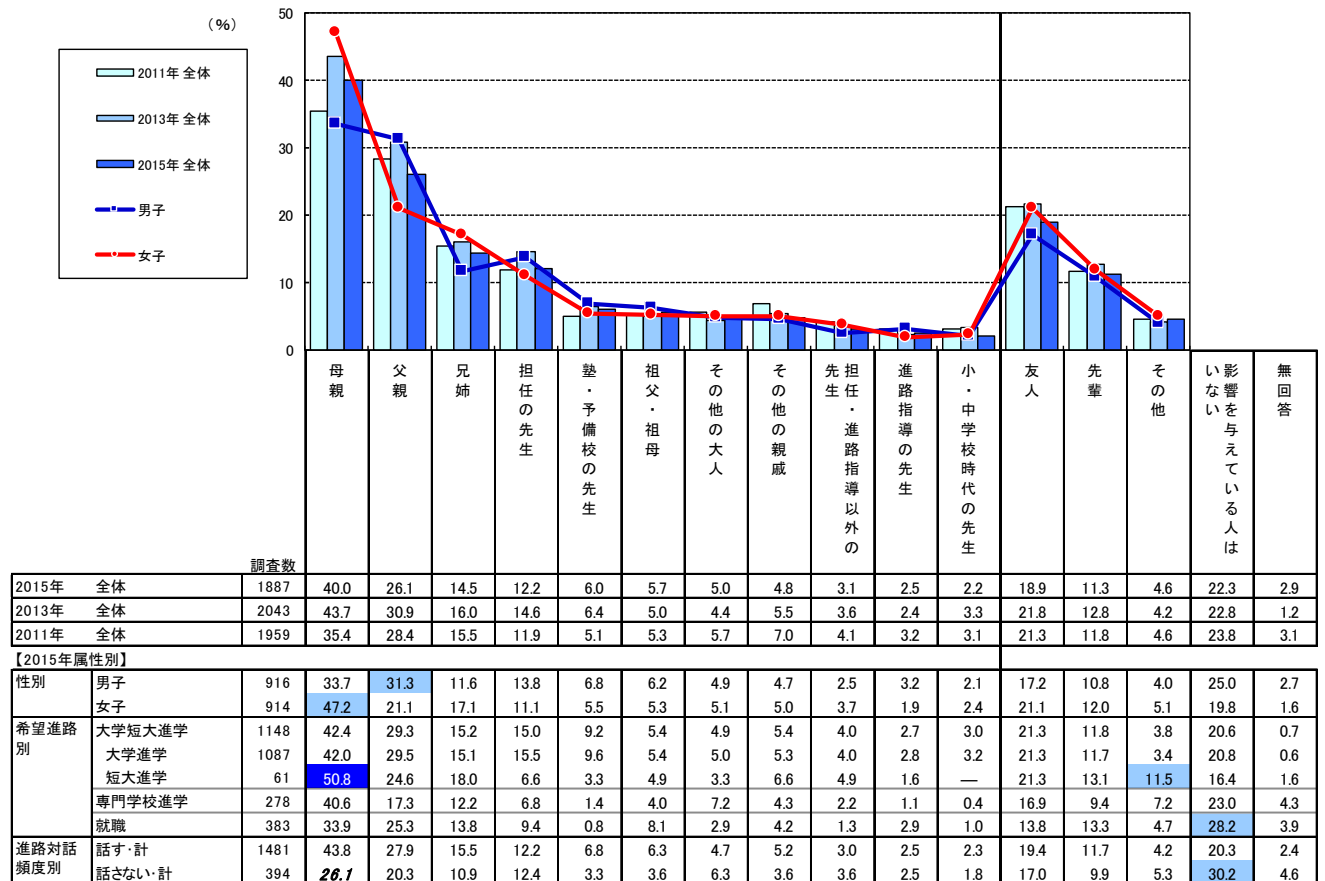
9.進路選択について影響を受ける人物

▶ 高校生が進路を考えるうえで影響を受ける相手も、「母親」がトップ。

- ①母親 (40%)
- ②父親 (26%)
- ③友人 (19%)
- ④兄弟 (15%)
- ⑤担任の先生 (12%)

- 進路を考えるうえで高校生に影響を与えている人すべてを尋ねた。相談相手と同様、「母親」がトップ。過去調査と比較して上位の顔ぶれは変わらない。
- 性別にみると、男女とも「母親」がトップ。男子は「父親」のスコアが比較的高い。
- 希望進路別にみると、いずれの進路とも「母親」がトップ。
- 進路対話頻度別にみると、話さない層で「影響を与えている人はいない」が比較的高く、ひとりで進路を考える高校生が多い。
- 高校生にいちばん影響を受ける相手についてその理由を書いてもらったところ、「母親」「父親」とともに相談の頻度や進路の話をする機会が多いことが理由。さらに、仕事の話やそれに向き合う姿も影響を受ける要因となっている。また「友人」については、進路選択において同じ立場であり、刺激し合う良い関係にあることがうかがえる。
→フリーコメントは17ページに掲載

【高校生】 進路を考えるうえで（高校生に対して）影響を与えている人（全体／複数回答）



※「2015年全体」降順ソート

※【2015年属性別】 10 「2015年全体」より10ポイント以上高い

5 「2015年全体」より5ポイント以上高い

-10 「2015年全体」より10ポイント以上低い

Kh_Q11

＜フリーコメント＞ 進路選択について一番の相談相手、その理由【高校生】

■母親

- 1番真剣に聞いてくれるから。[北海道/男子/大学]
- 一番自分のことを分かってくれているから[三重県/女子/就職]
- 一番長い時間を過ごしてきていて私の気持ちを察してくれるから。
[福岡県/女子/大学]
- 最もよく話す相手で、自分のことをよく知る理解者だから。
[福岡県/男子/大学]
- 普段から、よくコミュニケーションをとるから[北海道/女子/就職]

■友人

- 一番同じ状況にいて気持ちを分かってくれるから。
[兵庫県/女子/大学]
- 自分のいまの目標のことを最も理解しており、信頼できるから。
[兵庫県/男子/大学]
- 同じ立場で話せて気が楽だから。[広島県/女子/大学]
- 目指すところが同じ人もあるので話しやすいから。
[宮城県/男子/専門学校]
- お互いの話をしていると頑張ろうと思えるから
[兵庫県/女子/大学]

■父親

- 1番私の進路について調べてくれているから。
[東京都/女子/その他]
- 家族という一番近い人の中で、一番の確な答えが返ってくるから。
[広島県/男子/大学]
- 進路などの情報をよく知っているから。[北海道/男子/大学]
- 冷静に判断をしてくれるから。[広島県/男子/大学]
- 父の人生経験から色々なことを今まで学んできたから。
[福岡県/男子/大学]

■担任の先生

- 学校の成績も含めてアドバイスをしてもらえるから
[福岡県/女子/大学]
- 現在の入試制度もしっかりわかってくれているから
[東京都/女子/大学]
- 進路について一番よく知っていると思うから。[宮城県/女子/大学]

■兄姉

- 1番最近に進路選択を経験しているから[広島県/女子/大学]
- 兄は進学をしているので学校がどんな感じなのかきけるから。
[群馬県/男子/専門学校]
- 姉が専門学校にいらっているいろいろなときけるから
[福岡県/女子/大学]

■先輩

- 自分と同じ大学に受かった先輩からだ頑張る気持ちになるから
[福岡県/男子/大学]
- 大学について1番よく知っている存在だと思うから。
[福井県/女子/大学]
- 同じ過程を通して学んだことなどを教えてくれるから。
[北海道/女子/大学]

■相談相手はいない

- あまり考えないから、相談する必要がない。[群馬県/男子/就職]
- 相談しても変わらないと思うし、信用してない。[群馬県/女子/大学]
- 誰に相談したらいいかわからない。[広島県/女子/大学]

＜フリーコメント＞ 進路選択について一番影響を受ける人物、その理由【高校生】

■母親

- いちばん多くアドバイスをもらっているから。[北海道/男子/大学]
- 一緒によく考えてくれるから[兵庫県/女子/大学]
- 一番身近にいるから[兵庫県/女子/大学]
- 希望する学科や学校についてよく知っているから
[広島県/男子/大学]
- 仕事の話をよくしてくれているから[宮城県/女子/短大]
- 母と同じ職業を目指しているから[広島県/女子/大学]

■父親

- 自身の進路の際の苦労話を聞かせてくれるため
[東京都/男子/大学]
- 自分の意見を聞いてくれたあとにアドバイスしてくれる
[群馬県/男子/大学]
- 進路の話をよく持ち出してくるのが父親だから[兵庫県/男子/就職]
- 働くことの厳しさを教えてくれるように思うから。
[三重県/女子/専門学校]
- 父の職業にあこがれたから。[東京都/女子/大学]
- 父みたいに勉強して大きい場所で働きたい。[群馬県/男子/就職]

■友人

- 何気ない話からも、おもしろそうだなこの仕事ってなるから
[宮城県/男子/就職]
- 自分と同じ、これから進路を選ぶという立場にあるから
[三重県/女子/大学]
- 勉強ができていたり、進路が決まっていたりすると、あせりを感じる。
[群馬県/女子/専門学校]
- 友だちの頑張ってる姿を見ると自分もやる気が出るから。
[福岡県/女子/大学]

■兄姉

- 一番身近で話やすいから[福岡県/女子/大学]
- 自分の進路を決めるのを手助けしてくれるから[群馬県/男子/就職]
- 実際に授験や大学選びをしている身近な人だから
[広島県/女子/大学]
- 大学に行っているから。自分が知っている中で1番最近受験したから。
[広島県/女子/大学]
- 勉強して目標を一つ一つ達成しているから[群馬県/男子/大学]

■担任の先生

- いろいろな面からたくさんの情報を教えてくれるから。
[兵庫県/女子/大学]
- 受験や進路のことをよく知っている。[三重県/女子/大学]
- 進路に関しては担当の先生が最も詳しいから[東京都/男子/大学]
- 大学について親身になって考えてくださったり、教えてくれたりするから。
[宮城県/女子/大学]

■先輩

- 自分の受験期より1年早く、情報が近い(信頼できる。)
[三重県/男子/大学]
- 部活の先輩がよく進路の話をしてくれるから。[兵庫県/男子/就職]

■影響を与える人はいない

- 自分が何をしたいかわからないから。[群馬県/男子/就職]
- 相談するとうるさくなる人ばかりだから[宮城県/男子/就職]
- 誰からも影響されていない。自分のやりたいことをする。
[福岡県/男子/大学]

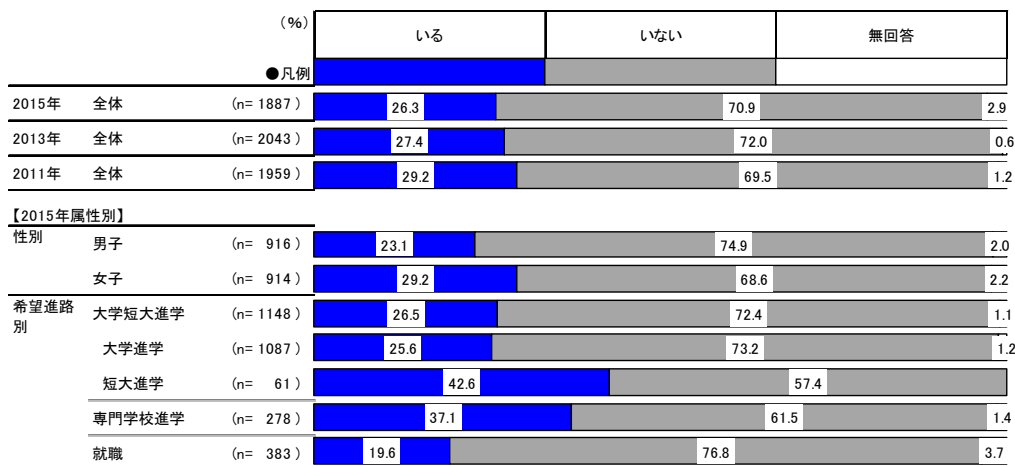
10. 目指している・あこがれている人／その理由

▶ 目指している人やあこがれている人が「いる」高校生は26%。

▶ 目指している人物として、「父親」は16%、「母親」は15%。

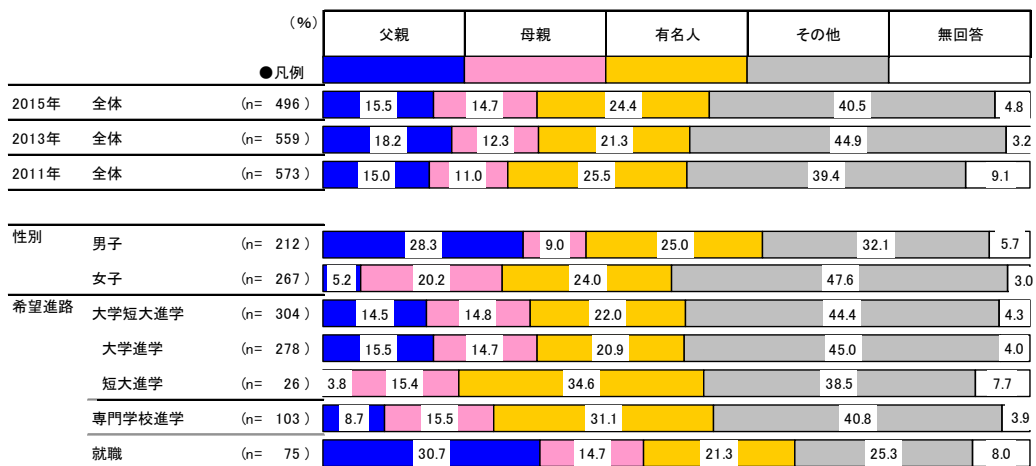
- 高校生に目指す人・あこがれる人はいるか尋ねたところ、「いる」は26%。過去調査と比較すると2011年から減少傾向がみられる。
- 目指す人・あこがれる人がいる高校生にその対象を選んでもらった。「有名人」が最も多く24%。ついで「父親」(16%)、「母親」(15%)。
- 性別にみると、男子は「父親」、女子は「母親」の割合が多く、同性の親を理想とする傾向がみられる。

【高校生】 目指している・憧れている人はいるか（全体／単一回答）



Kh_Q18

【高校生】 目指している・憧れている人（目指している人「いる」回答者／単一回答）



Kh_Q18_SQ1

<フリーコメント> 目指している・あこがれている理由【高校生】

■父親

- いろんな事を知っているし、自分で経営してるからあこがれている。
[東京都/女子/就職]
- しっかり家族を支えてくれていてあこがれる[群馬県/男子/大学]
- 安定した仕事について、働いているから。[広島県/女子/大学]

※有名人

「ウォルト・ディズニー」「櫻井翔」「浅田真央」、その他:声優、スポーツ選手、ミュージシャン、タレントなど

※その他

「兄」「姉」など兄弟・親戚、「先生」「先輩」、就きたい職業の人物など

■母親

- いつも笑顔で毎日を生き生きとすごしているから。
[兵庫県/女子/大学]
- 私が目指す職業に似た方面の仕事に就いているから。
[兵庫県/女子/大学]
- 人を思いやる気持ちを忘れずに人に接しているから
[宮城県/女子/専門学校]

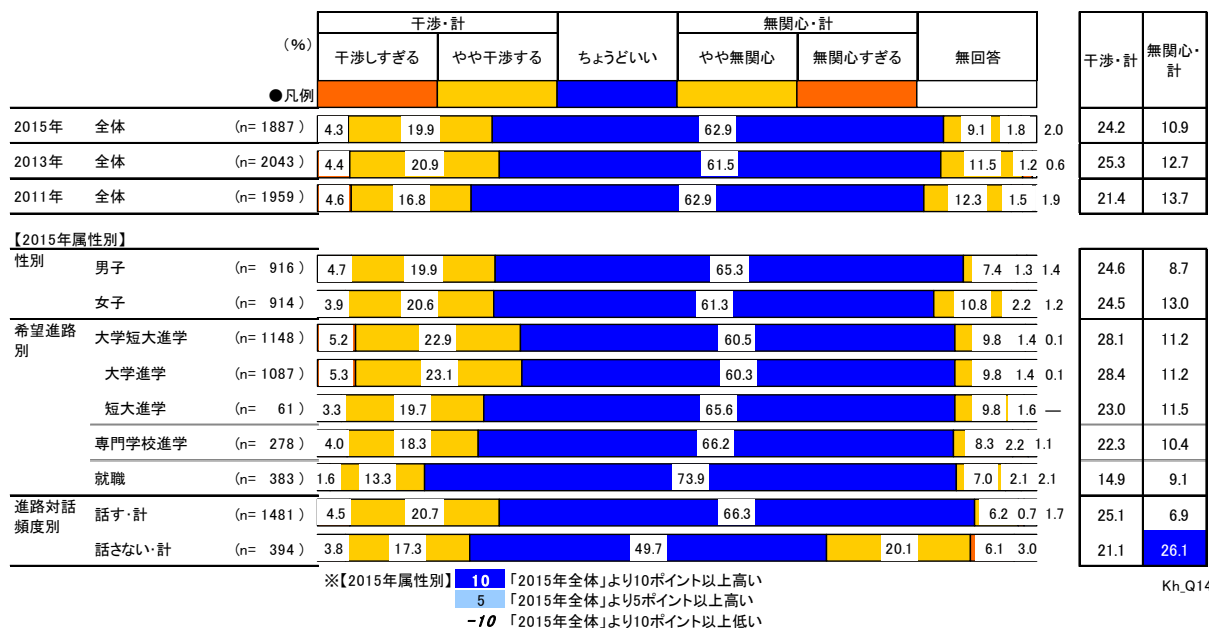
11.進路選択について保護者が取る態度

▶進路選択に関する保護者の態度が「ちょうどいい」と感じている高校生は63%。

▶「干渉」と感じるのは24%、「無関心」は11%。

- 進路選択に関する保護者の態度を高校生はどのように感じているか尋ねた。「ちょうどいい」が最も多く63%と過半数を占める。「干渉しすぎる」「やや干渉する」の合計は24%(干渉・計)、「無関心すぎる」「やや無関心」の合計は11%(無関心・計)。
- 性別にみると、男子は女子に比べて「ちょうどいい」と感じる割合がやや高く、女子は男子よりも「無関心・計」と感じる割合が相対的に高い。
- 希望進路別にみると、「ちょうどいい」と感じる割合は大学短大進学希望者(61%)に比べて、就職希望者(74%)が相対的に高い。大学短大進学希望者では「干渉・計」が3割と、専門学校進学・就職希望者に比べ、干渉的と感じる割合がやや高い。
- 進路対話頻度別にみると、話をする層の方が「ちょうどいい」が多く、話さない層の方が「無関心・計」が多い。

【高校生】 進路選択に関する保護者の態度（全体／単一回答）



12. 保護者の行動・態度

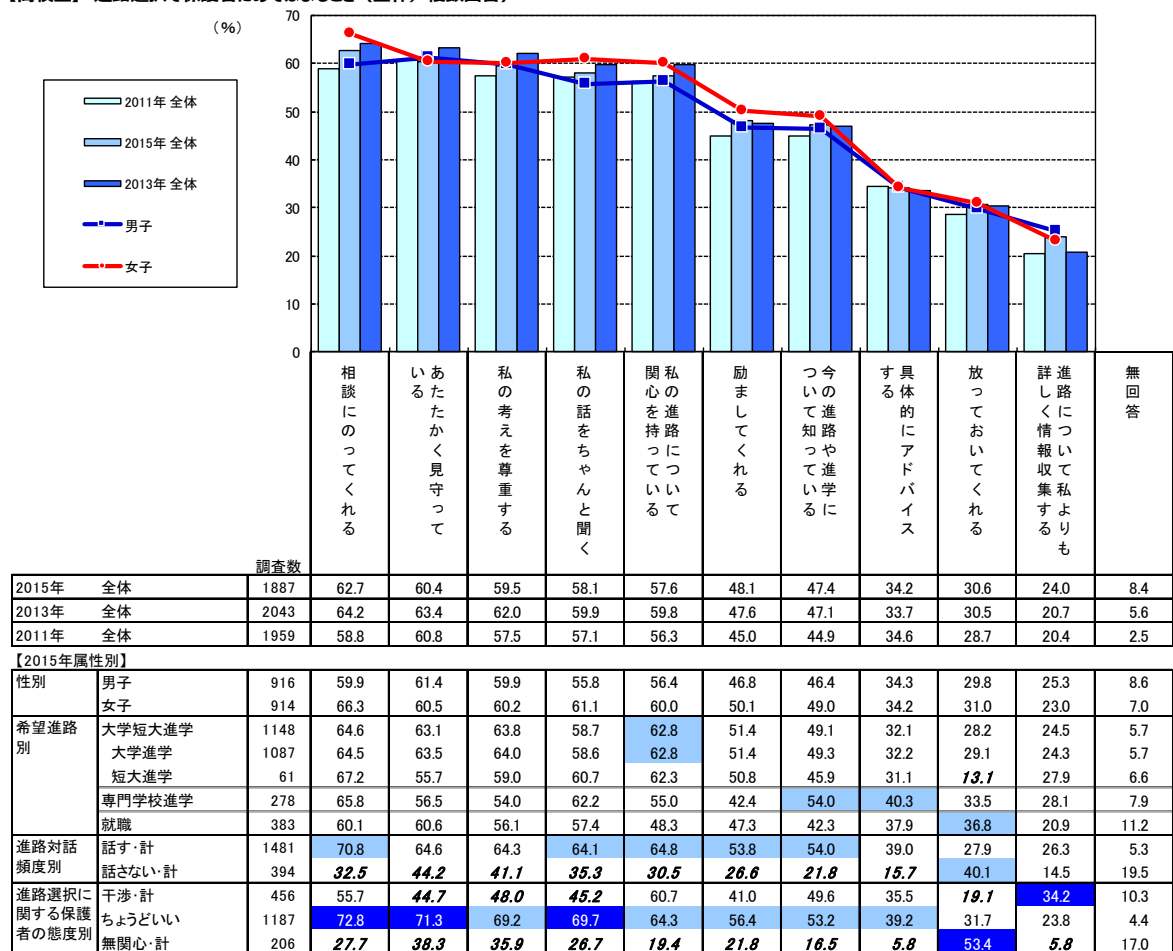
▶ 進路選択での保護者の行動・態度は「相談にのってくれる」がトップ。ついで「あたたかく見守っている」。

- ① 相談にのってくれる (63%)
- ② あたたかく見守っている (60%)
- ③ 私の考えを尊重する (60%)
- ④ 私の話をちゃんと聞く (58%)
- ⑤ 私の進路について関心をもっている (58%)

▶ 進路についてよく話をする高校生ほど、保護者に相談にのってもらっている実感が強い。

- 進路選択に関する保護者の行動・態度を呈示し、自分の保護者に当てはまるものすべてを高校生に選んでもらったところ、「相談にのってくれる」がトップ。過去調査と上位の顔ぶれは変わらない。
- 性別にみると、男子は「あたたかく見守っている」、女子は「相談にのってくれる」がトップ。女子は男子に比べて「相談にのってくれる」「私の話をちゃんと聞く」などのスコアが高く、保護者との対話が進んでいる。
- 進路対話頻度別にみると、話をする層のほうが「放っておいてくれる」を除く項目のスコアが高く、保護者は幅広い行動・態度で高校生の進路選択に関与していることがうかがえる。
- 進路選択に関する保護者の態度別（19ページの回答別）にみると、保護者の態度が「ちょうどいい」層では「相談にのってくれる」「あたたかく見守っている」「私の話をちゃんと聞く」「私の考えを尊重する」が7割であり、他層に比べて高い。「干渉」層は「進路について私よりも詳しく情報収集する」、「無関心」層では「放っておいてくれる」のスコアが他層に比べて高い。

【高校生】 進路選択で保護者にあてはまること（全体／複数回答）



※ 「2015年全体」降順ソート

※【2015年属性別】 10 「2015年全体」より10ポイント以上高い
5 「2015年全体」より5ポイント以上高い
-10 「2015年全体」より10ポイント以上低い

Kh_Q12_SQ1

13. 保護者にしてほしい行動・態度

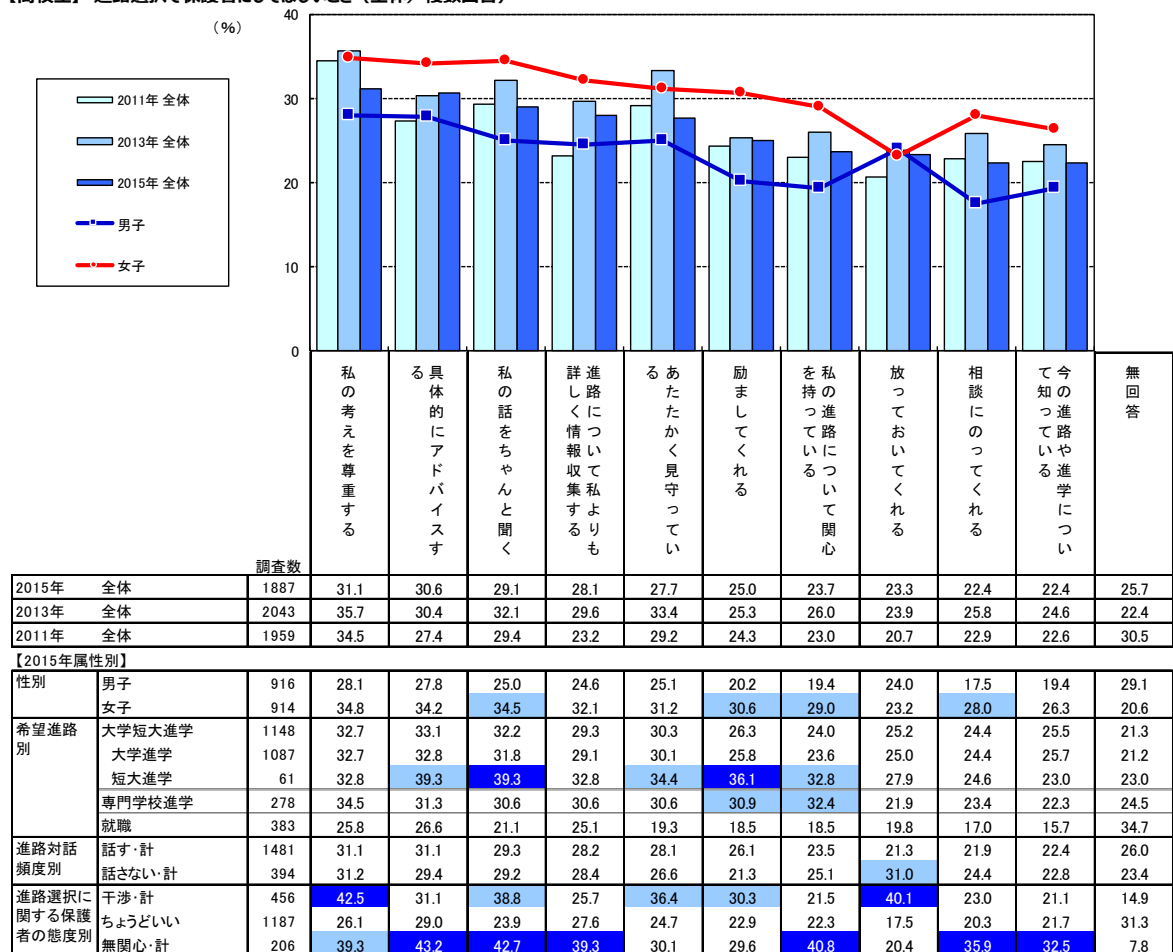
▶ 進路選択で保護者にしてほしい行動・態度は、「私の考えを尊重する」がトップ。

- ① 私の考えを尊重する (31%)
- ② 具体的にアドバイスする (31%)
- ② 私の話をちゃんと聞く (29%)
- ④ 進路について私よりも詳しく情報収集する (28%)
- ⑤ あたたく見守っている (28%)

▶ 進路選択に関して保護者が干渉的と感じている高校生は「考えを尊重」「放っておいてくれる」など自主性を保つ距離感を、無関心と感じている高校生は「アドバイスする」「話をちゃんと聞く」「情報収集する」など積極的な関与をそれぞれ希望している。

- 20ページと同じ選択肢を用い、保護者に望む行動・態度を高校生に選んでもらったところ「私の考えを尊重する」がトップ。過去調査と比較すると、上位の項目のうち「私の考えを尊重する」「あたたく見守っている」「私の話をちゃんと聞く」は前回調査からスコアが減少した。
- 性別にみると、「放っておいてくれる」を除き女子のスコアが男子より高く、女子は保護者への要望が幅広い。
- 進路対話頻度別にみると、話さない層は話す層に比べて「放っておいてくれる」が高く、保護者の関与への反発がみられる。
- 進路選択に関する保護者の態度別にみると、「干渉」層では「私の考えを尊重する」「放っておいてくれる」のスコアが他層に比べ高い。一方、「無関心」層では「具体的にアドバイスする」「私の話をちゃんと聞く」「進路について私よりも詳しく情報収集する」「私の進路について関心をもっている」「相談にのってくれる」「今の進路や進学について知っている」などが相対的に高く、保護者の積極的な関与を希望している。

【高校生】 進路選択で保護者にしてほしいこと（全体／複数回答）



※「2015年全体」降順ソート

※【2015年属性別】 10 「2015年全体」より10ポイント以上高い

5 「2015年全体」より5ポイント以上高い

-10 「2015年全体」より10ポイント以上低い

Kh_Q12_SQ2

14. 保護者にやめてほしい行動・態度

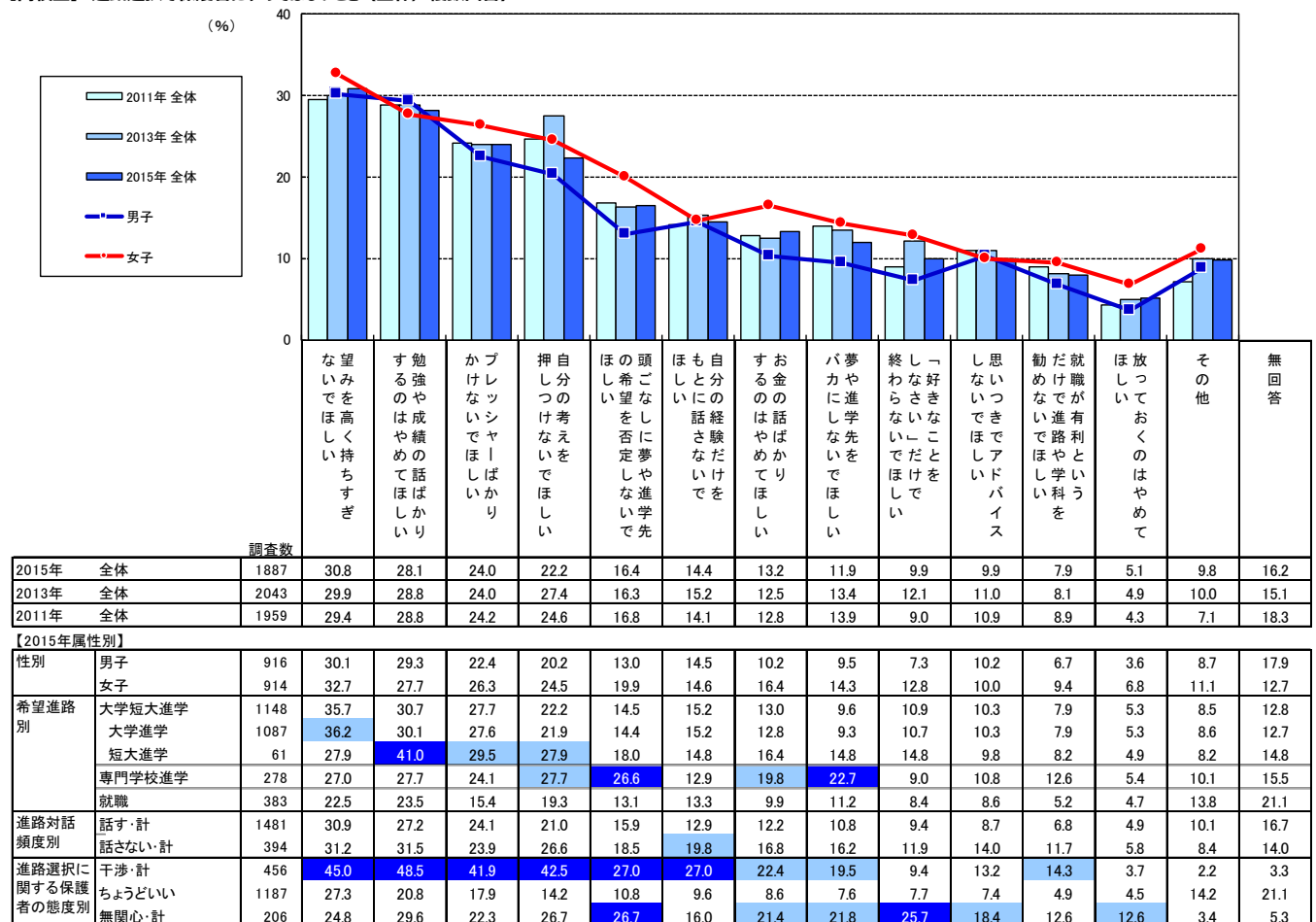
▶ 進路を考えるうえで保護者にやめてほしい行動・態度は「高望み」と「勉強や成績の話」。

- ① 望みを高くもちすぎないでほしい (31%)
- ② 勉強や成績の話ばかりするのはやめてほしい (28%)
- ③ プレッシャーばかりかけないでほしい (24%)
- ④ 自分の考えを押しつけないでほしい (22%)
- ⑤ 頭ごなしに夢や進学先の希望を否定しないでほしい (16%)

▶ 進路選択に関して保護者が干渉的・無関心と感じている高校生は、やめてほしい行動・態度が多い。

- 高校生に進路を考えるうえで保護者にやめてほしい行動・態度を選んでもらった。「望みを高くもちすぎないでほしい」「勉強や成績の話ばかりするのはやめてほしい」が約3割で並ぶ。過去調査の結果と比較して、上位の顔ぶれは変わらない。
- 男女とも上位の顔ぶれは同様。女子は「頭ごなしに夢や進学先の希望を否定しないでほしい」「お金の話ばかりするのはやめて」「好きなことをしなさいだけで終わらないで」のスコアが男子より5ポイント以上高い。
- 進路選択に関する保護者の態度別にみると、「ちょうどいい」層に比べ「干渉」層では「自分の考えを押しつけないで」など過度の関与について、「無関心」層では「好きなことをしなさいだけで終わらないで」「頭ごなしの否定」などの無関心さや無理解についてのスコアが高い。

【高校生】 進路選択で保護者にやめてほしいこと（全体／複数回答）



※「2015年全体」降順ソート

※【2015年属性別】

10 「2015年全体」より10ポイント以上高い
 5 「2015年全体」より5ポイント以上高い
 -10 「2015年全体」より10ポイント以上低い

Kh_Q13

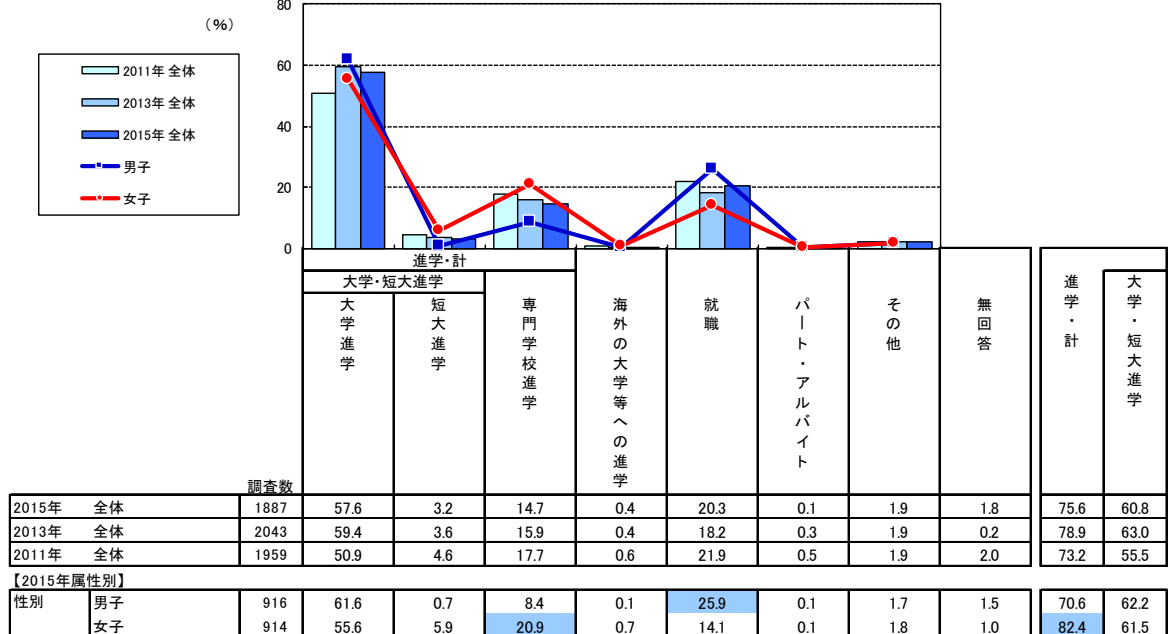
Ⅱ 進路・将来にまつわる考え

15. 高校卒業後の希望進路

- ▶ 高校卒業後の希望進路は、大学進学58%、短大進学3%、専門学校進学15%、就職20%。
 ▶ 保護者が子どもに希望する進路は、大学進学49%、短大進学3%、専門学校進学8%、就職14%。
 「子どもが希望する進路ならなんでもいい」が24%を占める。

- 高校生に高校卒業後の希望進路を尋ねたところ、「大学進学」が58%、「短大進学」が3%、「専門進学」が15%、「就職」20%であった。
 ● 同様に、保護者に対してお子さんにはどのような進路を進んでほしいか尋ねたところ、「大学進学」が49%、「短大進学」が3%、「専門学校進学」が8%、「就職」が14%であり、「子どもが希望する進路ならなんでもいい」が24%を占めた。

【高校生】 高校卒業後の希望進路（全体／単一回答）



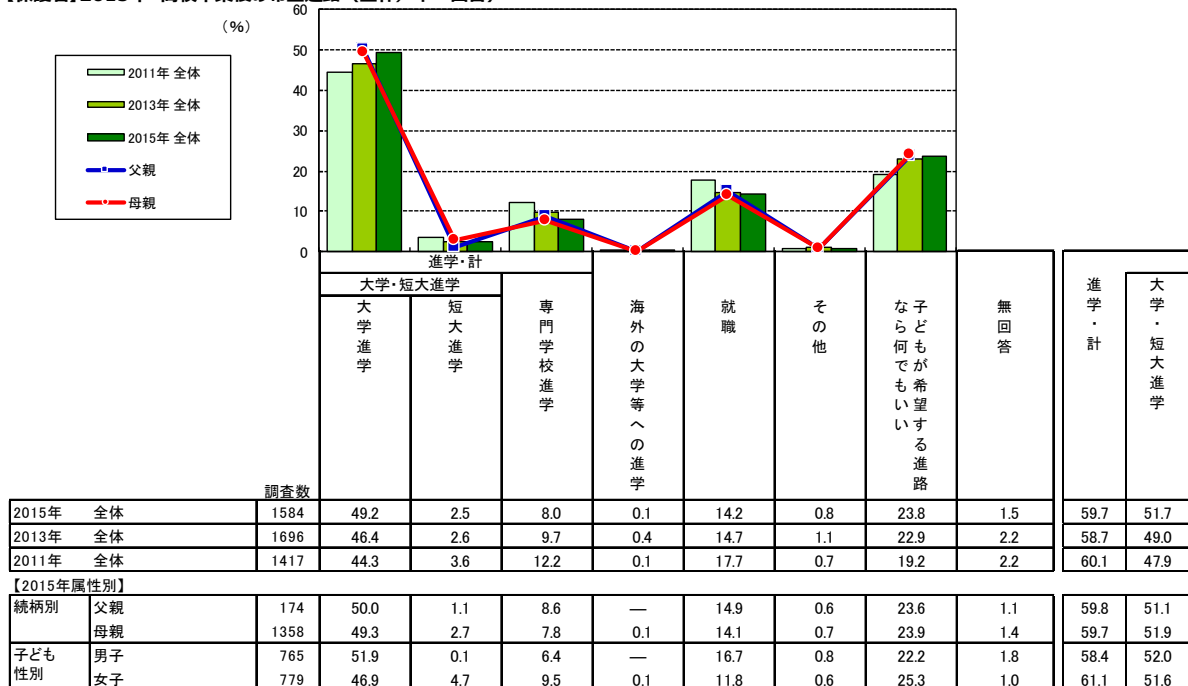
※【2015年属性別】 10 「2015年全体」より10ポイント以上高い

5 「2015年全体」より5ポイント以上高い

-10 「2015年全体」より10ポイント以上低い

Kh_Q15

【保護者】2015年 高校卒業後の希望進路（全体／単一回答）



※【2015年属性別】 10 「2015年全体」より10ポイント以上高い

5 「2015年全体」より5ポイント以上高い

-10 「2015年全体」より10ポイント以上低い

Hh_Q10

16. 進路についての価値観

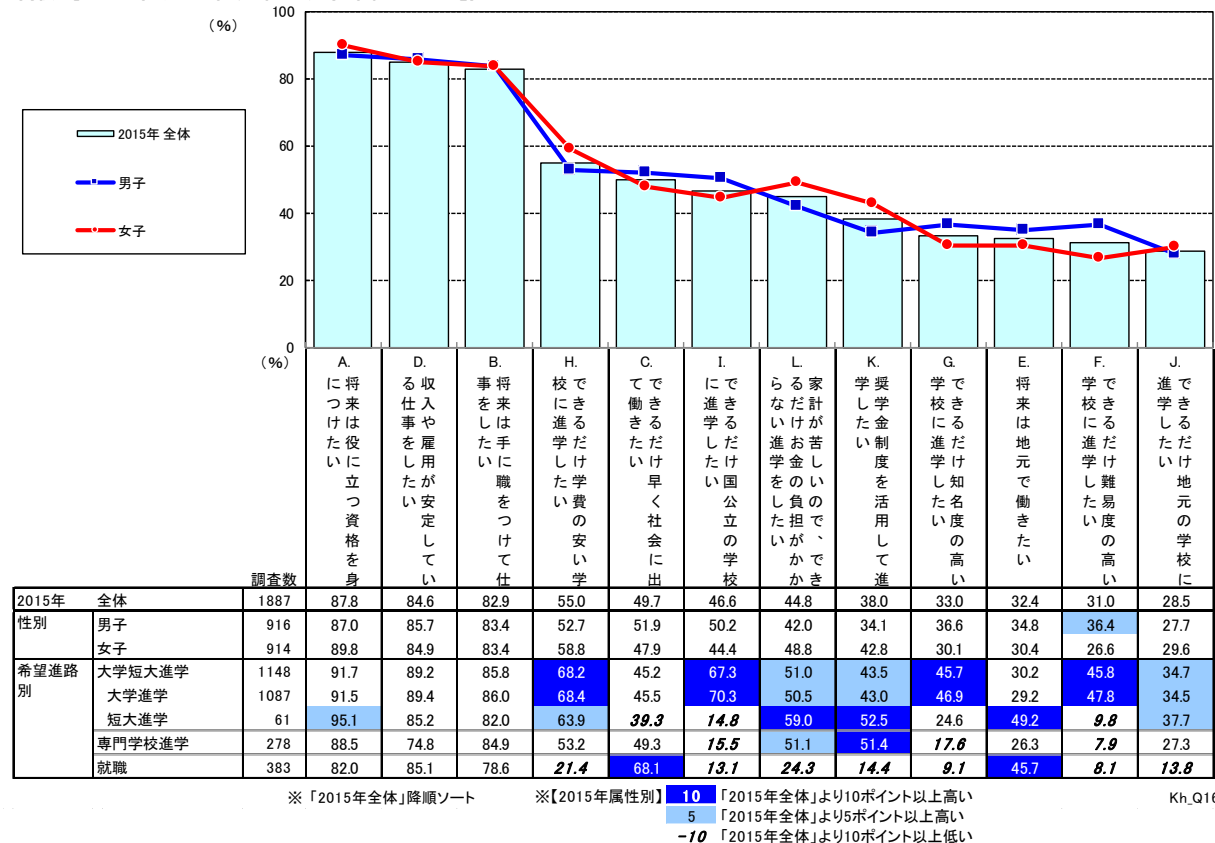
▶ 進路について思うことは

- ① 将来は役に立つ資格を身につけたい (88%)
- ② 収入や雇用が安定している仕事をしたい (85%)
- ③ 将来は手に職をつけて仕事をしたい (83%)
- ④ できるだけ学費の安い学校に進学したい (55%)
- ⑤ できるだけ早く社会に出て働きたい (50%)

▶ 資格・安定・手に職など、仕事に関する3項目が突出。

- 高校生と保護者に、進路に関する価値観12項目についてそれぞれどう思うか尋ねた。高校生の「とてもそう思う」「まあそう思う」合計値が高い項目は上記のとおり。
- 性別にみると、男女とも上位の顔ぶれは同様。男子は、「できるだけ難易度の高い学校に進学したい」が女子に比べ高い。一方女子は「できるだけ学費の安い学校に進学したい」「奨学金制度を活用して進学したい」「家計が苦しいので、できるだけお金の負担がかからない進学をしたい」のスコアが男子に比べ高く、学費を心配している様子がうかがわれる。
- 希望進路別にみると、いずれの進路希望者も上位3項目の顔ぶれは同様。大学短大進学希望者は「学費の安い学校」「国公立の学校」「知名度の高い学校」「難易度の高い学校」など、学校に関する項目を重視している。就職希望者は「早く社会に出て働きたい」「将来は地元で働きたい」の重視度が高い。

【高校生】2015年 進路に関する価値観（全体／「思う・計」）



Kh.Q16

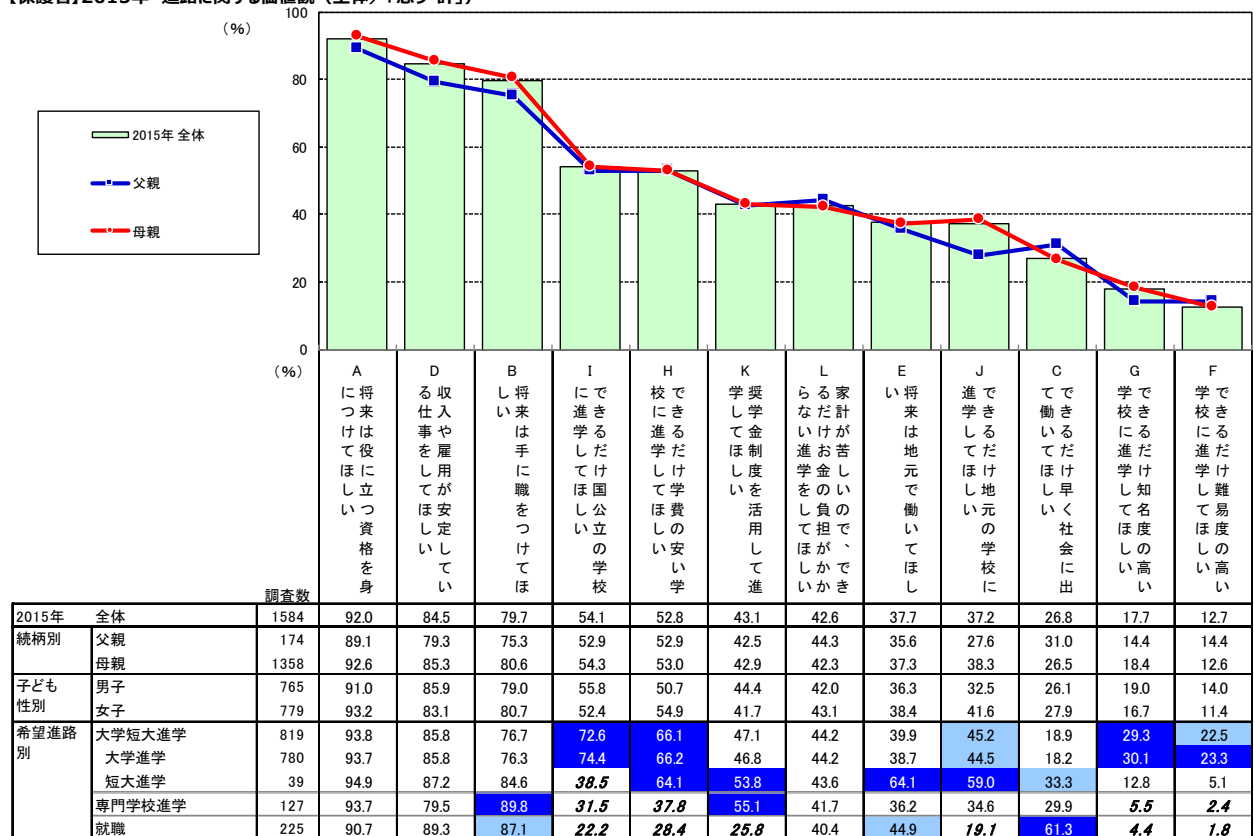
▶ 子どもの進路について思うことは

- ① 将来は役に立つ資格を身につけてほしい (92%)
- ② 収入や雇用が安定している仕事をしてほしい (85%)
- ③ 将来は手に職をつけてほしい (80%)
- ④ できるだけ国公立の学校に進学してほしい (54%)
- ⑤ できるだけ学費の安い学校に進学してほしい (53%)

▶ 高校生と同じく資格・安定・手に職など、仕事に関する3項目が突出。

- 同じく、保護者に進路に関する価値観12項目についてそれぞれどう思うか尋ねたところ、「とてもそう思う」「まあそう思う」合計値が高い項目は上記のとおり。
- 保護者の続柄別にみると、上位3項目はいずれも父親に比べて母親のスコアが高く、母親がより安定志向が強いことがうかがわれる。
- 性別にみると、女子は男子に比べて、「できるだけ地元の学校に進学してほしい」が高い他、「将来は地元で働いてほしい」も若干ではあるが高、地元志向がみられる。
- 希望進路別にみると、いずれの進路希望者も上位3項目の顔ぶれは同様。大学短大進学希望者は「学費の安い学校」「国公立の学校」「知名度の高い学校」「難易度の高い学校」など、学校に関する項目を重視している。就職希望者は「将来は手に職をつけてほしい」「将来は地元で働きたい」「早く社会に出て働いてほしい」の重視度が高い。

【保護者】2015年 進路に関する価値観（全体／「思う・計」）



※「2015年全体」降順ソート

 ※【2015年属性別】
 10 「2015年全体」より10ポイント以上高い
 5 「2015年全体」より5ポイント以上高い
 -10 「2015年全体」より10ポイント以上低い

Hh_Q08

17. 将来就きたい・就いてほしい職業／その理由

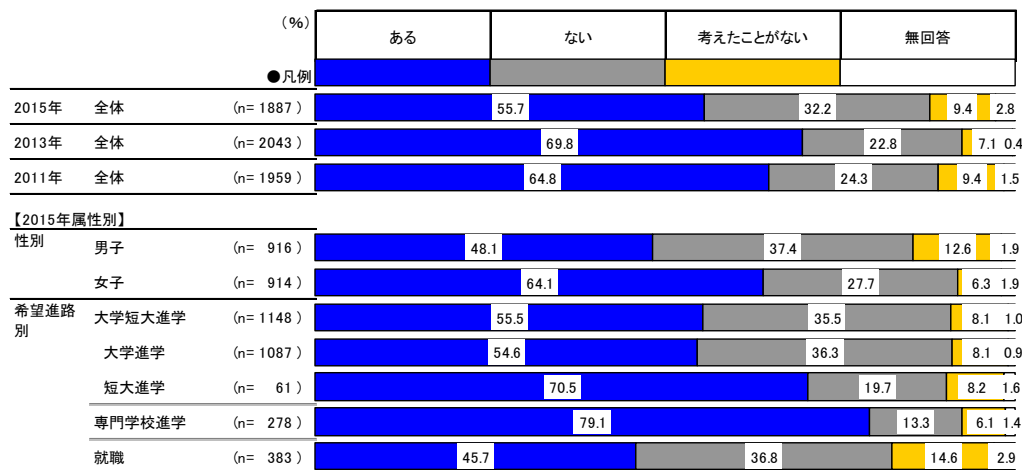
1) 高校生が将来就きたい職業

▶ 高校生の56%が就きたい職業が「ある」。

▶ 就きたい職業のトップは「教師」。以下「公務員」「看護師」など国家資格が必要な職業が上位。
男子は「公務員」「教師」「製造業」、女子は「看護師」「保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連」「教師」が人気。

- 高校生に将来就きたい職業はあるか尋ねたところ、「ある」が56%と過半数を占める。
- 性別にみると、女子で「ある」が64%と男子(48%)を大きく上回り、女子の多くが将来就きたい職業を決めている。
- 具体的に就きたい職業は、「教師」が最も多く、「公務員」「看護師」「製造業(自動車・造船など)」が続く。
- 男子は、「公務員」が最も高い。以下「教師」「製造業(自動車・造船など)」「建築士・建築関連」。
- 女子は、「看護師」が最も高い。以下「保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連」「教師」「俳優・アイドル・ミュージシャン・声優・芸能関連」。

【高校生】将来、就きたい職業があるか（全体／単一回答）



Kh_Q21

【高校生】就きたい職業ランキング（就きたい職業回答者／自由回答）（%）

全体		
2015年		
順位	職業	(n= 992)
1	教師	8.6
2	公務員	8.3
3	看護師	7.3
4	製造業(自動車・造船など)	6.5
5	保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連	5.9
6	建築士・建築関連	4.3
7	薬剤師	3.3
	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ	3.3
	俳優・アイドル・ミュージシャン・声優・芸能関連	3.3
10	美容師・理容師・ヘアメイクアーティスト・エステティシャン・美容関連	3.2
11	管理栄養士・栄養士	2.6
12	調理師・シェフ・パティシエ・フード関連	2.5
	技術者・研究者	2.5
14	会社員	2.3
15	社会福祉士・介護福祉士・福祉関連	2.1
	空港職員・航空関連	2.1
	エンジニア・プログラマー・IT関連	2.1
18	ファッションデザイナー・スタイリスト・アパレル	2.0
19	放射線技師・臨床検査技師	1.9
	画家・イラストレーター・アニメーター・CGデザイナー・芸術・ゲーム関連	1.9
	トリマー・動物関連	1.9

男子		
2015年		
順位	職業	(n= 407)
1	公務員	15.5
2	教師	11.3
	製造業(自動車・造船など)	11.3
4	建築士・建築関連	9.3
5	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ	4.4
	エンジニア・プログラマー・IT関連	4.4
7	技術者・研究者	3.9
8	画家・イラストレーター・アニメーター・CGデザイナー・芸術・ゲーム関連	3.2
9	調理師・シェフ・パティシエ・フード関連	2.7
10	薬剤師	2.0
	美容師・理容師・ヘアメイクアーティスト・エステティシャン・美容関連	2.0
	会社員	2.0

女子		
2015年		
順位	職業	(n= 565)
1	看護師	11.5
2	保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連	9.6
3	教師	6.7
4	俳優・アイドル・ミュージシャン・声優・芸能関連	4.6
5	薬剤師	4.4
	管理栄養士・栄養士	4.4
7	美容師・理容師・ヘアメイクアーティスト・エステティシャン・美容関連	4.2
8	公務員	3.2
	空港職員・航空関連	3.2
	ファッションデザイナー・スタイリスト・アパレル	3.2

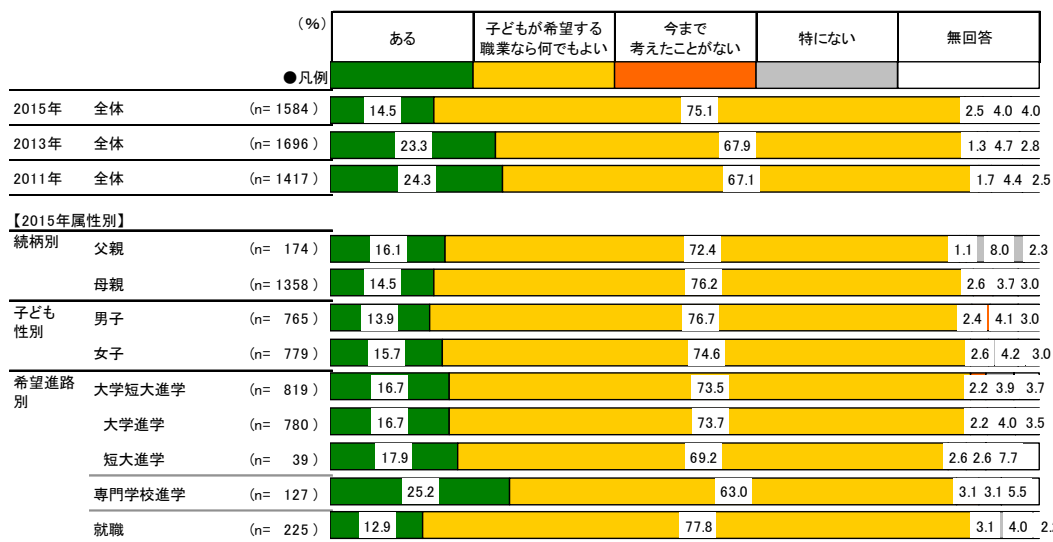
Kh_Q21SQ1

2) 保護者が子どもに将来就いてほしい職業

- ▶ 保護者の15%が子どもに就いてほしい職業が「ある」。75%が「子どもが希望する職業なら何でもよい」。
- ▶ 就いてほしい職業は「公務員」が突出。以下「看護師」「医療事務・医療関連」「教師」「理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ」など雇用が安定した職業や医療系の職種が上位。

- 保護者に子どもに将来就いてほしい職業はあるか尋ねたところ、「子どもが希望する職業なら何でもよい」(75%)が4分の3を占める。就いてほしい職業が「ある」は15%。
- 具体的に就いてほしい職業を尋ねたところ、「公務員」が突出。ついで「看護師」「医療事務・医療関連」「教師」「理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ」が続く。
- 子どもが男子の場合、「公務員」が突出。「医療事務・医療関連」「教師」「理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ」「放射線技師・臨床検査技師」が続く。
女子の場合は、「看護師」「公務員」が突出。ついで「医療事務・医療関連」「教師」「薬剤師」「保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連」が続く。

【保護者】2015年 将来、子どもに就いて欲しい職業はあるか（全体／単一回答）



Hh_Q17

【保護者】就いてほしい職業ランキング(就いてほしい職業回答者／自由回答) (%)

全体		
2015年		
順位	職業	(n= 212)
1	公務員	27.4
2	看護師	12.7
3	医療関連全般	9.4
4	教師	8.5
5	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ	5.2
6	放射線技師・臨床検査技師	4.7
7	薬剤師	4.2
8	保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連	3.3
	医師・歯科医師・獣医	3.3
	社会福祉士・介護福祉士・福祉関連	3.3
11	製造業(自動車・造船など)	2.8
	会社員	2.8
13	管理栄養士・栄養士	1.9
	技術者・研究者	1.9
15	弁護士・裁判官・法律関係	1.4
	会計士・税理士・行政書士	1.4
	トリマー・動物関連	1.4
18	歯科衛生士	0.9
	保健師	0.9
	整体師・マッサージ師・柔道整復師	0.9
	建築士・建築関連	0.9
	調理師・シェフ・パティシエ・フード関連	0.9
	店員・テーマパーク・サービス関連	0.9

子ども性別: 男子		
2015年		
順位	職業	(n= 100)
1	公務員	40.0
2	医療関連全般	10.0
3	教師	9.0
4	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ	8.0
5	医師・歯科医師・獣医	5.0
	放射線技師・臨床検査技師	5.0
7	製造業(自動車・造船など)	4.0
8	社会福祉士・介護福祉士・福祉関連	3.0
	技術者・研究者	3.0
10	弁護士・裁判官・法律関係	2.0
	会計士・税理士・行政書士	2.0
	薬剤師	2.0
	建築士・建築関連	2.0
	会社員	2.0

子ども性別: 女子		
2015年		
順位	職業	(n= 111)
1	看護師	23.4
2	公務員	16.2
3	医療関連全般	9.0
4	教師	8.1
5	保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連	6.3
	薬剤師	6.3
7	放射線技師・臨床検査技師	4.5
8	管理栄養士・栄養士	3.6
	社会福祉士・介護福祉士・福祉関連	3.6
	会社員	3.6

Hh_Q17SQ1全体

＜フリーコメント＞ 将来就きたい職業の理由【高校生】

■教師

- 数学が好きで、人に教えて理解してもらえたときに凄く嬉しいから
[広島県／女子／大学]
- 小さい子が好きで、勉強を教えることも好きだから。
[三重県／女子／大学]
- 多くの子どもたちの夢を叶える手助けをしたい
[兵庫県／男子／大学]
- 今まで見てきて憧れたから[広島県／男子／大学]
- 中学校の頃の先生が良い人だった、小さい子が好きだから
[兵庫県／女子／大学]

■公務員(国家・地方、警察・消防・自衛官)

- 給料が安定しており、地元で働くことも可能だから
[福岡県／女子／大学]
- 自分の町の町づくりに携わりたいから[宮城県／女子／就職]
- 警察にあこがれているが文武をしたことがないけど関わる仕事をした
いから。[福井県／女子／大学]
- 安定していて、社会の役に立てる[宮城県／男子／その他]
- 震災を経て人の命を助ける職業につきたいと思ったから
[宮城県／男子／就職]

■看護師

- 医療系につきたい。誰かの役に立ちたいし、収入も安定しているから。
[福岡県／女子／専門学校]
- 医療系の仕事に就くのが夢で患者さんの心のケアもしてあげたいと
思うから。[北海道／女子／大学]
- 結婚後も復帰しやすいので。[北海道／女子／大学]
- 年をとっても働けるから。[群馬県／女子／大学]
- 震災などがたくさん起っている日本で、人が危険な時や大変なとき助
けあってるのを見て、看護師として助けてあげたいと思ったから。力に
なりたいそう思ったから。[宮城県／女子／専門学校]

■製造業(自動車・造船など)

- みんなが快適に乗れる車を作りたいから。[兵庫県／NA／NA]
- 車がすきだから[東京都／男子／専門学校]
- 作事的なことが好きだから[群馬県／男子／就職]
- インターンシップに行つて、楽しかったし職場の人もいい人ばかりだ
ったから[兵庫県／女子／就職]

■保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連

- 私は子供が好きで、たくさん子供を笑顔にしたい。
[群馬県／女子／短大]
- 母親が保育士であり影響を受けた。子どもが好きである。
[三重県／女子／短大]
- ジュニアインターンシップでの経験でより多くの子どもの笑顔を見たい
と思ったから[宮城県／男子／短大]
- 出身の幼稚園の先生の姿を見て憧れをもち、子どもたちとふれあうこ
とも好きだから。[福岡県／女子／大学]

■建築士・建築関連

- 重機をつかうし、金がいいから[群馬県／NA／就職]
- 自分の家を設計したい[福岡県／男子／大学]
- 家の模形など、見るのがとても好きで、建築をやってみたいから。
[三重県／女子／大学]
- 経済的に安定しているし、なにより家を設計してみたい。
[福井県／男子／大学]

■薬剤師

- 薬で誰かを助けたい。[宮城県／女子／大学]
- 国家資格なので結婚・出産後も働けるし、働き口が常に安定してある
から。[北海道／女子／大学]
- 高齢者が薬を重複してもらったりすることのない制度をつくりたい。薬
を毒にしたいから。[宮城県／女子／大学]

＜フリーコメント＞ 将来就いてほしい職業の理由【保護者】

■公務員(国家・地方、警察・消防・自衛官)

- 本人が希望しているから。[三重県／母親／男子]
- やさしい性格で人当たりがよいので、市役所の職員(地域包括)とか
で、人に接している姿が浮かぶから。[兵庫県／母親／男子]
- 安定した収入が得られ、長く勤務できる[福井県／母親／女子]
- 実際の内情は分かりませんが、結婚しても出産しても続けれると思う
為[福井県／母親／女子]
- 本人が幼い頃から消防士になりたいと、今もその為にながらんでいる
から。[兵庫県／母親／男子]

■看護師

- 女性の結婚後でも就職に困らない職種だから[宮城県／母親／女
子]
- 免許を取得ができ、やりがいがあると思うから[福岡県／母親／女子]
- 子どもが、変わることなく希望している職業だから
[東京都／母親／女子]
- 子どもの性格に合っていると思う。将来的にも安定した収入が見込め
る職業だと思う。[北海道／母親／女子]
- 将来が安定している。資格を持っている事により、就職先が見つかる。
[三重県／母親／女子]

■医療事務・医療関連

- 結婚してからも続けやすそう[北海道／母親／女子]
- 本人が希望しているため。[北海道／父親／女子]
- 国家試験を合格すれば就職先が見つけやすい。
[兵庫県／母親／男子]
- 資格を持っていきたい。進路の話をしていて、子供の希望や子
供の性格等考えると、合うのではないかなと思う。
[福岡県／母親／女子]
- 安定しているから[宮城県／父親／男子]

■教師

- すごくむいていると思うし、やりがいがありそう。
[広島県／母親／女子]
- 長く続けられる職業[宮城県／母親／女子]
- 本人がやりたいというので[兵庫県／母親／男子]
- コミュニケーション「力」が高いので、コミュニケーション能力を生かせ
る職業に就けたら人生が豊かに世界が広がっていくかもしれない。
[広島県／母親／男子]

■理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ

- 国家資格であり、職の幅が広いと思う。人に接する事が好きで、性格
的にも適しているのでは、と思う。[福岡県／母親／男子]
- 子供がなりたいたいと言っているから。[福岡県／母親／女子]
- 病院等、いろいろな施設で、働く場が多く、若い人が、とても多く、安
定している職種だから。[福井県／母親／男子]

■放射線技師・臨床検査技師

- 人の為になる仕事であり、安定した収入を得られるから
[宮城県／母親／女子]
- 資格があれば、どこでも働くことができるから。[広島県／母親／男子]
- 本人の希望であり、向いていると思うから[広島県／母親／男子]

■薬剤師

- 安定しているから[東京都／母親／女子]
- 子供がなりたいたいと思っている職業で、性格的にも合っていると思う。国
家資格をとり、長く続けられると思う。[北海道／母親／女子]
- 本人が望んでいる職業だから[宮城県／母親／男子]

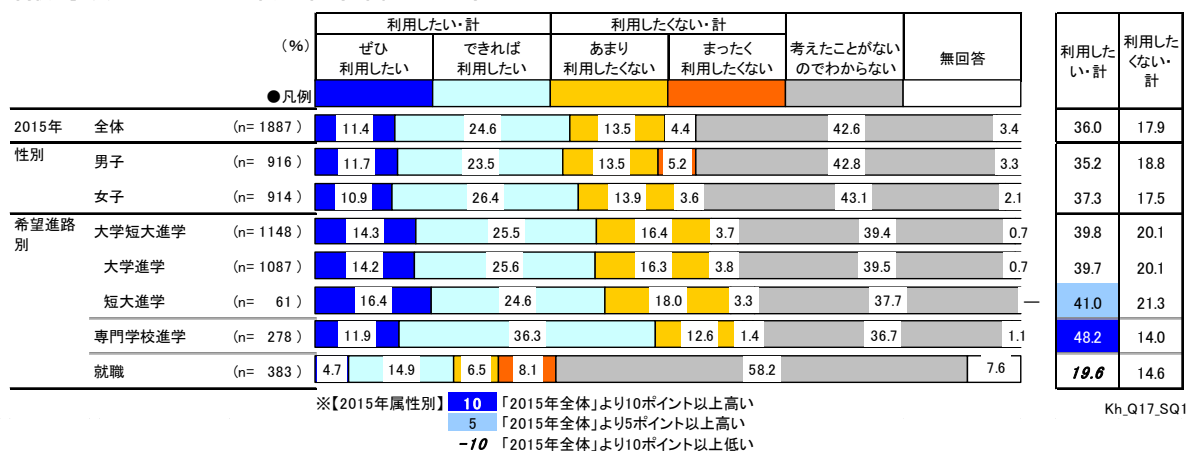
18.貸与型奨学金制度の利用意向

▶ 高校生の36%が貸与型奨学金を「利用したい」、保護者の49%が「利用してほしい」。保護者の利用意向が高校生に比べて高い。

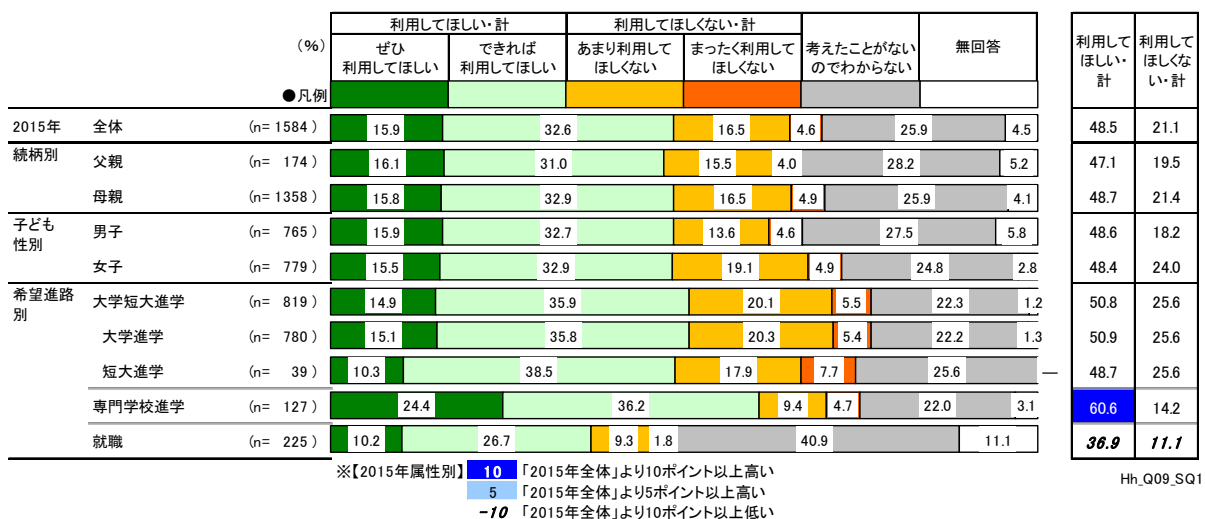
▶ 高校生と保護者のいずれも、専門学校進学希望者の利用意向が相対的に高い。

- 高校生に貸与型奨学金制度の利用意向を尋ねたところ、11%が「ぜひ利用したい」と回答。「できれば利用したい」の25%と合わせると36%が利用したいと回答(利用したい・計)。高校生の43%は「考えたことがないのでわからない」と回答。
- 性別による大きな違いはみられない。
- 希望進路別にみると、「利用したい」は、専門学校進学希望者(48%)が相対的に高い。
- 同様に保護者にも貸与型奨学金の利用意向を尋ねたところ、16%が「ぜひ利用してほしい」と回答。「できれば利用してほしい」33%と合わせると49%が利用してほしいと思っている(利用してほしい・計)。保護者の26%は「考えたことがないのでわからない」と回答。
- 希望進路別にみると、「利用してほしい」は専門学校進学希望者(61%)が相対的に高い。

【高校生】貸与型奨学金制度の利用意向(全体/単一回答)



【保護者】貸与型の奨学金制度の利用意向(全体/単一回答)



19.奨学金制度に関する認知

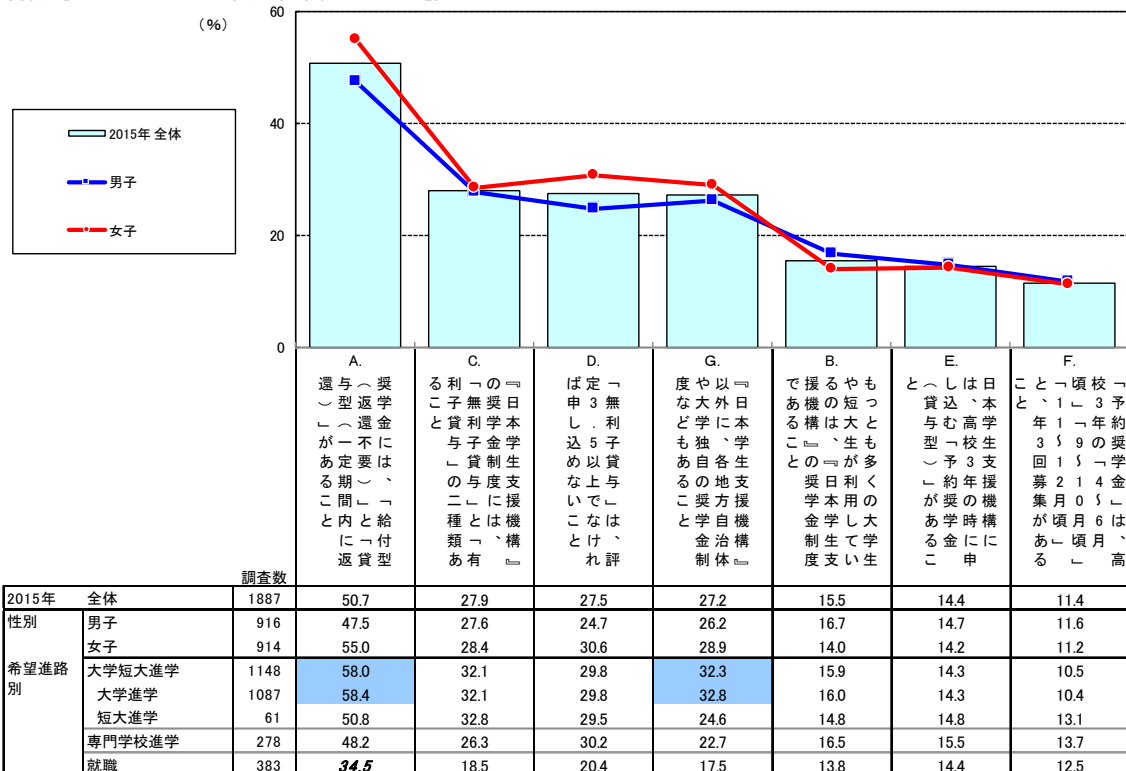
▶ 奨学金制度に関して、「給付型と貸与型があること」は高校生の半数が認知。

- ①奨学金には、「給付型(返還不要)」と「貸与型(一定期間に返還)」があること (51%)
- ②『日本学生支援機構』の奨学金制度には、「無利子貸与」と「有利子貸与」の二種類あること (28%)
- ③「無利子貸与」は評定3.5以上でなければ申し込めないこと (28%)
- ④『日本学生支援機構』以外に各地方自治体や大学独自の奨学金制度などもあること (27%)
- ⑤もっとも多くの大学生や短大生が利用しているのは、『日本学生支援機構』の奨学金制度であること (16%)

▶ 大学短大進学希望者は、「給付型と貸与型があること」「日本学生支援機構以外の奨学金制度があること」の認知率が高い。

- 高校生に対して奨学金制度に関する認知を尋ねたところ、「知っていた」と回答された割合の上位は上記の通り。
- 男女とも上位の顔ぶれは同様。女子は男子に比べて「給付型と貸与型があること」「無利子貸与は評定3.5以上」を知っている割合が高い。
- 希望進路別にみると、大学短大進学希望者は、「給付型と貸与型があること」「日本学生支援機構以外の奨学金制度があること」の認知率が高い。

【高校生】奨学金制度の認知状況(全体/「知っていた」)



※「2015年全体」降順ソート

※【2015年属性性別】

10 「2015年全体」より10ポイント以上高い

5 「2015年全体」より5ポイント以上高い

-10 「2015年全体」より10ポイント以上低い

Kh_Q17

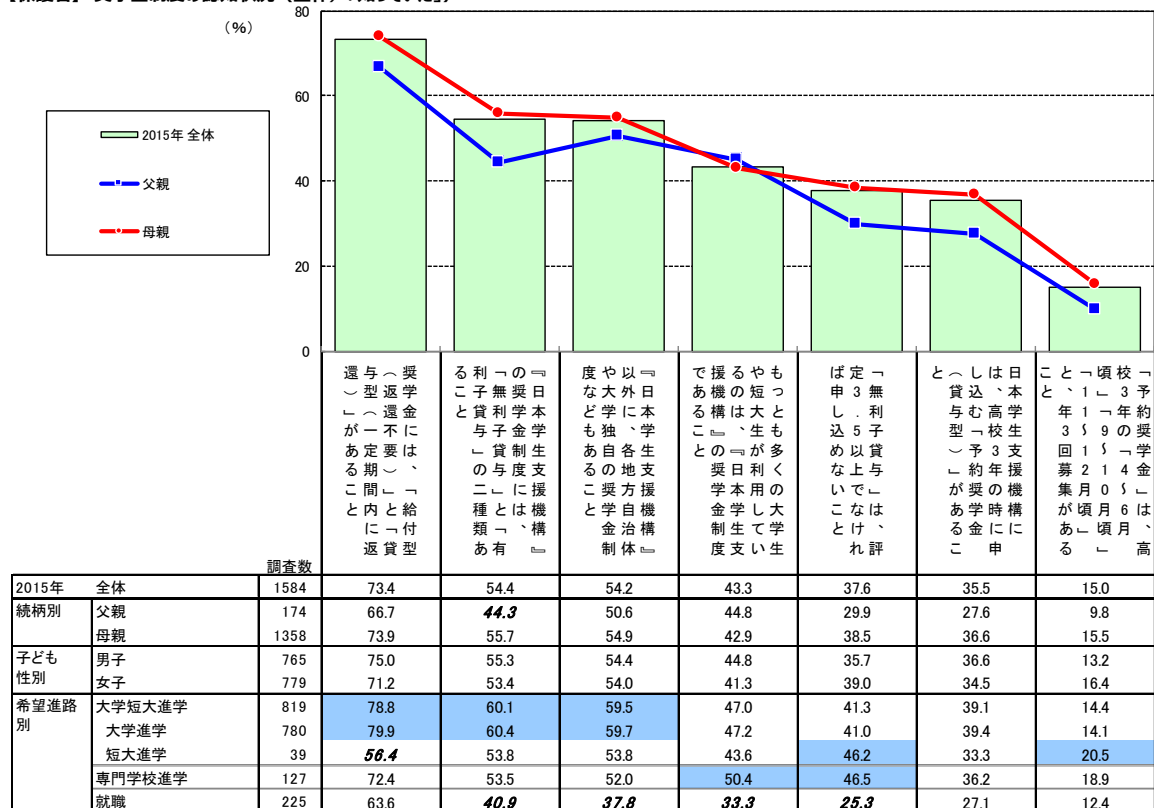
▶奨学金制度に関して、「給付型と貸与型があること」は保護者の7割が認知。

- ①奨学金には、「給付型(返還不要)」と「貸与型(一定期間に返還)」があること (73%)
- ②『日本学生支援機構』の奨学金制度には、「無利子貸与」と「有利子貸与」の二種類あること (54%)
- ③『日本学生支援機構』以外に各地方自治体や大学独自の奨学金制度などもあること (54%)
- ④もっとも多くの大学生や短大生が利用しているのは、『日本学生支援機構』の奨学金制度であること (43%)
- ⑤「無利子貸与」は評定3.5以上でなければ申し込めないこと (38%)

▶父親は母親に比べて奨学金制度に関する認知は低め。

- 保護者に対して奨学金制度に関する認知を尋ねたところ、「知っていた」と回答された割合の上位は上記の通り。
- 「もっとも多くの大学生や短大生が利用しているのは『日本学生支援機構』」以外の項目は、父親に比べて母親が高い。
- 希望進路別にみると、大学短大進学希望者は、「給付型と貸与型があること」「日本学生支援機構の奨学金制度には無利子と有利子があること」「日本学生支援機構以外の奨学金制度があること」の認知率が高い。

【保護者】奨学金制度の認知状況(全体/「知っていた」)



※「2015年全体」降順ソート

※【2015年属性別】

10 「2015年全体」より10ポイント以上高い

5 「2015年全体」より5ポイント以上高い

-10 「2015年全体」より10ポイント以上低い

Hh_Q09

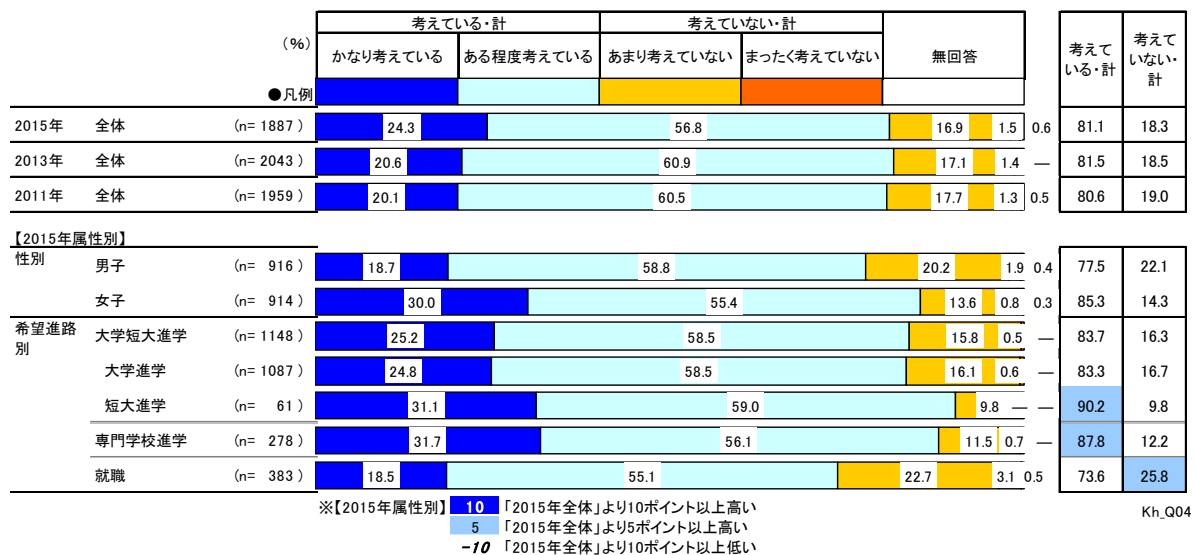
Ⅲ 進路・将来にまつわる期待と不安

20.進路意識と将来への自信

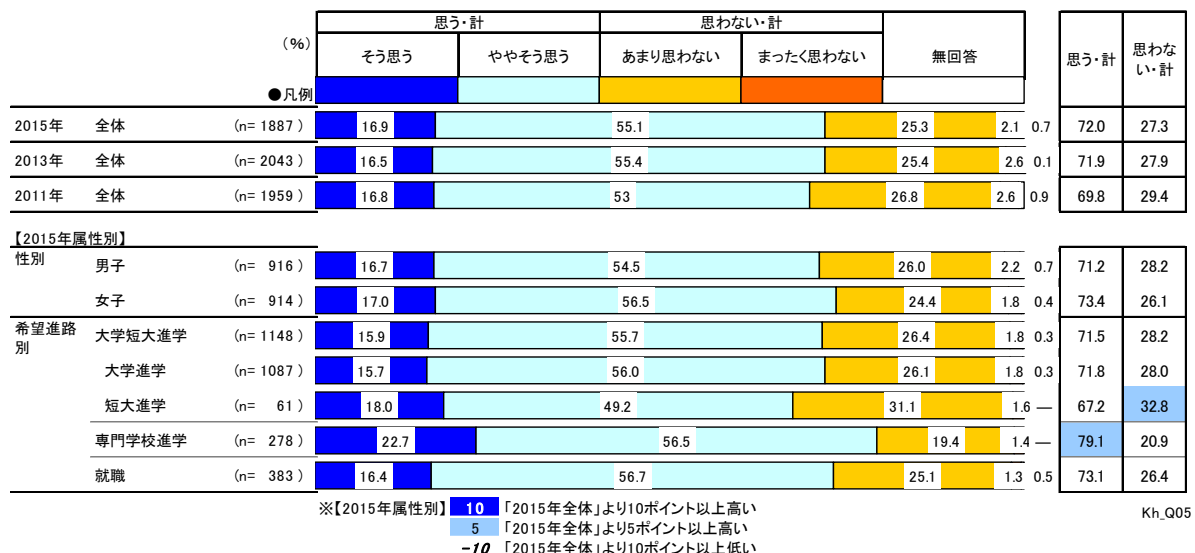
▶ 高校生の81%が進路について「考えている」。自分の進路を歩んでいけると「思う」高校生は72%。

- 高校2年生の時点で進路選択についてどの程度考えているか高校生に質問したところ、24%が「かなり考えている」と回答。「ある程度考えている」の57%と合わせると81%が進路について考えている（考えている・計）。
- 性別にみると、「考えている・計」は女子が85%と男子（78%）より多く、女子のほうが進路検討意識が高い。
- 希望進路別にみると、「考えている・計」は大学短大進学、専門学校進学の進学希望者は8割以上を占めるが、就職希望者は7割と考えている割合が少ない。
- また、これからいろいろなことがあっても自分の進路を歩んでいけそうか高校生に質問した。「そう思う」は17%、「ややそう思う」の55%を含め72%が歩んでいけそうと思っている（思う・計）。
- 男女とも「思う・計」は7割であり大きな差異はみられない。
- 希望進路別にみると、「思う・計」は大学短大進学希望者、就職希望者で7割。一方、専門学校進学希望者は8割が自分の進路を歩んでいけそうだと答えており、他層に比べ実現可能であるという認識が相対的に高い。

【高校生】 自分の進路選択について考えているか（全体／単一回答）



【高校生】 自分の進路を歩んでいけそうか（全体／単一回答）

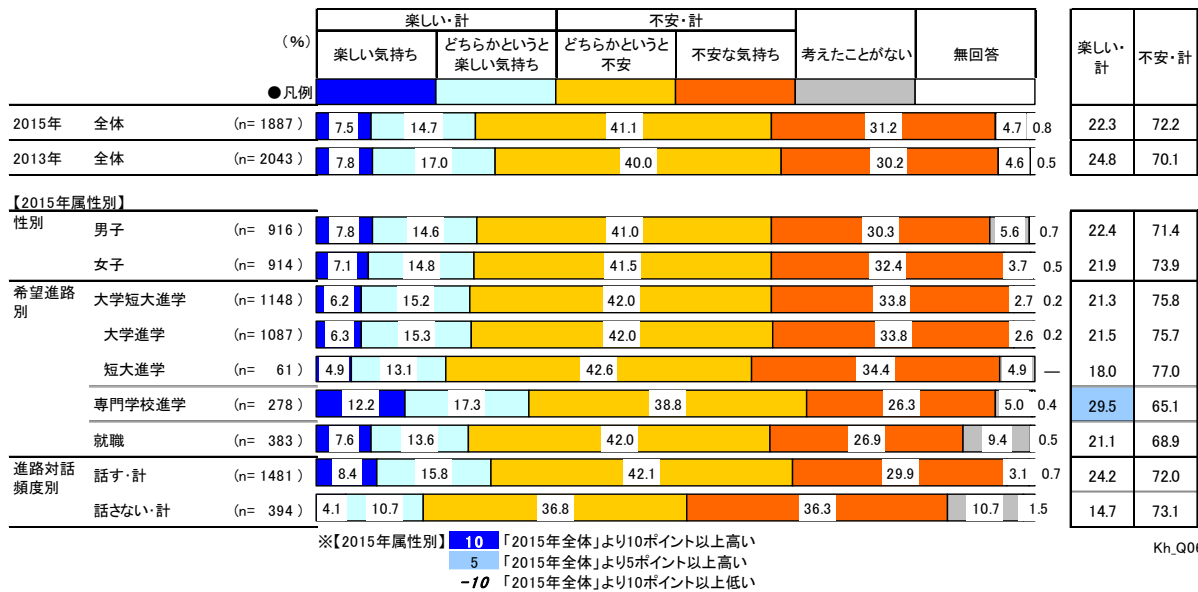


21.進路を考えたときの気持ち

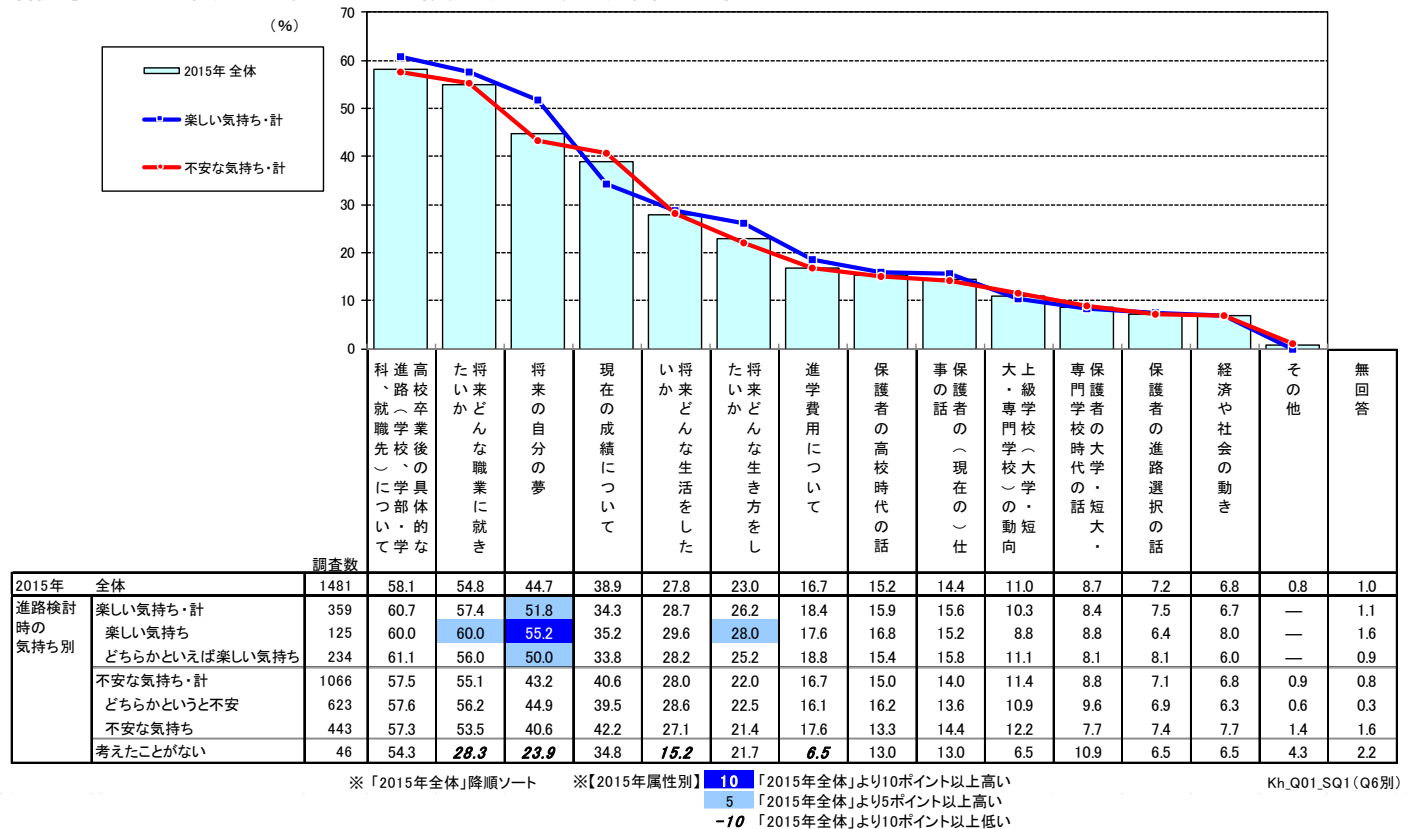
▶進路を考えたとき、高校生の72%が「不安」

- 高校生に進路を考えたとき、どんな気持ちになるか質問したところ、「楽しい気持ち」は8%。「どちらかという楽しい気持ち」の15%を合わせて22%が「楽しい」と回答した(楽しい・計)。一方、「どちらかという不安」(41%)、「不安な気持ち」(31%)をあわせた「不安・計」は72%と、進路に不安を感じている者が過半数を占めている。
- 進路対話頻度別にみると、話をする層では「楽しい・計」が24%で話をしない層に比べて高い。話をしない層では「考えたことがない」(11%)が話をする層に比べて高い。
- さらに、進路を考えたときの気持ち別に保護者と話す内容(6ページ参照)をみると、「楽しい気持ち・計」の高校生は「将来の自分の夢」が相対的に高く、自分の将来のあり方について保護者と話している。

【高校生】 進路を考える時、どんな気持ちになるか (全体／単一回答)



【高校生】 進路について保護者とどんな話をしているか (よく話す～時々話す／複数回答)



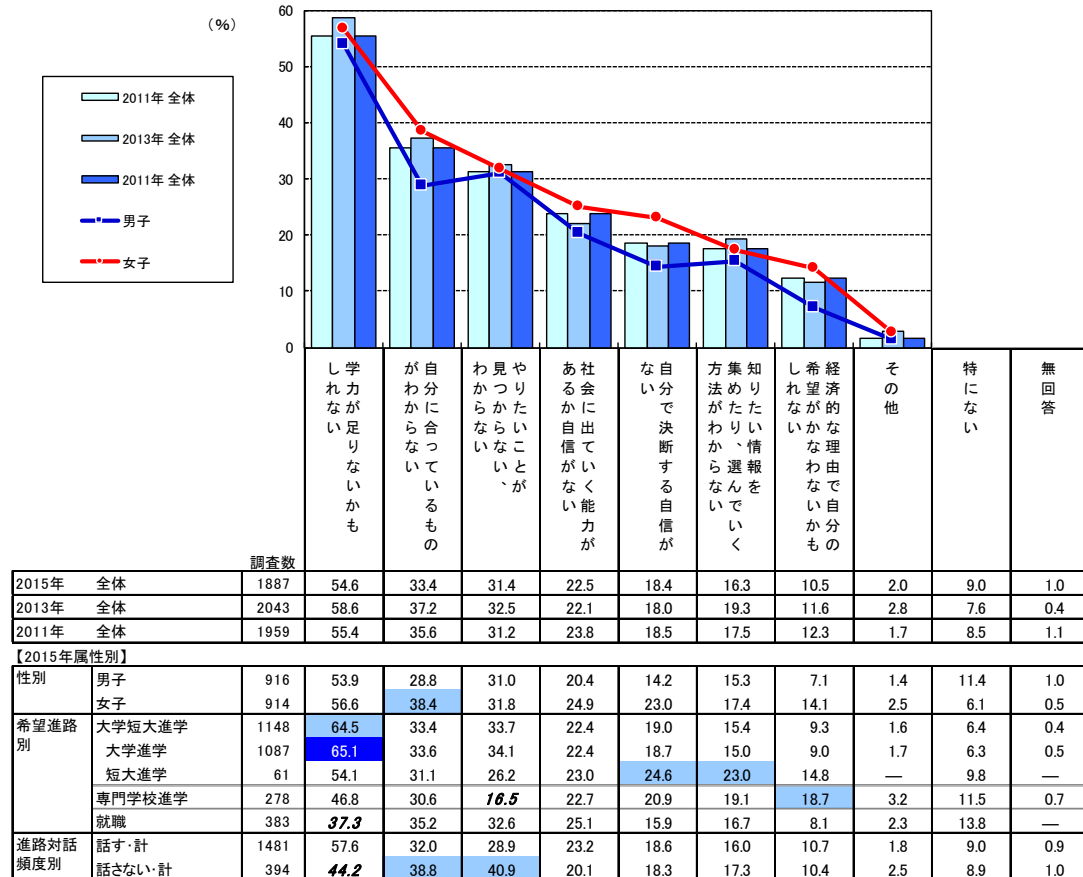
22.進路選択についての気がかり

▶進路選択について高校生の最大の気がかりは「学力不足」。

- ①学力が足りないかもしれない (55%)
- ②自分に合っているものがわからない (33%)
- ③やりたいことが見つからない、わからない (31%)

- 高校生に進路選択についての気がかりをすべて選んでもらった。トップは「学力が足りないかもしれない」で55%と半数を超える。過去調査と比較して、上位の顔ぶれは変わらない。
- 性別にみると、女子は男子に比べ「自分に合っているものがわからない」のスコアがやや高い。
- 希望進路別にみると、いずれの層も「学力が足りないかもしれない」がトップであるが、大学短大進学は相対的にスコアが高く、就職希望者は低い。
- 進路対話頻度別にみると、話をする層は話をしない層に比べて「学力が足りないかもしれない」が高く、話をしない層は「自分に合っているものがわからない」「やりたいことが見つからない、わからない」のスコアが高い。

【高校生】進路選択についての気がかり（全体／複数回答）



※「2015年全体」降順ソート

※【2015年属性別】

10 「2015年全体」より10ポイント以上高い

5 「2015年全体」より5ポイント以上高い

-10 「2015年全体」より10ポイント以上低い

Kh_Q07

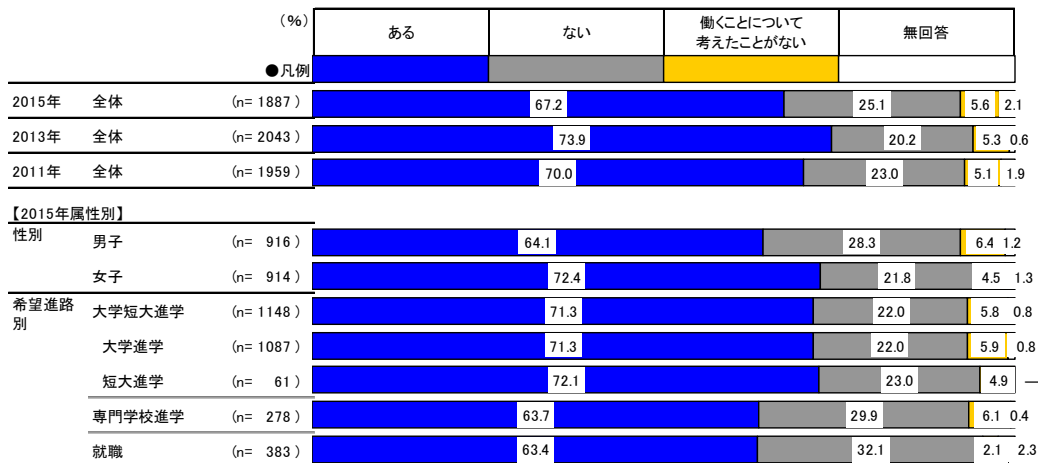
23. 将来働くことについての気付き

1) 高校生が将来働くことについて気付きはあるか

▶ 高校生・保護者とも、6割以上が将来働くことについて気付きが「ある」。

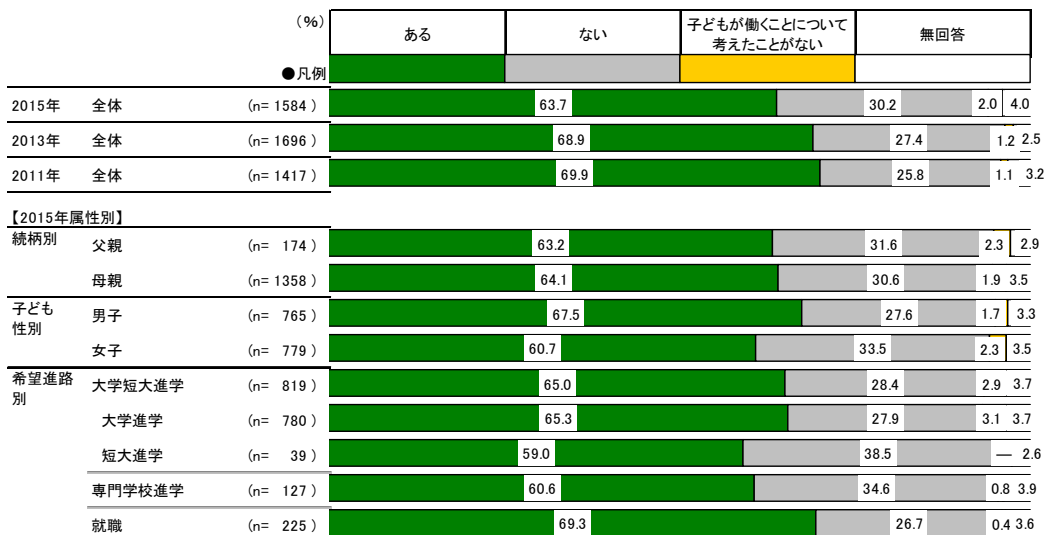
- 高校生が将来働くことについて気付きなことがあるかという質問に、高校生の67%が「ある」と回答。過去調査と比較すると、「ある」の割合は2013年から減少。
- 性別にみると、「ある」の割合は女子(72%)が男子(64%)よりも高い。
- 同様に、保護者にも将来子どもが働くことについて気付きはあるか尋ねたところ、64%が「ある」。過去調査と比較すると、「ある」の割合は2013年から減少。
- 続柄別にみると、母親と父親に大きな差異はみられない。
- 希望進路別にみると、進学希望者(大学短大・専門学校)よりも就職希望者のほうが「ある」の割合がやや高い。

【高校生】 将来、働くことについて気付きなことはあるか（全体／単一回答）



Kh.Q19

【保護者】 将来、子どもが働くことについて気付きはあるか（全体／単一回答）



Hh.Q15

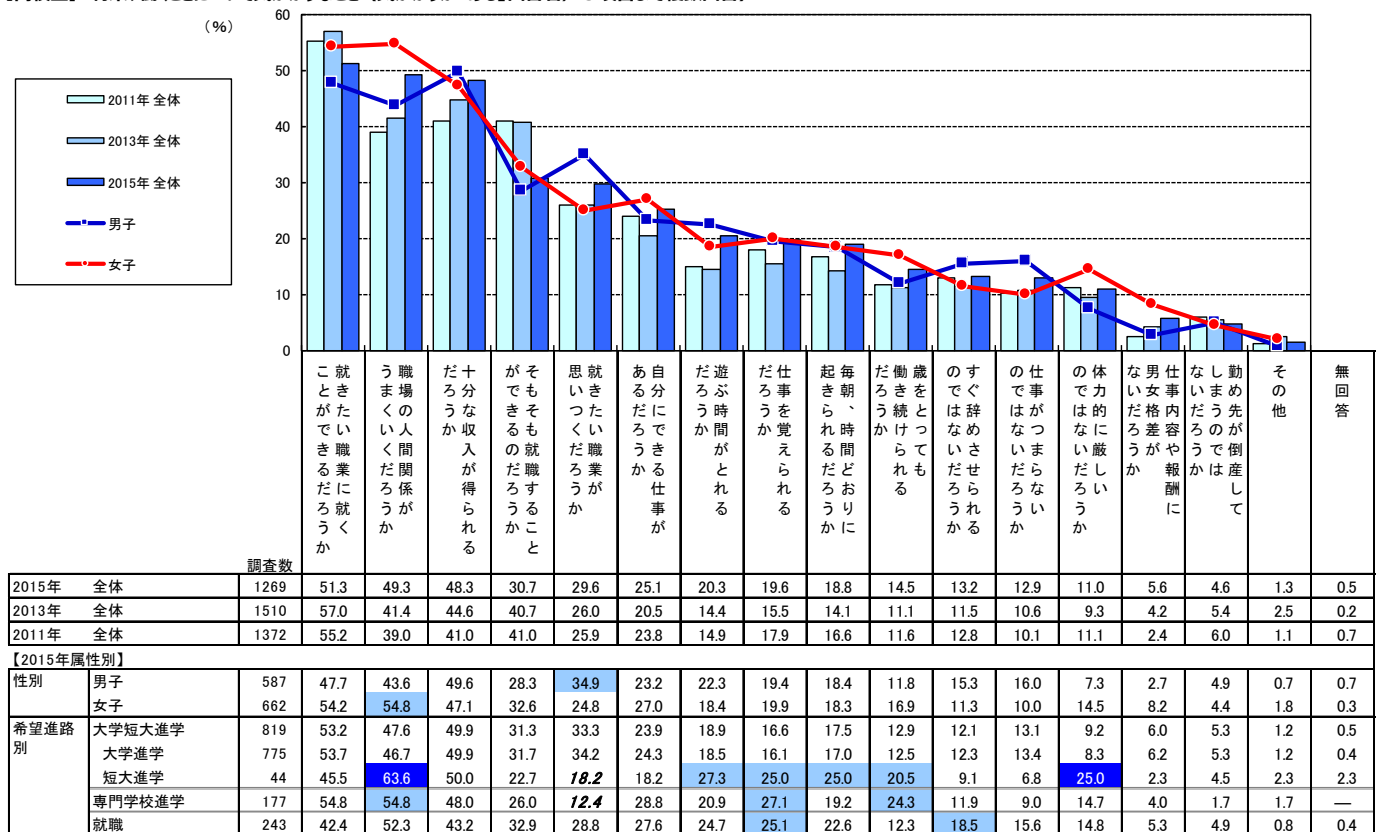
2) 将来働くことについて気がかりなこと

▶ 将来働くことについて、高校生の最大の気がかりは「就きたい職業に就けるか」。

- ① 就きたい職業に就くことができるだろうか (51%)
- ② 職場の人間関係がうまくいだろうか (49%)
- ③ 十分な収入が得られるだろうか (48%)
- ④ そもそも就職することができるのだろうか (31%)
- ⑤ 就きたい職業が思いつくだろうか (30%)

- 将来働くことに気がかりが「ある」高校生と保護者に、具体的に気がかりな内容を5項目まで選んでもらった。高校生の回答上位は上記のとおり。
- 性別にみると、「職場の人間関係がうまくいだろうか」は男子よりも女子のほうがスコアが高い。
- 希望進路別にみると、専門学校進学希望者は「自分にできる仕事があるだろうか」「仕事を覚えられるだろうか」が上位にランクインする。

【高校生】 将来、働くことについて気がかりなこと（気がかりが「ある」回答者／5項目まで複数回答）



※「2015年全体」降順ソート

※【2015年属性別】 10 「2015年全体」より10ポイント以上高い

5 「2015年全体」より5ポイント以上高い

-10 「2015年全体」より10ポイント以上低い

Kh_Q19_SQ1

▶ 子どもが将来働くことについて、保護者の最大の気がかりも「就きたい職業に就けるか」。

- ① 就きたい職業に就くことができるだろうか (76%)
 ② 職場の人間関係がうまくいだろうか (51%)
 ③ 就きたい職業が思いつくだろうか (40%)
 ④ 十分な収入が得られるだろうか (33%)
 ⑤ そもそも就職することができるのだろうか (20%)

● 保護者の回答上位は上記のとおり。「就きたい職業が思いつくだろうか」がトップで76%と突出。過去調査と比較すると、「職場の人間関係」「就きたい職業が思いつくか」「十分な収入が得られるか」は2013年から増加。

● 続柄別にみると、父親・母親とも上位の顔ぶれは同様。

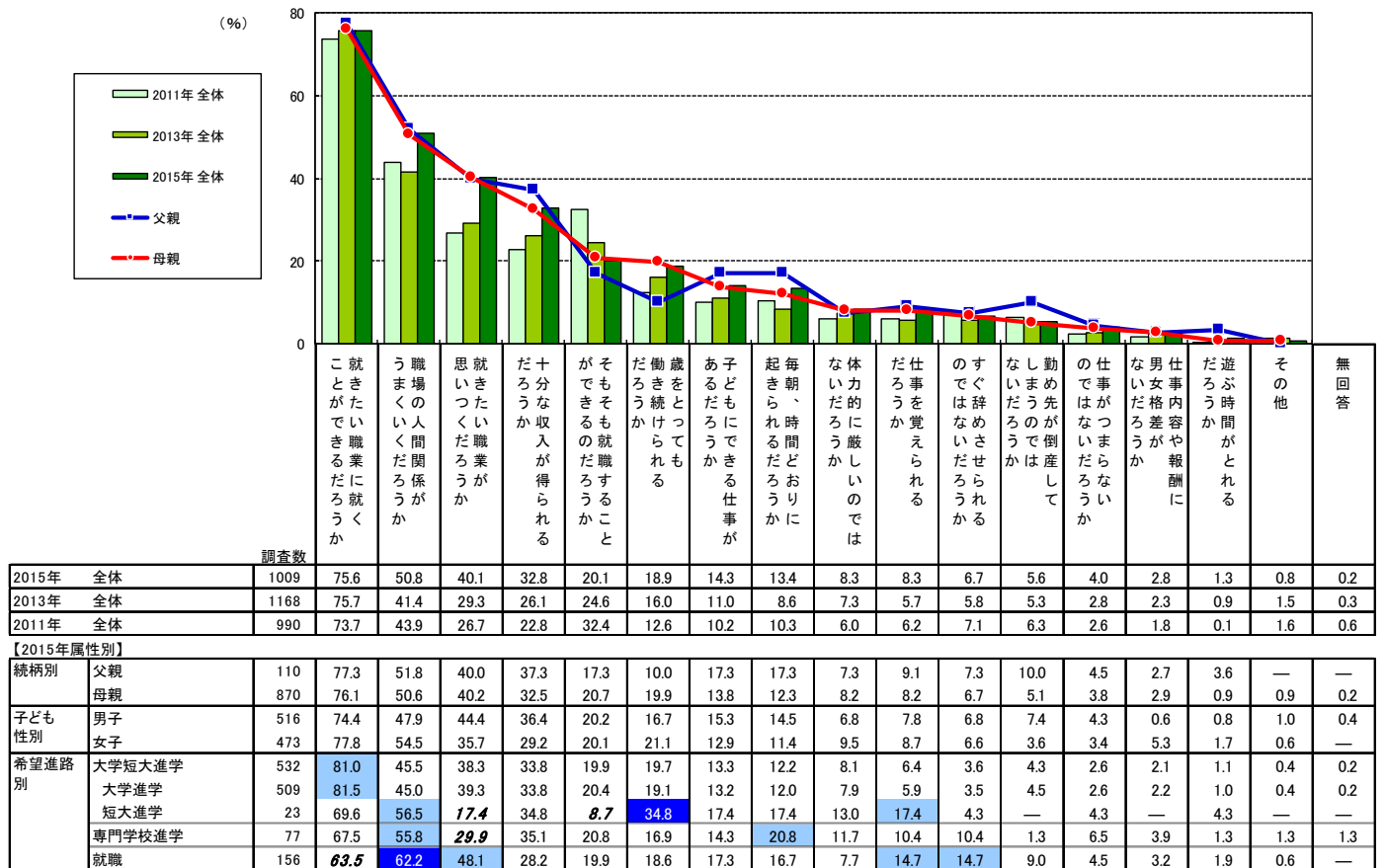
● 子ども性別にみると、女子は「歳をとっても働き続けられるだろうか」が5位にランクイン。男子は女子に比べて「就きたい職業が思いつくだろうか」「十分な収入が得られるだろうか」が高く、女子は「職場の人間関係がうまくいだろうか」が高い。

● 希望進路別にみると、いずれの進路も上位の顔ぶれは同様。大学短大進学希望者は「就きたい職業に就くことができるだろうか」が他進路に比べて高く、就職希望者は「職場の人間関係がうまくいだろうか」「就きたい職業が思いつくだろうか」が高い。

▶ 高校生・保護者ともトップは「就きたい職業に就くことができるだろうか」、2位は「職場の人間関係」。3位に、高校生は「十分な収入が得られるだろうか」、保護者は「就きたい職業が思いつくだろうか」が続く。

● 高校生、保護者とも気がかりなことトップは「就きたい職業が思いつくだろうか」で共通だが、スコアは高校生57%・保護者76%で、保護者の方がスコアが高い。2位は、高校生、保護者とも「職場の人間関係」が続く。3位には高校生は「収入」、保護者は「就きたい職業が思いつくだろうか」が続く、高校生は就職後、保護者は就職前をそれぞれ気がかりとして強くとらえていることがうかがえる。

【保護者】 将来、子どもが働くことについて気がかりなこと（気がかりが「ある」/5項目まで回答）



※ 「2015年全体」降順ソート

※【2015年属性別】 10 「2015年全体」より10ポイント以上高い
 5 「2015年全体」より5ポイント以上高い
 -10 「2015年全体」より10ポイント以上低い

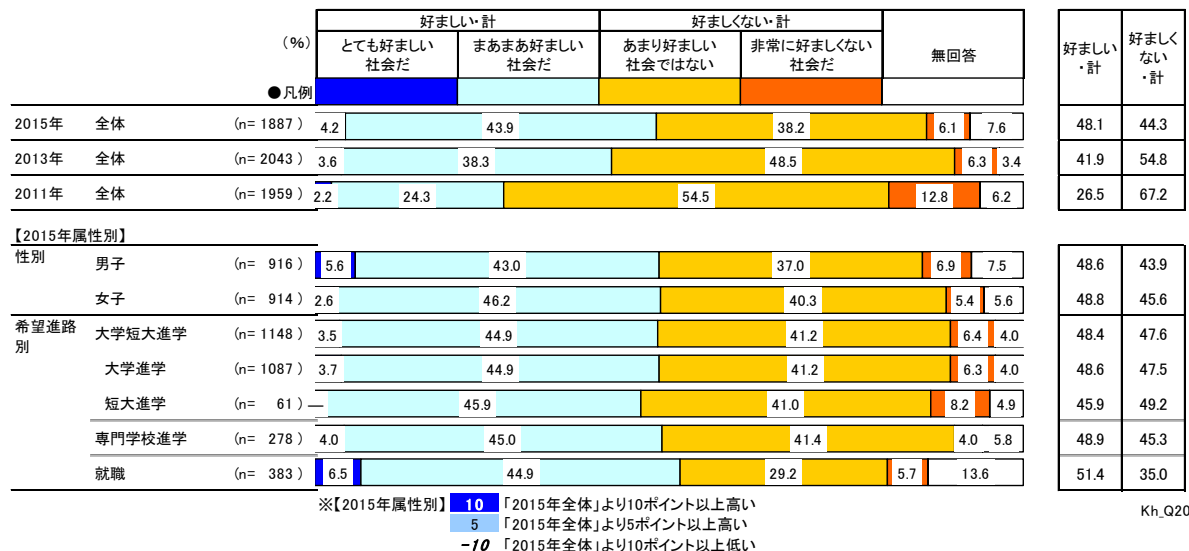
Hh_Q15_SQ1

24. 未来社会への認識：これからの社会は好ましいか／その理由

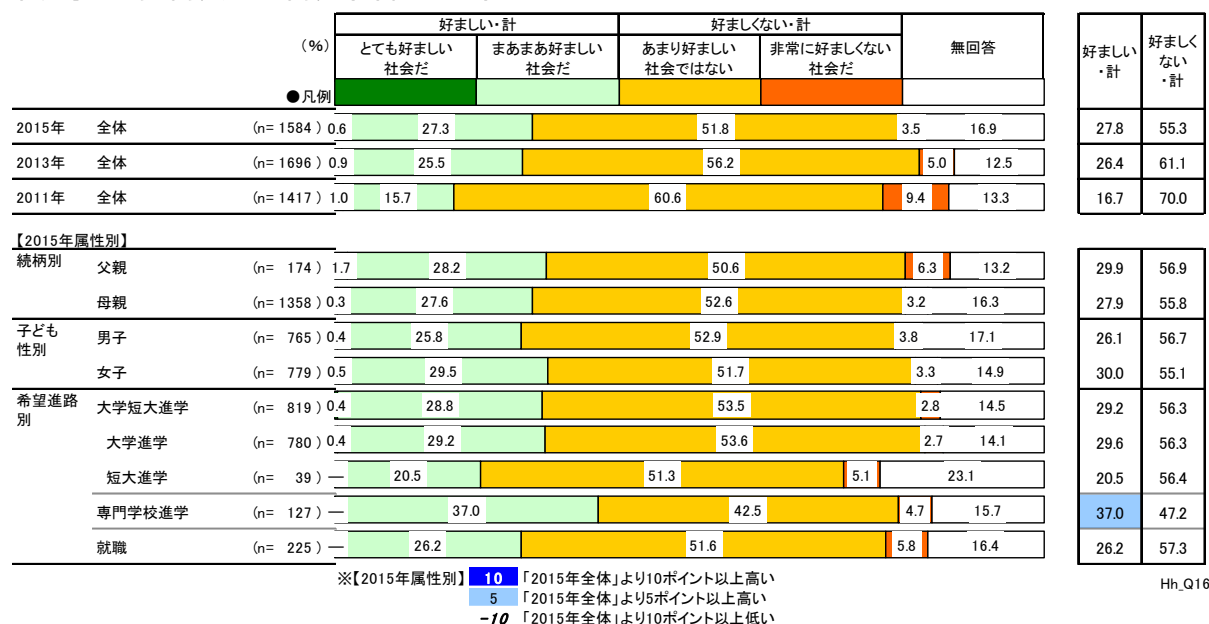
- ▶ 高校生の48%、保護者の28%がこれからの社会は高校生にとって「好ましい」と考えている。
- ▶ 高校生・保護者とも、2011年以降「好ましい」は増加傾向。特に「まあまあ好ましい」のスコアが伸びた。

- これからの社会は高校生にとって好ましいと思うか質問した。高校生は「非常に好ましくない社会だ」「あまり好ましい社会ではない」の合計が44%（好ましくない・計）。過去調査と比較すると、2011年以降「好ましくない・計」の割合が減少し、一方で「好ましい・計」のスコアが増加した。
- 同様に、保護者にもこれからの社会は子どもにとって好ましいと思うか尋ねたところ、「好ましくない・計」が55%と過半数を占めた。過去調査と比較すると、高校生と同様に「好ましくない・計」は2011年以降減少し、「好ましい・計」は増加。将来について肯定的な認識が増えている。
- 未来社会について「とても好ましい」～「非常に好ましくない」という理由を書いてもらったところ、高校生は保護者に比べて楽観的に将来を捉えるように感じられる。未来社会を好ましいと思う高校生は「東京オリンピック開催」「グローバル化」「女性の社会進出」などのキーワードとともに「それほど悪くない将来」を想像している。一方、保護者は「ブラック企業などの雇用問題」「高齢化社会」「不安定な社会情勢」から子どもの将来に不安を感じている。
→フリーコメントは39ページに掲載

【高校生】 未来展望：これからの社会は好ましいか（全体／単一回答）



【保護者】 これからの社会は好ましい社会か（全体／単一回答）



<フリーコメント> 未来社会への認識の理由【高校生】

■とても好ましい

- オリンピックで雇用が増えるから[兵庫県/NA/就職]
- グローバル化が進み、もっともっと多くの人とかかわることができるから[東京都/男子/専門学校]
- 若い人が少なくなるので頼りにされそうだから[三重県/男子/大学]
- 日本の大手企業は会社の公用語を英語にしたりと、グローバル化が進んでいるから。[北海道/男子/大学]

■まあまあ好ましい

- アベノミクスの影響で賃金と雇用率が一定数上がったから。
[広島県/男子/大学]
- だんだん女性も社会に出てきているから。[東京都/女子/就職]
- もっと、子育てや家庭生活と仕事を両立しやすい方がいいと思うから。
[東京都/女子/大学]
- 女性が働きやすい社会になってきているから。[広島県/女子/大学]
- ある程度保障がしっかりしていて、仕事をしっかりもっている人にとっては働きやすい環境にあると思う。[福岡県/男子/大学]
- オリンピックに向けて雇用される人が増えているけれど、オリンピック後にちゃんと就職できるのか。[三重県/女子/大学]
- このままがいいけど、戦争をしようとするのはやめてほしい
[福岡県/男子/大学]
- 景気が良ければ良いが悪ければ不安だから。[宮城県/女子/大学]
- 経済がそこそこ安定しているから。[福岡県/男子/NA]
- 高齢化社会になっていくので需要は増えてくるから
[広島県/男子/大学]
- 産後などの職場の環境が好ましくない[群馬県/女子/専門学校]
- 年金や税金が上がるが、大人になるのは楽しみだから。
[東京都/女子/大学]
- 平和だから[宮城県/男子/大学]

■あまり好ましくない

- ブラック企業もあれば、ハラスメントが最近多いとニュースで見るから。
[兵庫県/女子/大学]
- 就職率が低く、大学を出ても仕事に就けないかもしれないと思うから。
[福岡県/女子/大学]
- 少子高齢化で将来、私達が高齢者を負担しなければならない機会が増え、私達自身がつぶれてしまわないか心配だから。
[宮城県/男子/大学]
- 税金が高くなり、給料等も少なくなっている気がするから
[福岡県/女子/就職]
- あまり勢いのある社会ではないし、若い世代にとってはあまりよくないのではないと思う。[三重県/女子/大学]
- 大学へ進学しても必ず就職出来る訳ではない。そもそも学費が高過ぎる。[宮城県/女子/大学]
- 男女平等の扱いをしてもらえないかもしれないから
[広島県/女子/大学]
- 超高齢化社会の中負担がどれくらいあるのか分からないし増えていくと思うから[三重県/NA/大学]

■非常に好ましくない

- 年金制度が充実しないこと、税金が上がること、一度会社を辞めると就職しにくいことなど。[宮城県/女子/大学]
- 労働時間が多すぎる。サービス残業なんて絶対にしたくない。
[東京都/女子/大学]
- 安保法案、増税[三重県/女子/就職]
- 社員を会社の部品の様に扱い、時間外労働や労働災害、そして使えなくなったらクビにするため。[福岡県/男子/大学]

<フリーコメント> 未来社会への認識の理由【保護者】

■とても好ましい

- 他国と比べて、コンプライアンスの意識が高く、平等な競争ができるから[福岡県/父親/女子]
- 適応能力がある子なのでどんな社会でもクリアできると考えている。どんな社会であっても！[宮城県/NA/NA]
- 世界に見を向けられる時代だから。[福岡県/母親/女子]

■まあまあ好ましい

- グローバル化が進み、世界での仕事など、やりがいを感じられそうな社会になると思う。[福岡県/母親/女子]
- これからは女性も資格や技術を見につけ今以上に社会進出していきそうだから[広島県/母親/女子]
- より高齢化社会が進むことと、国際競争が激しくなることで、若者達への期待と不安が増大。[福岡県/父親/男子]
- 国内だけでなく、広い意味で海外と接触する機会が増えており、公私で多様性を感じられる。[北海道/父親/男子]
- 復興や東京オリンピックに向けて日本が前向きに進んで、又、福祉などの充実を目指している[宮城県/母親/男子]
- どの様な時代であれ、その時代を生き抜かねばならないから
[北海道/父親/女子]
- どんな状況でもそこで生きていく人になってほしい
[広島県/母親/男子]
- 希望を持ってほしいので、そう思いたい。[三重県/母親/男子]
- 好ましい、好ましくないは自分で作っていくものだと思います。
[福岡県/母親/女子]
- 好ましい社会であってほしいと思います。[広島県/母親/女子]

■あまり好ましくない

- ブラック企業に代表されるように成果ばかりを求められて人間らしく働く配慮に欠けている[広島県/その他/男子]
- 高齢化社会になってきていて、これからの子供たちの負担が大きくなっていくから。[福岡県/母親/女子]
- 社会情勢が不安定 どのような仕事につけば将来発展的であるのかわからない世の中であるから。[東京都/母親/男子]
- 税金や保険等の負担は増えていくが、将来返ってくる年金等は減る。若い内に蓄えるだけの収入を得られる仕事に就ける率も低い、厳しい社会[群馬県/父親/男子]
- 非正規雇用の会社が増え生活が不安定となる為
[宮城県/父親/男子]
- 高齢化社会になり、介護職の低賃金で人手不足。高齢者を介護する人が足りない。どんな社会になるのだろうか…[宮城県/母親/女子]
- 就職活動での内定をもらうまでの苦労や、就職してからも仕事内容や勤務状況より賃金や休日出勤など労働者優遇がされていない事が多い[三重県/父親/男子]

■非常に好ましくない

- 景気の良かった時代をしているので今の就職難が非常に心配だ。体力のない方の我が子が生きていけるのだろうか。
[宮城県/母親/男子]
- 経済成長が見込めない上終身雇用ではなくなっているから
[兵庫県/母親/女子]
- 卒業後、ニートやフリーターのまま生活する若者も多く、終身雇用ではない時代なので、就職して安定した生活が送れるか不安です。
[三重県/母親/女子]
- 格差が広がるばかりだから。[宮城県/父親/女子]

IV 保護者の動き

25.進学情報の必要性・入手方法

1)重要な進学に関する情報

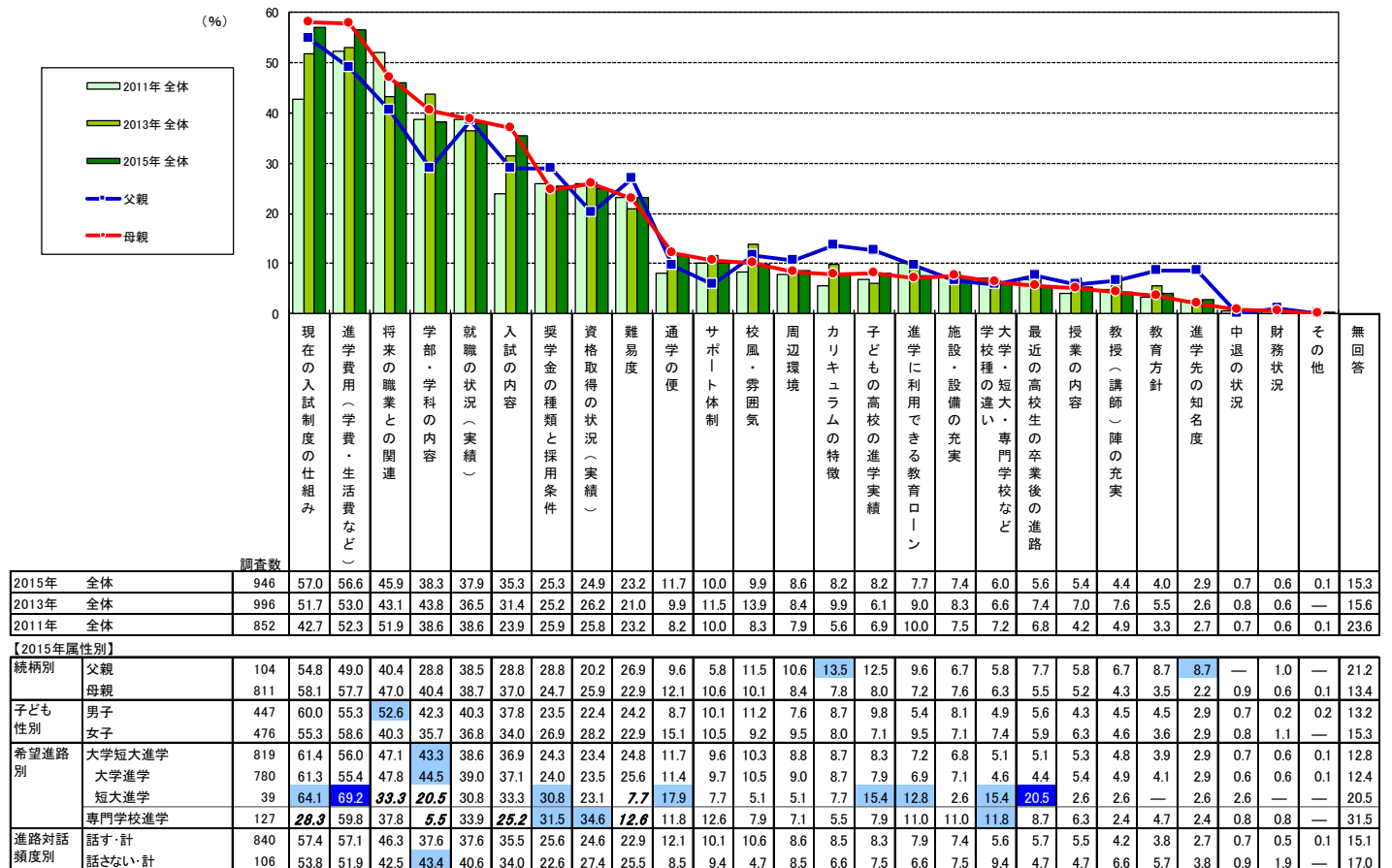
▶子どもの進学を希望する保護者にとって、進学先検討で重要な情報は

- ①現在の入試制度の仕組み (57%)
- ②進学費用 (57%)
- ③将来の職業との関連 (46%)
- ④学部・学科の内容 (38%)
- ⑤就職の状況 (38%)

▶2011年より「現在の入試制度の仕組み」「入試の内容」の情報の重要性が増している。

- 子どもに進学を希望する保護者に、どのような進学情報が重要だと思うか最大で5項目まで選んでもらった。回答上位は上記のとおり。「進学費用」と「入試制度」が5割に達し、多くの保護者が重視している。過去調査と比較すると、「現在の入試制度の仕組み」と「入試の内容」はスコアが上昇した。
- 希望進路別にみると、大学短大進学希望者は「学部・学科の内容」、専門学校進学希望者は「奨学金の種類と採用条件」「資格取得の状況」のスコアがそれぞれ高く、進学先により特に重視する情報が異なる。

【保護者】特に重要な情報（進学希望者／5項目まで複数回答）



※「2015年全体」降順ソート

※【2015年属性別】

10 「2015年全体」より10ポイント以上高い

5 「2015年全体」より5ポイント以上高い

-10 「2015年全体」より10ポイント以上低い

Hh, Q11, SQ1

2) 進学に関する情報の入手先

▶ 進学に関する最大の情報源は「高校の担任の先生」、次いで高校からの配布資料であり、高校が主な情報の入手先。

- ① 高校の担任の先生 (45%)
- ② 高校で配布されて子どもが持ち帰った資料 (42%)
- ③ 各学校の学校案内やパンフレット (41%)
- ④ 各学校のホームページ (35%)
- ⑤ 各学校の説明会やオープンキャンパス (30%)

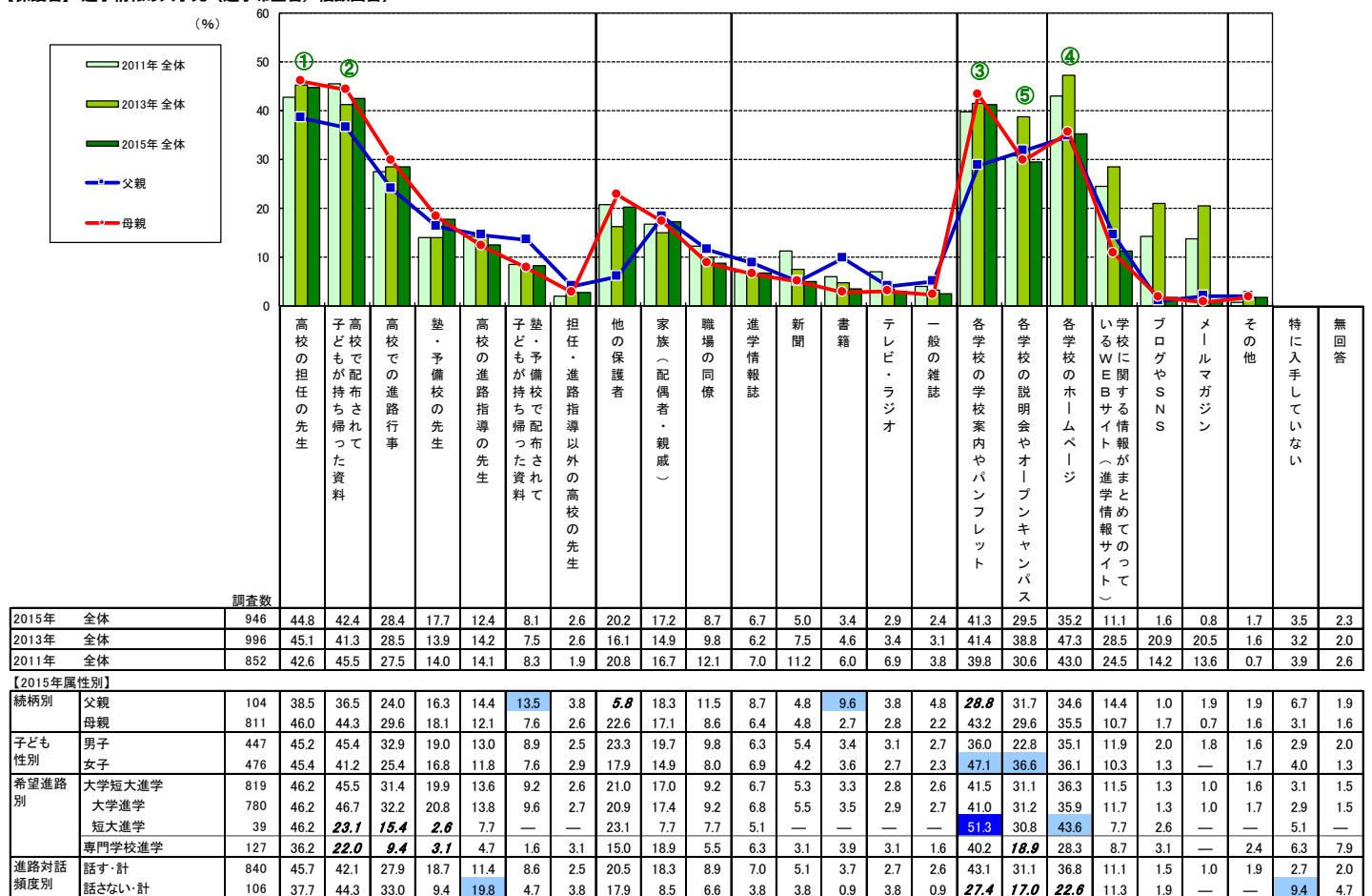
▶ 「各学校のホームページ」「進学情報サイト」「ブログやSNS」「メールマガジン」などのネット情報は減少。

● 子どもの進路を考えるための情報をどこから入手しているかすべて選んでもらった。回答上位は上記のとおり。トップは「高校の担任の先生」。ついで「高校で配布されて子どもが持ち帰った資料」が続き、高校から得られる情報が主な情報源である。ついで各学校の学校案内やパンフレット、ホームページ。

過去調査と比較すると、2011年から「各学校のホームページ」「進学情報サイト」「ブログやSNS」「メールマガジン」のスコアが減少しており、ネットから情報を入手する保護者が減っている。また「各学校の説明会やオープンキャンパス」も2011年から減少した。

● 希望進路別にみると、大学短大希望者は「高校の担任の先生」、専門学校進学は「学校案内やパンフレット」がトップであり、専門学校の情報は高校からは相対的に量が少ない様子がうかがわれる。

【保護者】 進学情報の入手先（進学希望者／複数回答）



※ カテゴリーごとに「2015年全体」降順ソート

※【2015年属性別】 10 「2015年全体」より10ポイント以上高い

5 「2015年全体」より5ポイント以上高い

-10 「2015年全体」より10ポイント以上低い

Hh_Q12

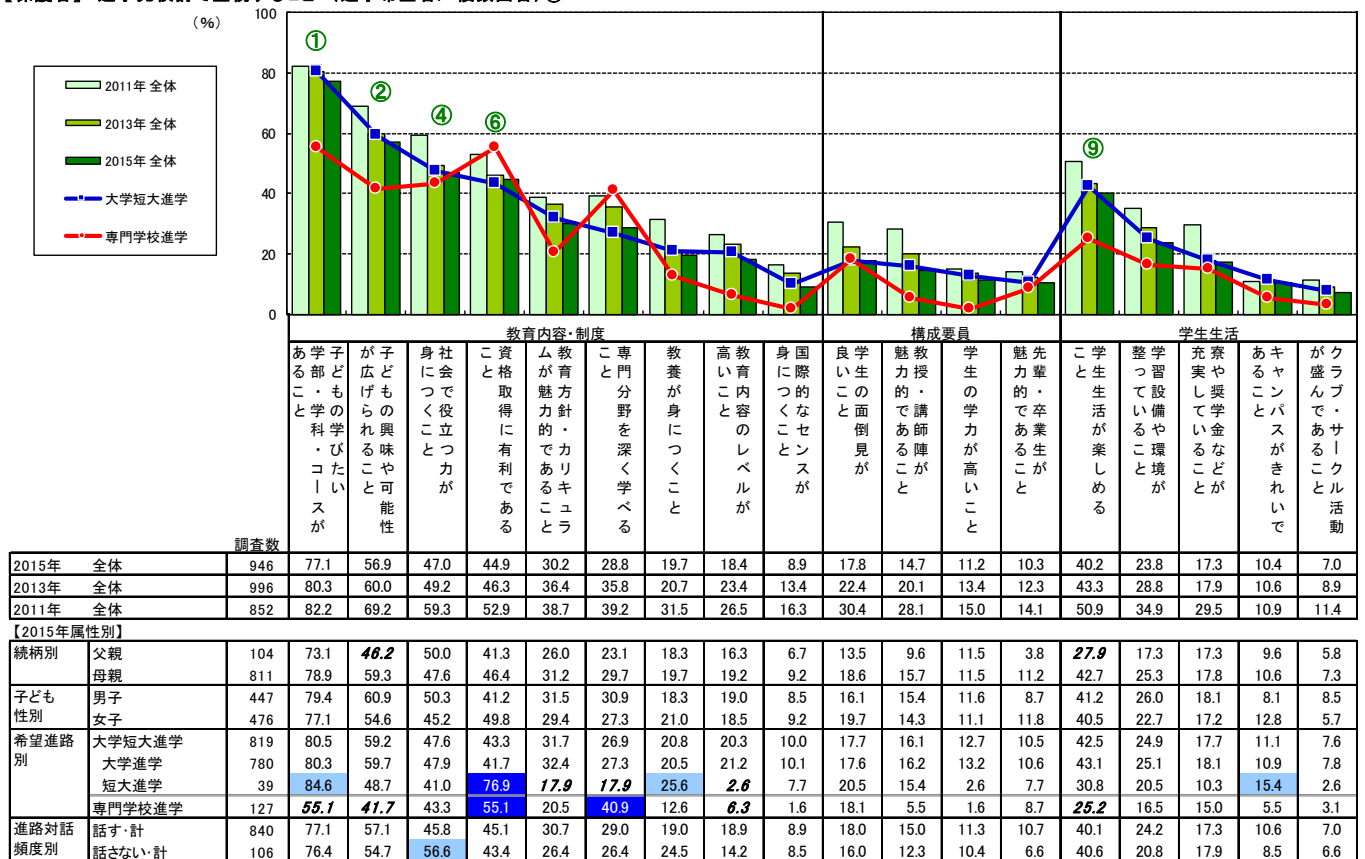
26.進学先検討の重視点

▶ 子どもの進学を希望する保護者が進学先検討で重視するのは、教育内容・制度や卒業後の就職に関する事柄が多い。

- ① 子どもの学びたい学部・学科・コースがあること (77%)
- ② 子どもの興味や可能性が上げられること (57%)
- ③ 就職に有利であること (56%)
- ④ 社会で役立つ力が身につくこと (47%)
- ⑤ 卒業後に社会で活躍できること (46%)
- ⑥ 資格取得に有利であること (45%)
- ⑦ 学費が高くないこと (44%)
- ⑧ 将来の選択肢が増えること (43%)
- ⑨ 学生生活が楽しめること (40%)
- ⑩ 勉強するのによい環境であること (36%)

● 子どもの進学先の学校を考える際に、重視するのはどのようなことか、すべて選んでもらった。回答上位は上記のとおり。「子どもの学びたい学部・学科・コースがあること」「子どもの興味や可能性が上げられること」が上位に挙がっており、子ども自身の希望や興味が重視されている。

【保護者】 進学先検討で重視すること (進学希望者／複数回答)①



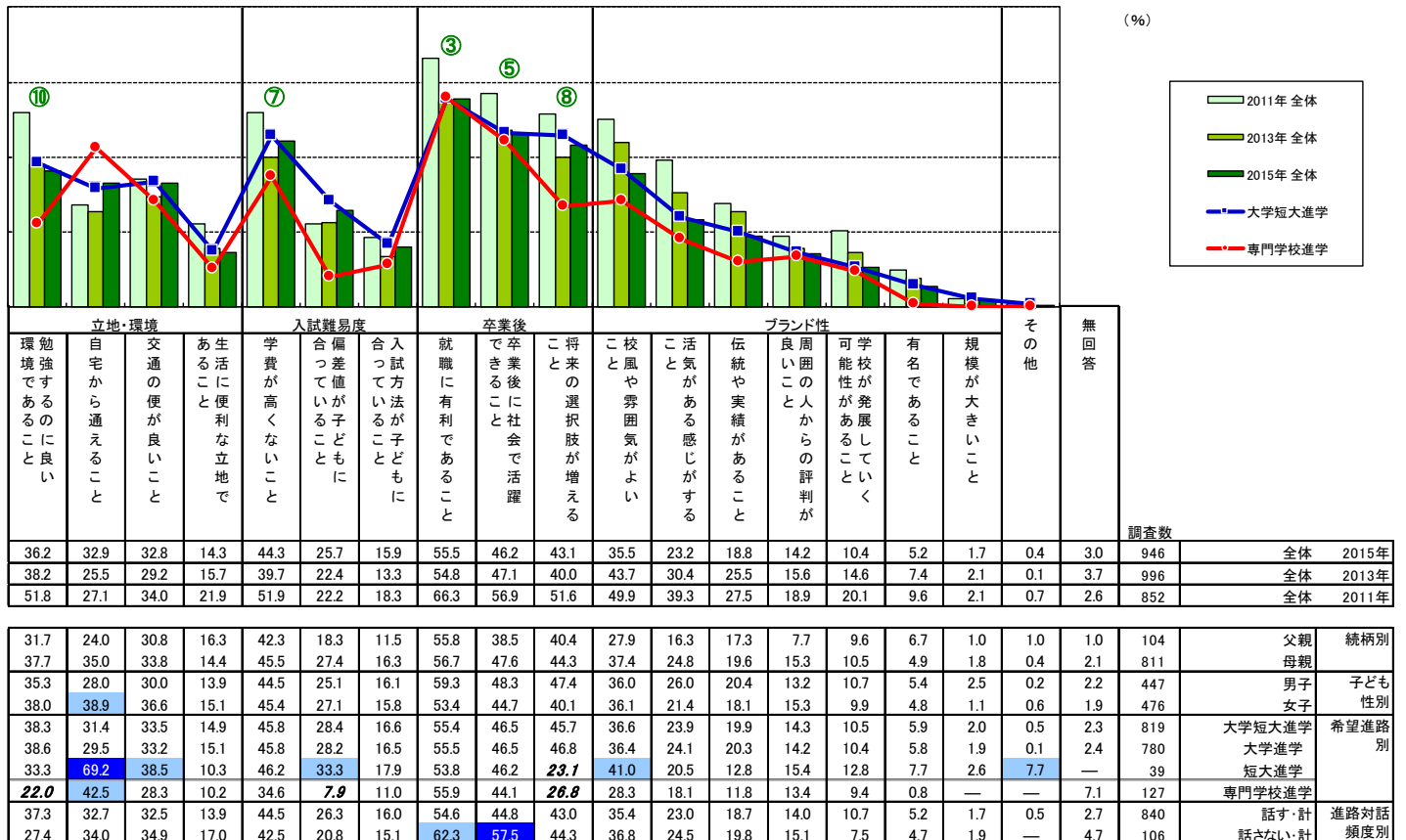
※ カテゴリーごとに「2015年全体」降順ソート

※【2015年属性別】 10 「2015年全体」より10ポイント以上高い
 5 「2015年全体」より5ポイント以上高い
 -10 「2015年全体」より10ポイント以上低い

Hh_Q14

- 続柄別にみると、父親よりも母親のほうが全般にスコアが高く、重視項目が幅広い。特に両者のスコア差が大きいのは「子どもの興味や可能性が広げられること」「学生生活が楽しめること」。父親のスコアが母親を上回る項目は「社会で役立つ力が身に就くこと」「生活に便利な土地であること」であり、父親は実利を重視している傾向がみられる。
- 子ども性別にみると、女子は男子に比べて「自宅から通えること」が高く、男子に比べ地元志向が強い。
- 希望進路別にみると、いずれの進路希望者も「子どもの学びたい学部・学科・コースがあること」がトップ。専門学校進学希望者は「資格取得に有利であること」「専門分野を深く学べること」が相対的に高く、相対的に重視度が高い。

【保護者】進学先検討で重視すること（進学希望者／複数回答）②



27.保護者の進路選択行動

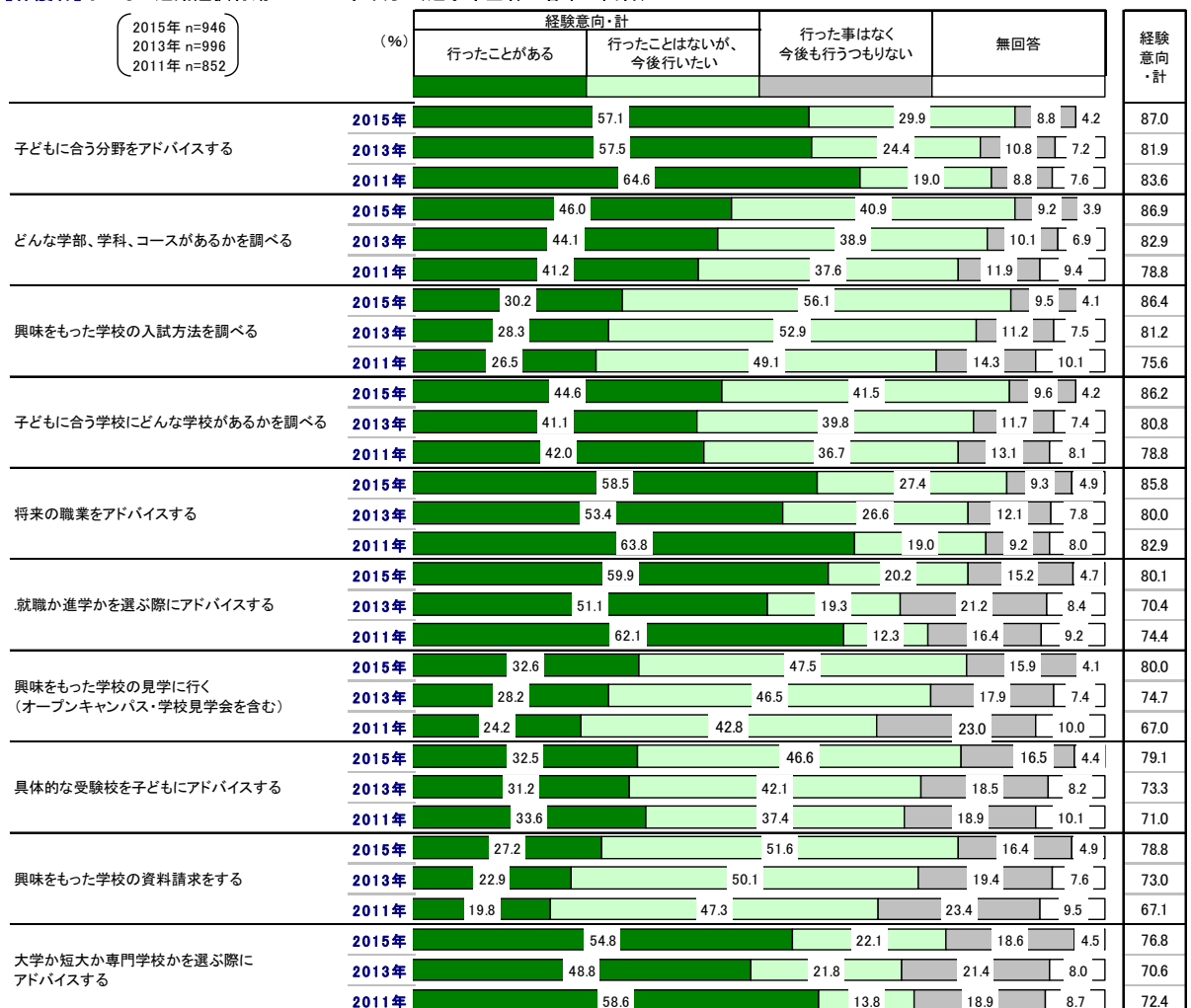
1)子どもの進路選択行動への関与状況

▶「行ったことがある」行動は進路先検討・職業・分野の“アドバイス”が多く、今後行いたい行動は興味をもった学校を“調べる”こと。

▶2013年に比べ、いずれの項目も経験または意向がある割合(経験意向・計)は増加しており、進路選択行動への関わりを増そうとしている。

- 子どもの進学を希望する保護者に、子どもの進路選択行動10項目それぞれについて保護者としてどうかかわっているか、今後どうしたいかを尋ねた。
- 子どもが高校2年生の時点で、すでに「行ったことがある」行動は、進路選択するための「アドバイス」に関する行動が多い。
 - ①就職か進学かを選ぶ際にアドバイスする (60%)
 - ②将来の職業をアドバイスする (59%)
 - ③子どもに合う分野をアドバイスする (57%)
 - ④大学か短大か専門学校かを選ぶ際にアドバイスする (55%)
- 子どもが高校2年生の時点で、「行ったことはないが今後行いたい」行動は、具体的進路検討のため「調べる」行動が多い。
 - ①興味をもった学校の入試方法を調べる (56%)
 - ②興味をもった学校の資料請求をする (52%)
 - ③興味をもった学校の見学に行く (48%)
- 過去調査の結果と比較すると、2013年に比べて、いずれの項目も経験または意向がある割合(経験意向・計)は増加した。

【保護者】子どもの進路選択行動へのかかわり方 (進学希望者／各単一回答)



Hh_Q12M

2) 子どもの進路選択行動への関与状況：経験意向・計

▶ 関与の経験・意向すなわち「行ったことがある」「今後行いたい」合計は、進学先の情報収集と子どもに合う分野・職業のアドバイスを上位。

- ① 子どもに合う分野をアドバイスする (87%)
- ② どんな学部、学科、コースがあるかを調べる (87%)
- ③ 興味をもった学校の入試方法を調べる (86%)
- ④ 子どもに合う学校にどんな学校があるかを調べる (86%)
- ⑤ 将来の職業をアドバイスする (86%)

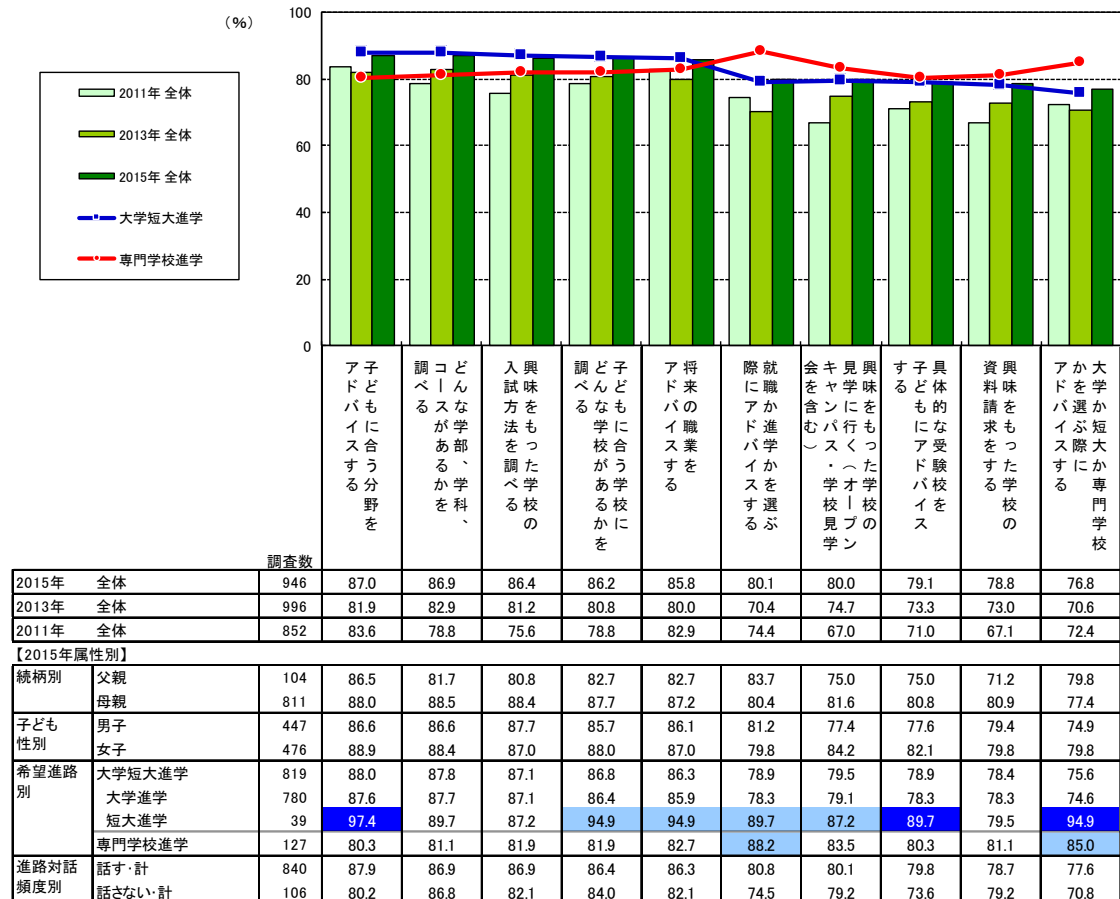
● 続柄別にみると、父親よりも母親のほうが全般にスコアが高め。父親のスコアが上回っている項目は「就職が進学かを選ぶ際にアドバイスする」「大学か短大か専門学校かを選ぶ際にアドバイスする」の2項目のみ。

● 子ども性別にみると、女子は男子に比べて「興味を持った学校の見学に行く」のスコアが高い。

● 希望進路別にみると、大学短大進学希望者のトップは「子どもに合う分野をアドバイスする」。

一方、専門学校進学希望者のトップは「就職か進学かを選ぶ際にアドバイスする」であり9割弱に達するほか、「大学か短大か専門学校かを選ぶ際にアドバイスする」が大学短大進学希望者に比べ高く、就職か進学か、大学・短大か専門学校かを選ぶ際の関与が目立つ。

【保護者】進路選択行動の関わり方：「経験意向・計（行ったことがある＋今後行いたい）」の割合（進学希望者／各単一回答）



※「2015年全体」降順ソート

※【2015年属性別】

10 「2015年全体」より10ポイント以上高い
5 「2015年全体」より5ポイント以上高い
-10 「2015年全体」より10ポイント以上低い

HH_Q13

3)子どもの進路選択行動に具体的にかかわる理由

▶保護者が子どもの進路選択に関与する理由は、「子どもと一緒に考えたいから」。

- ①子どもと一緒に考えたいから (66%)
②具体的な情報を知らないと言進路についての会話ができないから (55%)

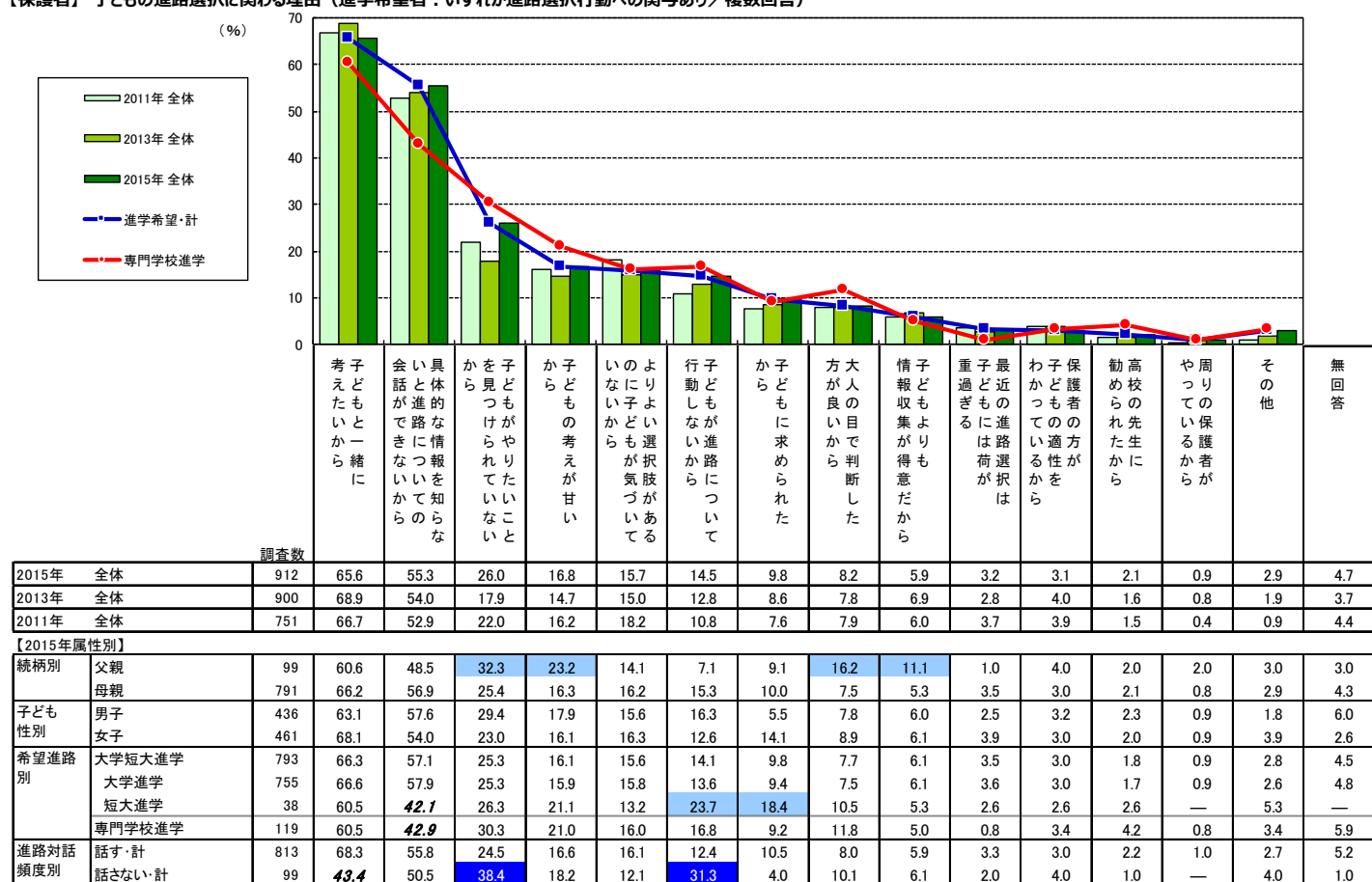
●44ページで子どもの進路選択行動の関与を「行ったことがある」「今後行いたい」と回答した保護者に、関与する理由をすべて選んでもらった。トップは「子どもと一緒に考えたいから」、ついで「具体的な情報を知らない」と会話ができないから」が過半数に達し、突出。子どもと一緒に考え、会話をするなど協力し合おうとする保護者が多い。以下、「子どもがやりたいことをみつけられていないから」「子どもの考えが甘いから」「より良い選択肢があるのに子どもが気づいていないから」が続くが3割以下。

●続柄別にみると、「子どもと一緒に考えたいから」は母親が66%と父親(61%)より高く、子どもと共に進路を検討したい意向が突出。父親は母親に比べ「子どもがやりたいことをみつけられていないから」「子どもの考えが甘いから」「大人の目で判断したほうが良いから」「子どもよりも情報収集が得意だから」のスコアが高く、保護者として指導的な関与をしようという意向がうかがえる。

●子ども性別にみると、男子は女子に比べ「子どもがやりたいことを見つけられていないから」がやや高く、女子は男子に比べて「子どもから求められたから」がやや高い。

●希望進路別にみると、大学短大進学希望者は専門学校進学希望者に比べて、「具体的な情報を知らない」と進路についての会話ができないから」がやや高く、専門学校進学希望者は大学短大進学希望者に比べて「子どもがやりたいことを見つけれられていないから」のスコアがやや高い。

【保護者】 子どもの進路選択に関わる理由（進学希望者：いずれか進路選択行動への関与あり／複数回答）



※「2015年全体」降順ソート

※【2015年属性別】

10	「2015年全体」より10ポイント以上高い
5	「2015年全体」より5ポイント以上高い
-10	「2015年全体」より10ポイント以上低い

Hh Q13 SQ1

V 学校での教育

28.現在持っている能力と将来必要とされる能力

▶ 高校生が考える将来必要とされる能力は「主体性」(54%)、「実行力」(43%)、「発信力」(33%)。

▶ 現在持っている能力は「傾聴力」(32%)、「規律性」(29%)、「柔軟性」(24%)。

▶ 将来必要とされるが現在の自分に不足している能力は、「主体性」「実行力」「発信力」の順に高い。

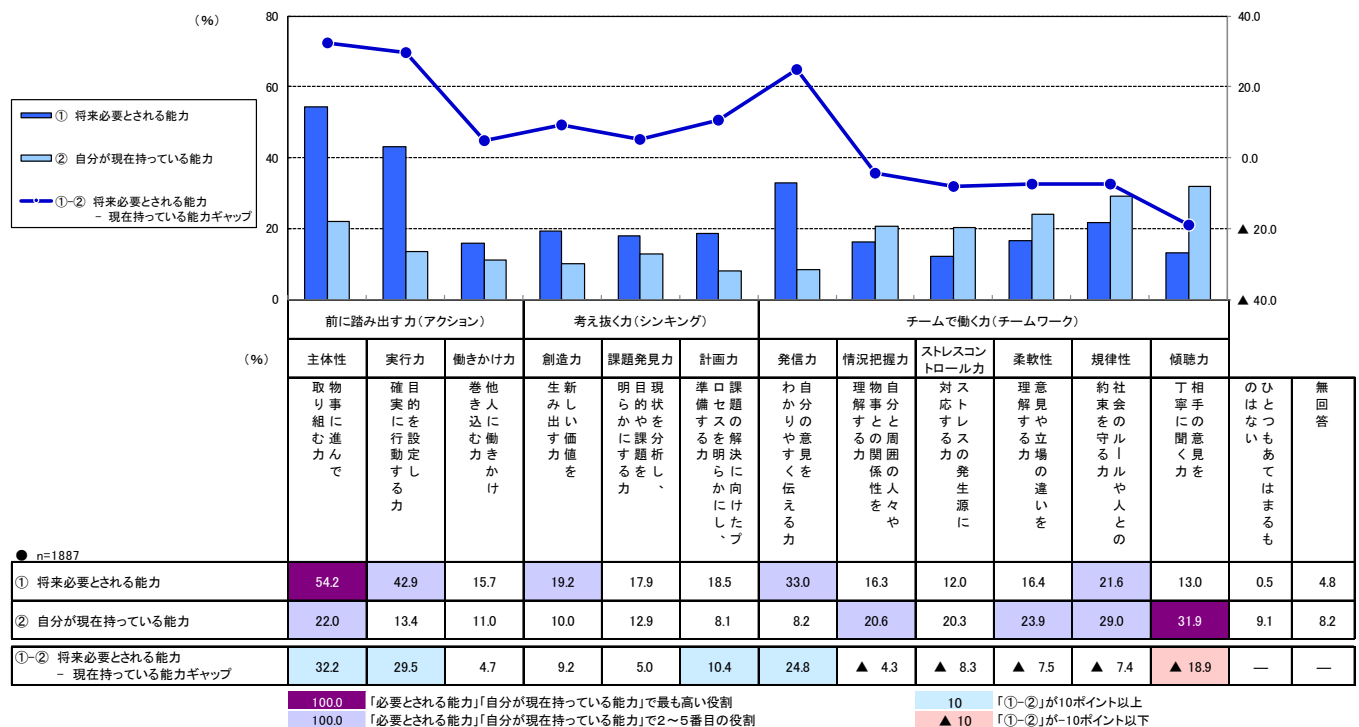
● 経済産業省で定義されている『社会人基礎力』3つの能力(12の能力要素)のうち、「将来、社会で働くにあたり特に必要とされる能力」と「現在持っている能力」を、それぞれ3つまで高校生に選んでもらった。

● 高校生が考える将来必要とされる能力は、「物事に進んで取り組む力(主体性)」(54%)がトップ。以下、「目的を設定し確実に行動する力(実行力)」(43%)、「自分の意見をわかりやすく伝える力(発信力)」(33%)、「社会のルールや人との約束を守る力(規律性)」(22%)、「新しい価値を生み出す力(想像力)」(19%)が続く。

● 高校生が考える現在持っている能力は、「相手の意見を丁寧に聞く力(傾聴力)」(32%)がトップ。以下「社会のルールや人との約束を守る力(規律性)」(29%)、「意見や立場の違いを理解する力(柔軟性)」(24%)、「物事に進んで取り組む力(主体性)」(22%)、「自分と周囲の人々や物事との関係を理解する力(状況把握力)」(21%)が続く。

● 高校生が考える将来必要とされるが現在の自分に不足している能力(将来必要とされる能力-現在持っている能力ギャップ)は、「物事に進んで取り組む力(主体性)」(32%)がトップ。以下、「目的を設定し確実に行動する力(実行力)」(29%)、「自分の意見をわかりやすく伝える力(発信力)」(25%)が続く。

【高校生】「社会で働くにあたり必要とされる能力」と「自分が現在持っている能力」(全体/各3項目まで複数回答)



▶ 保護者が考える将来必要とされる能力は「主体性」(55%)、「実行力」(41%)、「規律性」(28%)。

▶ 子どもが現在持っている能力は「規律性」(48%)、「主体性」(32%)、「傾聴力」(27%)。

▶ 将来必要とされるが子どもに不足している能力は、「主体性」「実行力」「発信力」の順に高い。

▶ 将来必要な能力の上位3項目のうち、「規律性」は備わっているという認識。

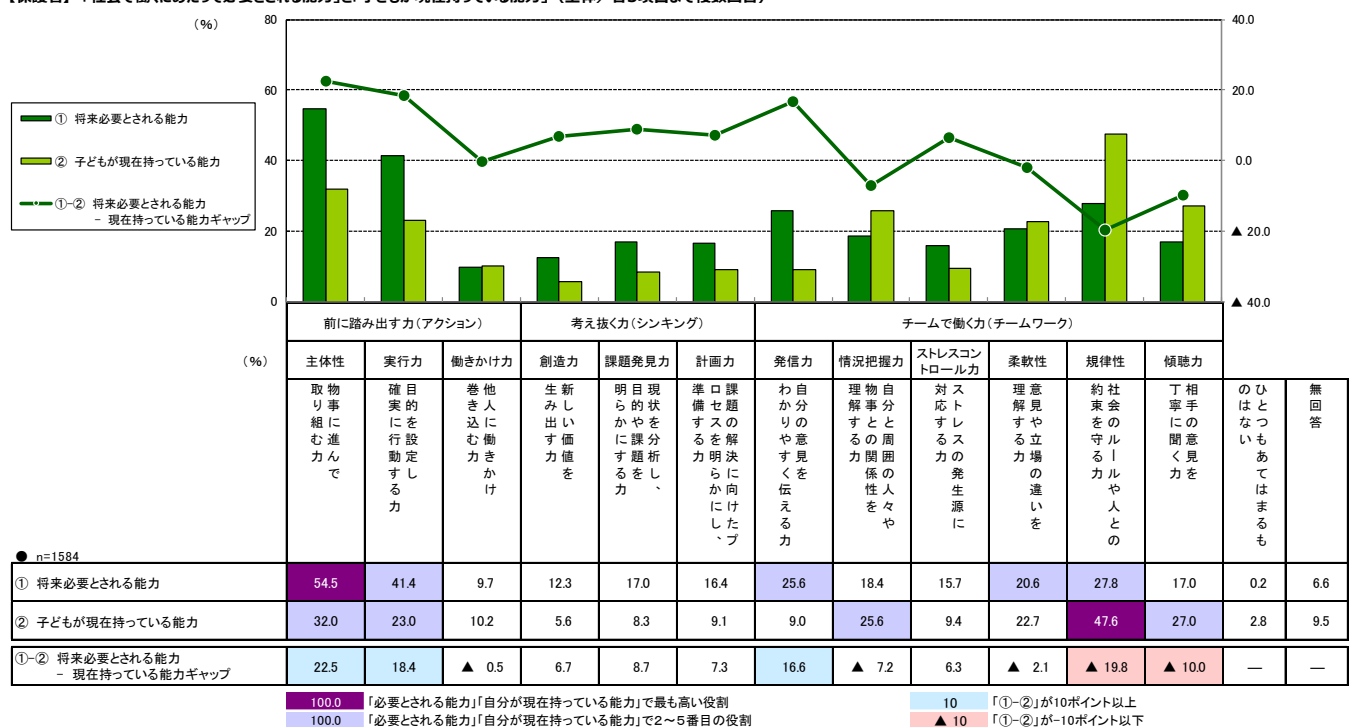
● 同じく保護者に「将来、社会で働くにあたり特に必要とされる能力」と「現在持っている能力」をそれぞれ3つまで選んでもらった。

● 保護者が考える将来必要とされる能力は、「物事に進んで取り組む力(主体性)」(55%)がトップ。以下、「目的を設定し確実に行動する力(実行力)」(41%)、「社会のルールや人との約束を守る力(規律性)」(28%)、「自分の意見をわかりやすく伝える力(発信力)」(26%)、「意見や立場の違いを理解する力(柔軟性)」(21%)が続く。

● 保護者が考える子どもが現在持っている能力は、「社会のルールや人との約束を守る力(規律性)」(48%)がトップ。以下、「物事に進んで取り組む力(主体性)」(32%)、「相手の意見を丁寧に聞く力(傾聴力)」(27%)、「自分と周囲の人々や物事との関係を理解する力(状況把握力)」(26%)、「目的を設定し確実に行動する力(実行力)」(23%)が続く。

● 保護者が考える将来必要とされるが現在子供に不足している能力(将来必要とされる能力-現在持っている能力ギャップ)は、「物事に進んで取り組む力(主体性)」(23%)がトップ。以下、「目的を設定し確実に行動する力(実行力)」(18%)、「自分の意見をわかりやすく伝える力(発信力)」(17%)が続く。

【保護者】「社会で働くにあたって必要とされる能力」と「子どもが現在持っている能力」(全体/各3項目まで複数回答)



29.必要な能力を身につけるために有効な活動

▶ 高校生が考える、必要な能力を身につけるのに最も有効な活動は、「部・クラブ活動の時間」。

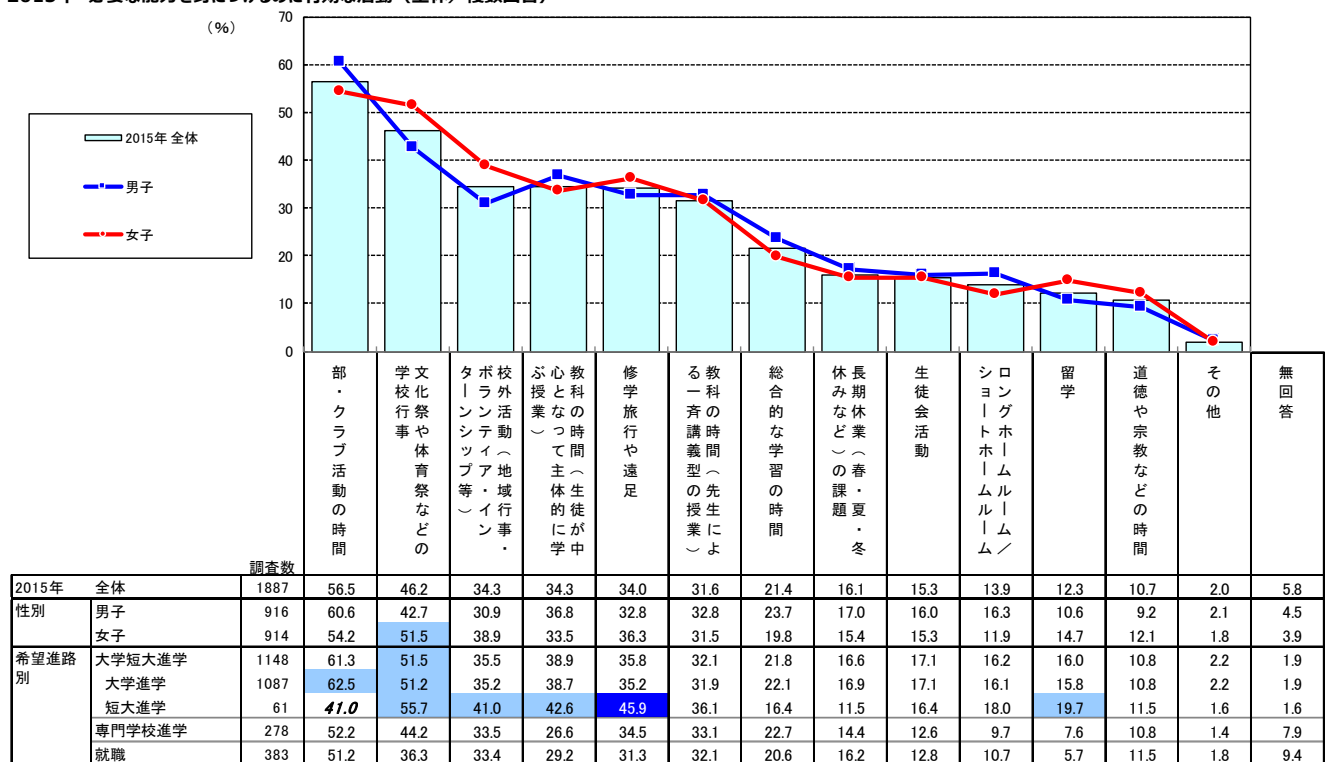
- ① 部・クラブ活動の時間 (57%)
- ② 文化祭や体育祭などの学校行事 (46%)
- ③ 校外活動(地域行事・ボランティア・インターンシップ等) (34%)
- ④ 教科の時間(生徒が中心となって主体的に学ぶ授業) (34%)
- ⑤ 修学旅行や遠足 (34%)

●経済産業省で定義されている『社会人基礎力』を身につけるのに有効な活動を高校生に尋ねたところ、トップは「部・クラブ活動の時間」(57%)で半数を超える。

●性別にみると、女子は男子に比べて「文化祭や体育祭などの学校行事」が高い。

●希望進路別にみると、大学短大進学希望者は「部・クラブ活動の時間」「文化祭や体育祭などの学校行事」が他層に比べて高い

2015年 必要な能力を身につけるのに有効な活動（全体／複数回答）



※「2015年全体」降順ソート

※【2015年属性別】

10 「2015年全体」より10ポイント以上高い

5 「2015年全体」より5ポイント以上高い

-10 「2015年全体」より10ポイント以上低い

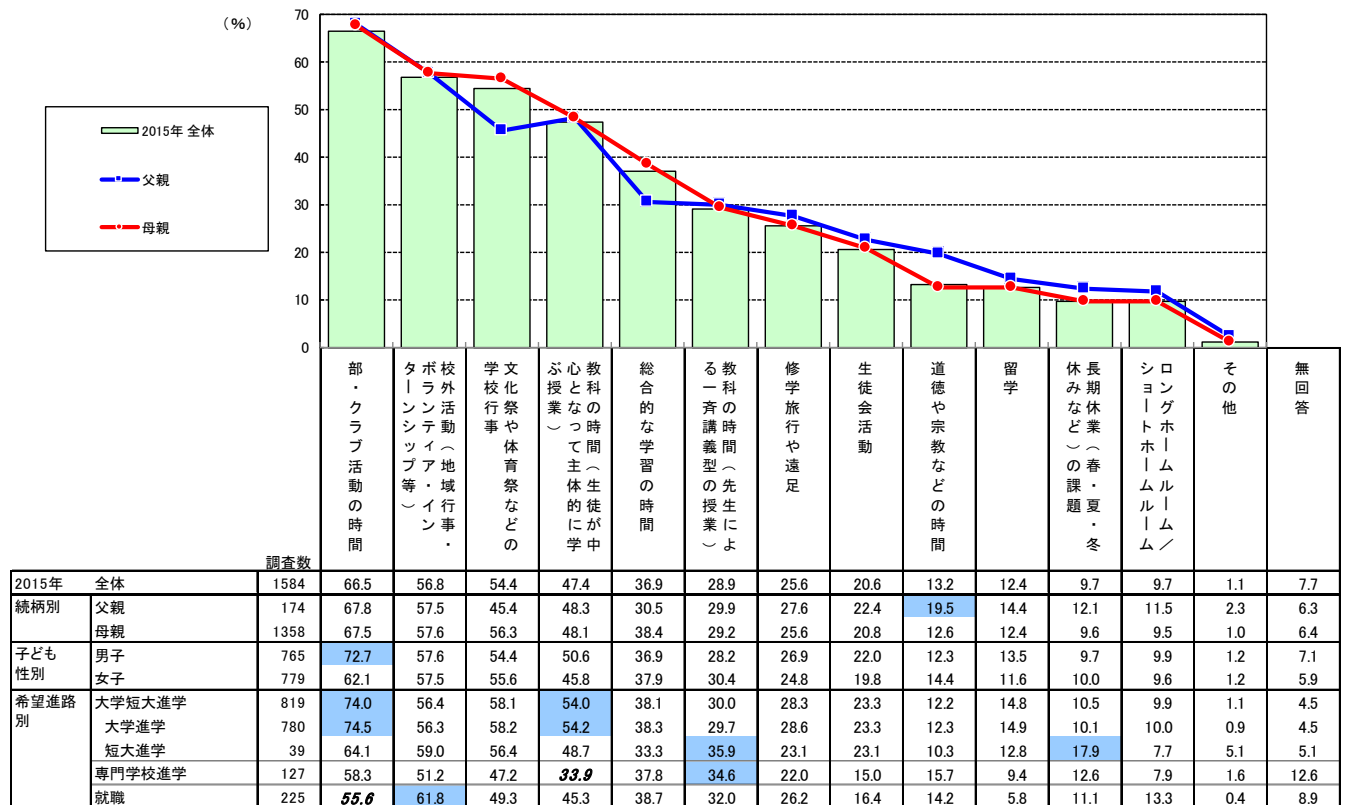
Kh_Q28_SQ1

▶保護者が考える、必要な能力を身につけるのに最も有効な活動は、「部・クラブ活動の時間」。

- ① 部・クラブ活動の時間 (67%)
- ② 校外活動(地域行事・ボランティア・インターンシップ等) (57%)
- ③ 文化祭や体育祭などの学校行事 (54%)
- ④ 教科の時間(生徒が中心となって主体的に学ぶ授業) (47%)
- ⑤ 総合的な学習の時間 (37%)

- 同じく『社会人基礎力』を身につけるのに有効な活動を保護者に尋ねたところ、トップは「部・クラブ活動の時間」(67%)で約7割。
- 保護者の続柄別にみると、父親は母親に比べて「道徳や宗教などの時間」が高い。母親は父親に比べて「文化祭や体育祭などの学校行事」「総合的な学習の時間」が高い。
- 子どもの性別にみると、男子は女子に比べて「部・クラブ活動の時間」が高い。
- 希望進路別にみると、大学短大進学希望者は「部・クラブ活動の時間」「文化祭や体育祭などの学校行事」が他層に比べて高く、就職希望者は「校外活動(地域行事・ボランティア・インターンシップ等)」が高い。

【保護者】 必要な能力を身につけるのに有効な活動 (全体／複数回答)



※「2015年全体」降順ソート

※【2015年属性別】

10 「2015年全体」より10ポイント以上高い

5 「2015年全体」より5ポイント以上高い

-10 「2015年全体」より10ポイント以上低い

Hh_Q22_SQ1

Ⅵ 家庭での教育

30.家庭教育の実施状況

▶ 高校生が子どものころから家庭で感じてきた教育は

- ① 保護者に「自分で選択し、それに責任をもつ」ように言われてきた (69%)
- ② 家族で自分の本音を話してきたと思う (67%)
- ③ 保護者に「夢や目標をもつことは大切だ」と言われてきた (62%)

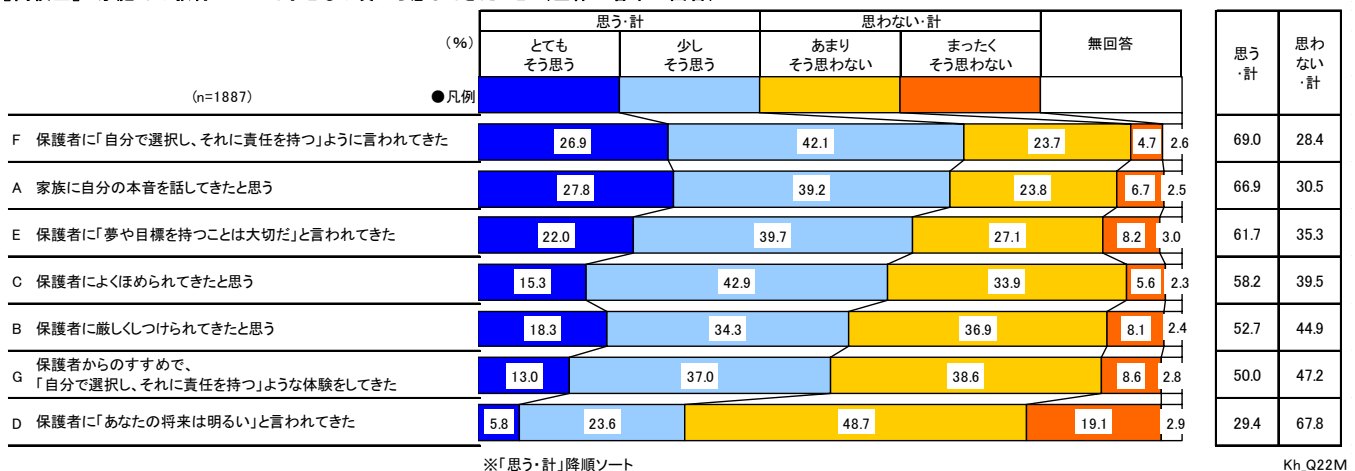
▶ 保護者が高校生が子どものころから心がけてきた家庭での教育は

- ① 「自分で選択し、それに責任をもつ」ことの大切さを伝えてきた (83%)
- ② 「夢や目標をもつことは大切だ」ということを伝えてきた (82%)
- ③ お子さんが本音で話せるような家族の雰囲気づくりを心がけてきた(81%)

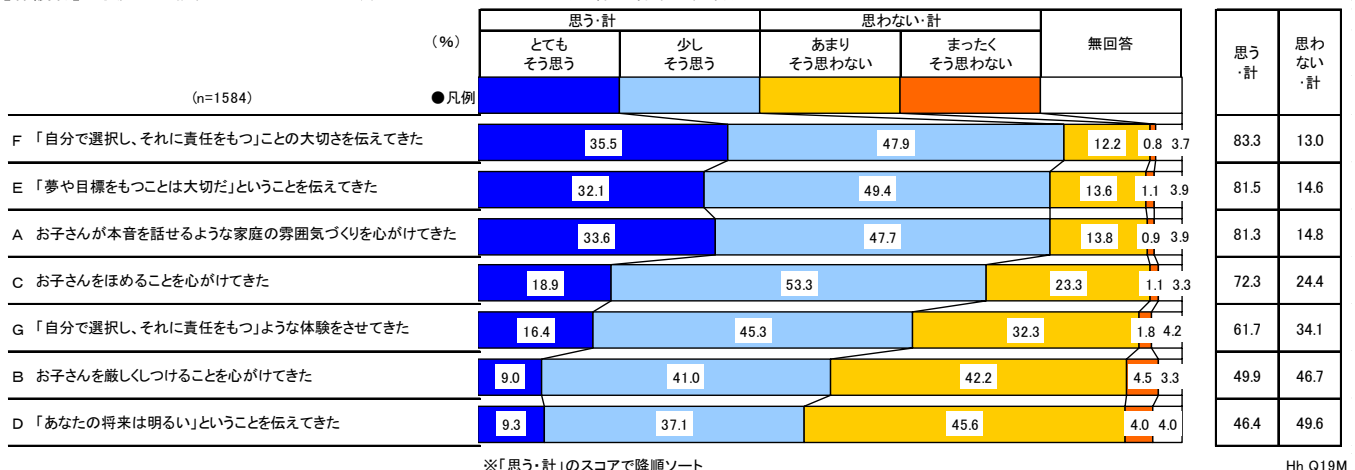
▶ 過去調査同様、保護者の「心がけてきた」という認識が高校生の実感に比べ高い傾向が続く。

- 高校生は幼少期からどのような家庭教育を受けてきたか、高校生と保護者に、7項目それぞれについてどう思うか尋ねた。高校生・保護者それぞれ、「とてもそう思う」「少しそう思う」の合計値が高い項目は上記のとおり(思う・計)。高校生が感じてきた、保護者が心がけてきた家庭教育上位3項目の顔ぶれは一致している。
 - 「思う・計」の割合は、「厳しくしつけられてきた／厳しくしつけることを心がけてきた」を除き、保護者のスコアが高校生を上回っており、保護者は家庭教育を実施してきたという認識が子どもの実感よりも高い。特に両者のスコア差が大きいのは「本音を話してきた(67%)／本音で話せる雰囲気づくり(82%)」。
- 一方、「しつけ」に関しては、高校生の「厳しくしつけられてきた」(53%)、保護者の「厳しくしつけることを心がけてきた」(50%)は両者のスコア差が小さく、認識は同程度。

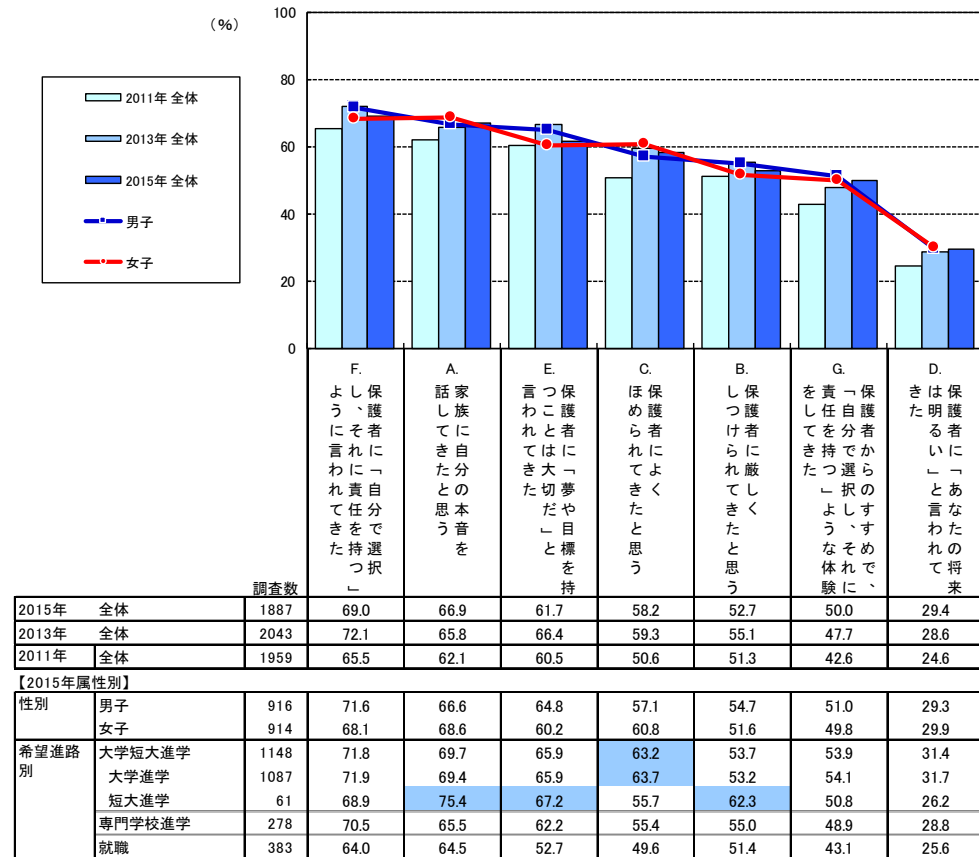
【高校生】 家庭での教育について子どもの頃から感じてきたこと (全体／各単一回答)



【保護者】 家庭での教育について子どもの頃から心がけてきたこと (全体／各単一回答)



【高校生】 家庭での教育について子供の頃から感じてきたこと（全体／「思う・計」）



※「2015年全体」降順ソート

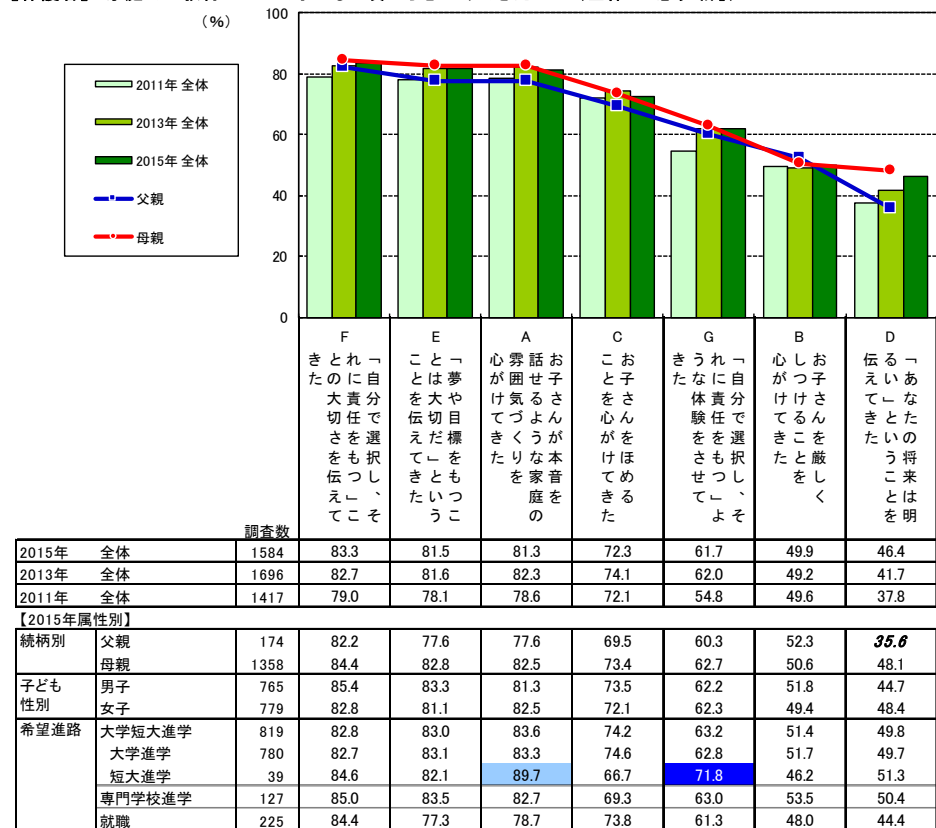
Kh_Q22

※【2015年属性別】 10 「2015年全体」より10ポイント以上高い

5 「2015年全体」より5ポイント以上高い

-10 「2015年全体」より10ポイント以上低い

【保護者】 家庭での教育について子どもの頃から心がけてきたこと（全体／「思う・計」）



※「2015年全体」降順ソート

Hh_Q19

※【2015年属性別】 10 「2015年全体」より10ポイント以上高い

5 「2015年全体」より5ポイント以上高い

-10 「2015年全体」より10ポイント以上低い

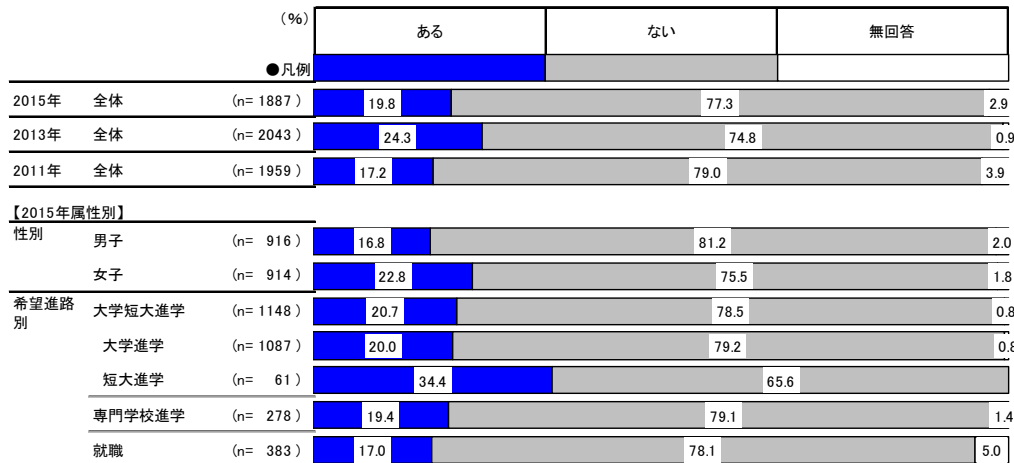
31.なぜ学び・働くのかについての話し合い／その内容

1)なぜ学ぶのか

▶『なぜ勉強しなければいけないのか』話し合ったことが「ある」高校生は20%、保護者は51%。

- 「なぜ勉強しなければいけないのか」話し合ったことがあるかという質問に、高校生の20%が「ある」。一方、保護者は話し合ったことが「ある」は51%と過半数を占め、高校生の認識とはギャップがある。
- 話し合った内容を書いてもらったところ、双方から将来への影響に関する意見が挙がった。

【高校生】「なぜ勉強しなければいけないのか」保護者と話し合ったことがあるか（全体／単一回答）

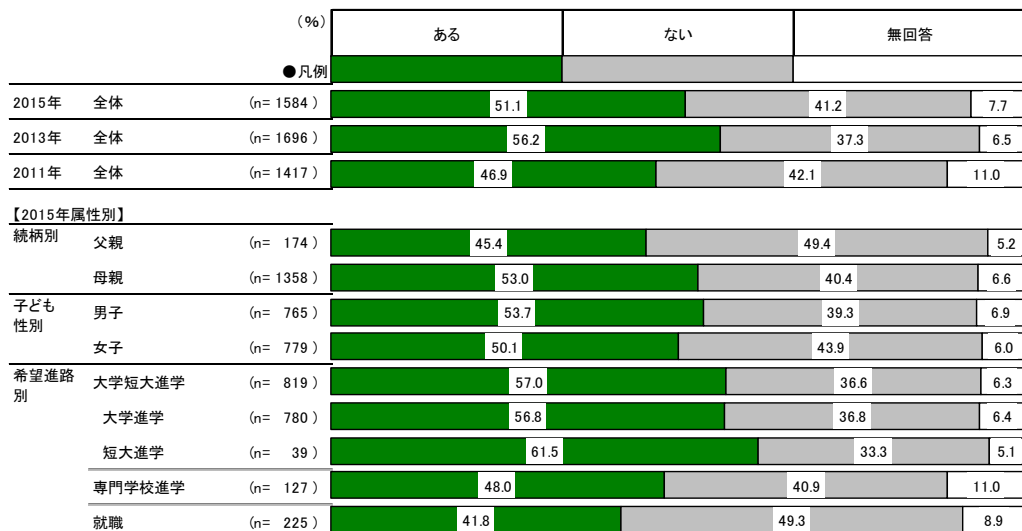


Kh_Q23

<フリーコメント> 「なぜ勉強しなければいけないのか」話し合った内容【高校生】

- 今勉強をがんばることで、将来の自分の職業などを良いものにするため、ということ。[福岡県/女子/大学]
- 自分の力で自分の道を進むための最底限必要な力をつけることが勉強[広島県/男子/大学]
- 良い大学に行き、良い会社に就職するため[広島県/男子/大学]
- 知識を得ることは喜びであり、また自分を優位な立場にするものである。[北海道/女子/大学]
- 直接生活に関わらなくても、論理的に考えたり、心情を察したりというようなことの訓練になる。[北海道/女子/大学]

【保護者】「なぜ勉強しなければいけないのか」子どもと話し合ったことがあるか（全体／単一回答）



Hh_Q20

<フリーコメント> 「なぜ勉強しなければいけないのか」話し合った内容【保護者】

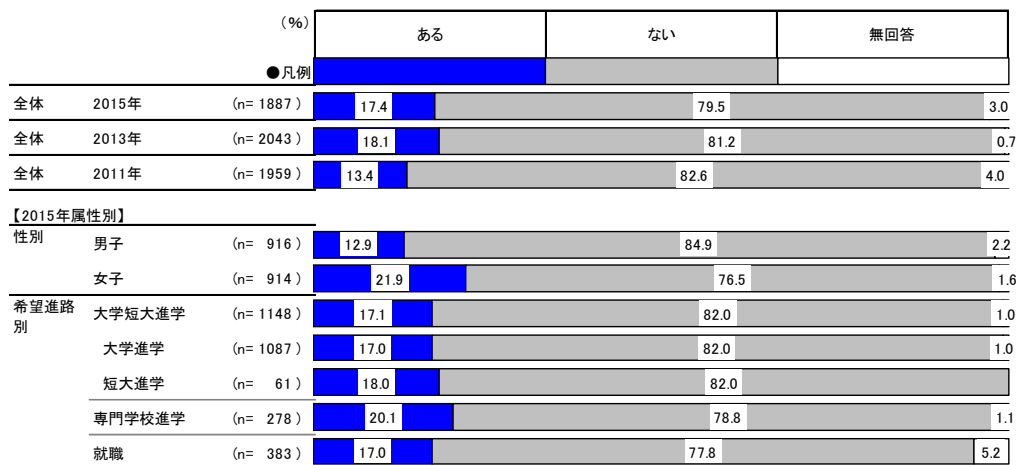
- さまざまな知識を身につければ将来職業を選択する時の選択肢の幅を広げたり可能性を大きくすることができる。[広島県/母親/女子]
- 希望の進学、就職に進むために学力は必要であるということを伝えてきました。[広島県/母親/男子]
- 自分が望んでいる職につきたいのなら勉強をしなければ先に進めない[群馬県/母親/男子]
- 将来、やりたい仕事、理想の生活を送るには、学生時代に勉強で努力することが必要。[福岡県/母親/男子]
- 将来自分がやりたい仕事に就き、働き続けて行くために知識と、知識を吸収する能力が必要であること[群馬県/父親/男子]
- いろいろな事を学んでみないと自分の好きな事やりたい事が見つけられないということ[広島県/母親/男子]

2)なぜ働くのか

▶『将来なぜ働かなければいけないのか』話し合ったことが「ある」高校生は17%、保護者は46%。

- 「将来なぜ働かなければいけないのか」話し合ったことがあるかという質問に、高校生の17%が「ある」。一方、保護者は話し合ったことが「ある」は46%と、「なぜ勉強しなければいけないのか」と同様に高校生の認識を大きく上回る。
- 話し合った内容を書いてもらったところ、双方とも「生きるため・生活するため」「家族を養うため」など経済的理由の他、「社会貢献」といったものが挙げられた。

【高校生】「将来なぜ働かなければいけないのか」保護者と話し合ったことがあるか（全体／単一回答）

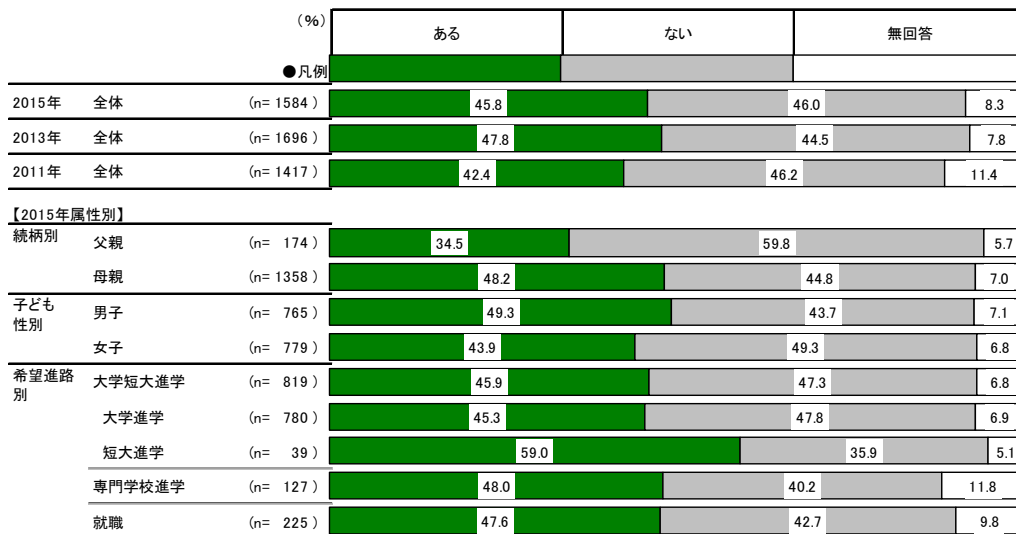


Kh_Q24

<フリーコメント> 「なぜ働かなければいけないのか」話し合った内容【高校生】

- 安定した生活を送るため。[福岡県/女子/大学]
- 自分の得意分野で社会に貢献するため、働く[兵庫県/男子/大学]
- 自分や、家族をやしなっていくためには自分が一生懸命働かないと、やしなっていくんだぞと言われた。[福岡県/男子/就職]
- 誰かのため、働くことによって誰かが助かる、つながりだとか[北海道/女子/留学]
- 生きていくためには金が必要だから[群馬県/女子/就職]
- 結論：人間として成長するため。[兵庫県/女子/大学]

【保護者】「なぜ働かなければいけないのか」子どもと話し合ったことがあるか（全体／単一回答）



Hh_Q21

<フリーコメント> 「なぜ働かなければいけないのか」話し合った内容【保護者】

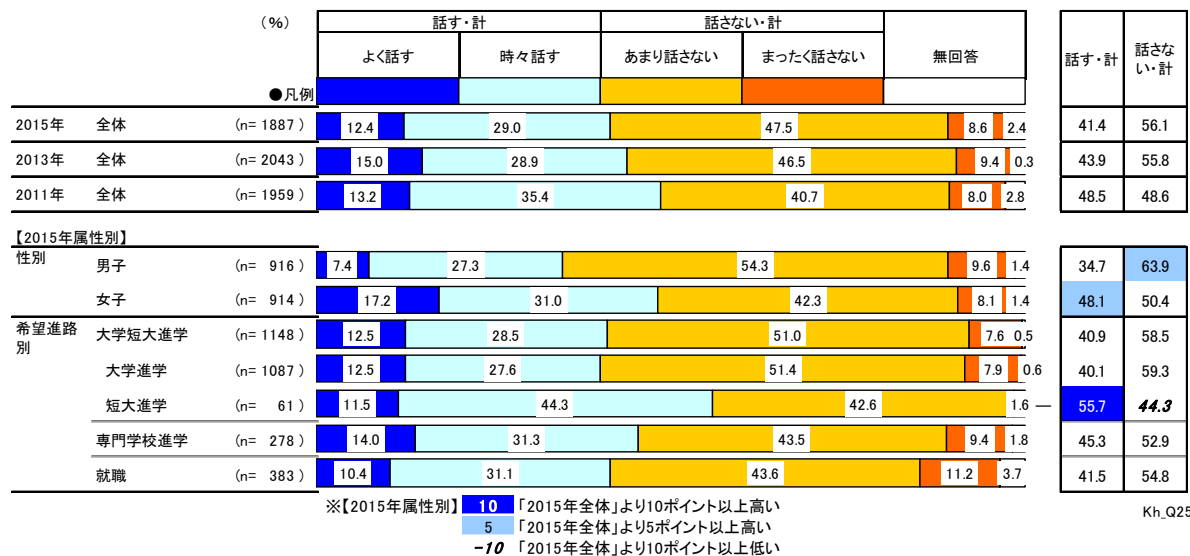
- 安定した生活をするため。[兵庫県/父親/男子]
- 社会の一員として世の中に役立つため。自分が生きていくため[広島県/母親/女子]
- 家庭をやしなっていかなければならないから。[兵庫県/母親/男子]
- 生きていく為には働かないといけない。そして、その仕事が楽しくできれば、人生は最高のモノになる。[三重県/母親/女子]
- 国民の三大義務の1つであり、働らかざるもの食うべからずと教える[兵庫県/母親/男子]

32. 保護者の仕事についての会話／その内容

▶ 保護者の仕事について、高校生の41%、保護者の68%が「話す」。

- 保護者の仕事の内容や楽しさ、大変さを話しているかという質問に、高校生は「よく話す」「時々話す」を合わせ41%が話している（話す・計）。一方、保護者は「話す・計」が68%と過半数を占め、高校生の認識を大きく上回る。
- 話している具体的な内容は、勤務先での日々の出来事が中心であるが、それを通してやりがい・稼ぐことの大切さ・がんばることの大切さを保護者は伝えようとしているようだ。

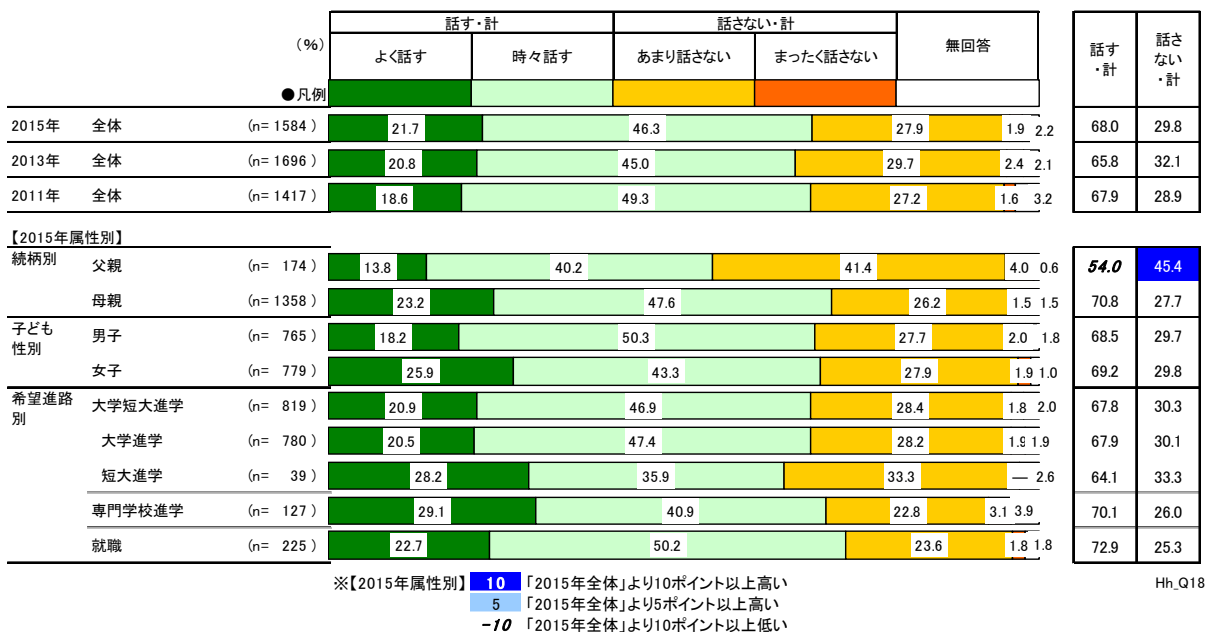
【高校生】 保護者の仕事の内容、楽しさや大変さについて話すことがあるか（全体／単一回答）



<フリーコメント> 保護者が話している内容【高校生】

- 保護者の職業の内容や苦勞、職場の人間関係など。[福岡県/女子/大学]
- 仕事内容や、人間関係、楽しかったことを教えてくれる。[福岡県/女子/大学]
- 仕事の内容ややりがいについて[福岡県/男子/大学]
- どんな仕事をしたか。今までやってきた仕事など。[東京都/女子/就職]

【保護者】 仕事の具体的な内容、楽しさについて子どもに話すことがあるか（全体／単一回答）



<フリーコメント> 子どもに話している内容【保護者】

- 仕事の大変さや資格の重要性、どんな仕事でも、やりたいと思ってやる仕事にはやりがいがあり、大変な時も気持ち次第で乗りこえられるという話。[群馬県/母親/女子]
- 仕事のやりがい、会社としてのあり方、他人と応対する事のむずかしさ [三重県/母親/女子]
- お金を稼ぐ事の大変さ、良い事も悪い事も含めて、父の仕事上の事を子供達には伝えている[宮城県/母親/男子]
- 仕事の内容、いやなことがあっても笑顔でがんばらないといけない。納得いかないこともはいと言ってしまう時もある。がんばれば誰かが必ず評価をくれる[兵庫県/母親/男子]
- やりがいのある感動的なことや、面白かったことなど。[北海道/母親/男子]
- 人間関係の厳しさ、それでも家庭を守るためには仕事をしなければならないこと。[群馬県/父親/男子]

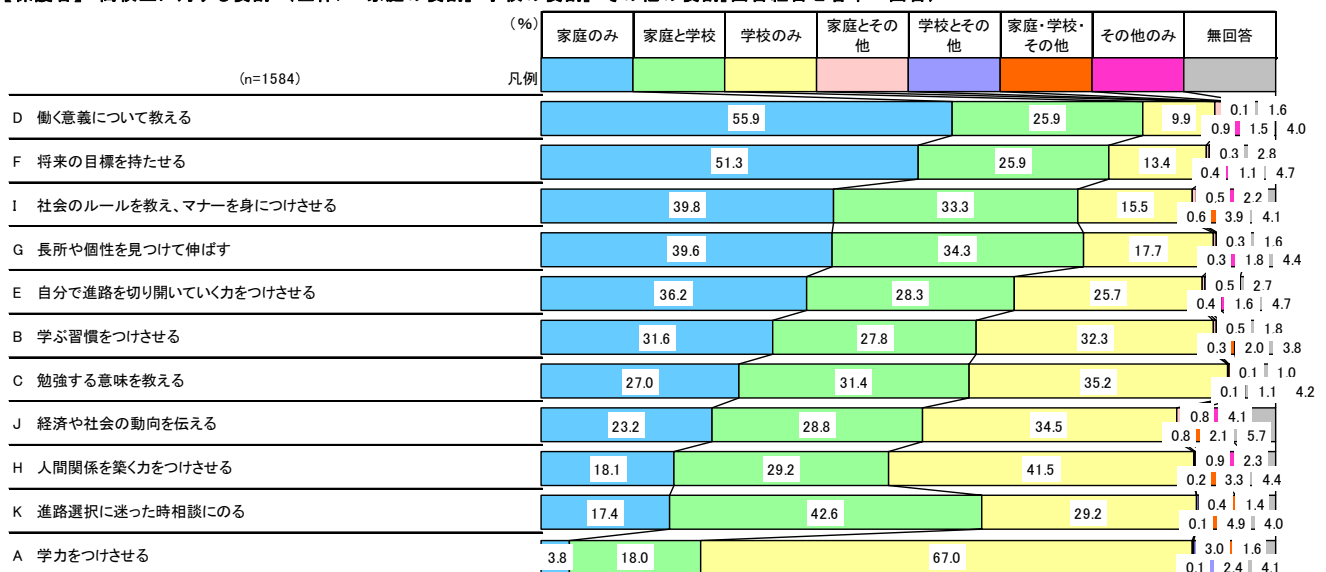
VII 学校への要望

33. 家庭と学校の役割に関する認識

▶ 保護者の高校生の教育に関して、「働く意義について教える」「将来の目標をもたせる」のは主に家庭の役割、「学力をつけさせる」のは主に学校の役割と認識。

- 高校生の教育に関する11項目について、「家庭」「学校」「その他」のうち誰の役割なのか。該当すると思うものを項目ごとに選んでもらい、回答状況を分類した。
- 「家庭のみ」の役割は、「働く意義について教える」「将来の目標をもたせる」が過半数。
 - ① 働く意義について教える (56%)
 - ② 将来の目標をもたせる (51%)
 - ③ 社会のルールを教え、マナーを身につけさせる (40%)
- 「家庭と学校」両方が役割を担う教育は、「進路選択に迷ったとき相談に乗る」「長所や個性をみつけて伸ばす」が多く、家庭と学校との連携を期待している。一方で、「長所や個性をみつけて伸ばす」は「家庭のみ」の回答も同程度おり、保護者によって認識が分かれるという結果である。
 - ① 進路選択に迷ったとき相談にのる (43%)
 - ② 長所や個性をみつけて伸ばす (34%)
- 「学校のみ」の役割は、保護者の7割が「学力をつけさせる」と回答。ついで「人間関係を築く力をつけさせる」「勉強する意味を教える」「経済や社会の動向を伝える」「学ぶ習慣をつけさせる」も3割と多く、学力に加え人間関係構築や経済動向についての指導も期待されている。
 - ① 学力をつけさせる (67%)
 - ② 人間関係を築く力をつけさせる (42%)
 - ③ 勉強する意味を教える (35%)
 - ④ 経済や社会の動向を伝える (35%)
 - ⑤ 学ぶ習慣をつけさせる (32%)

【保護者】 高校生に対する役割（全体／「家庭の役割」「学校の役割」「その他の役割」回答組合せ各単一回答）



※「家庭のみ」のスコアで降順ソート

Hh.Q27SA_M

34. キャリア教育の認知と期待／意見・要望

▶ 保護者の『キャリア教育』の認知率は33%。

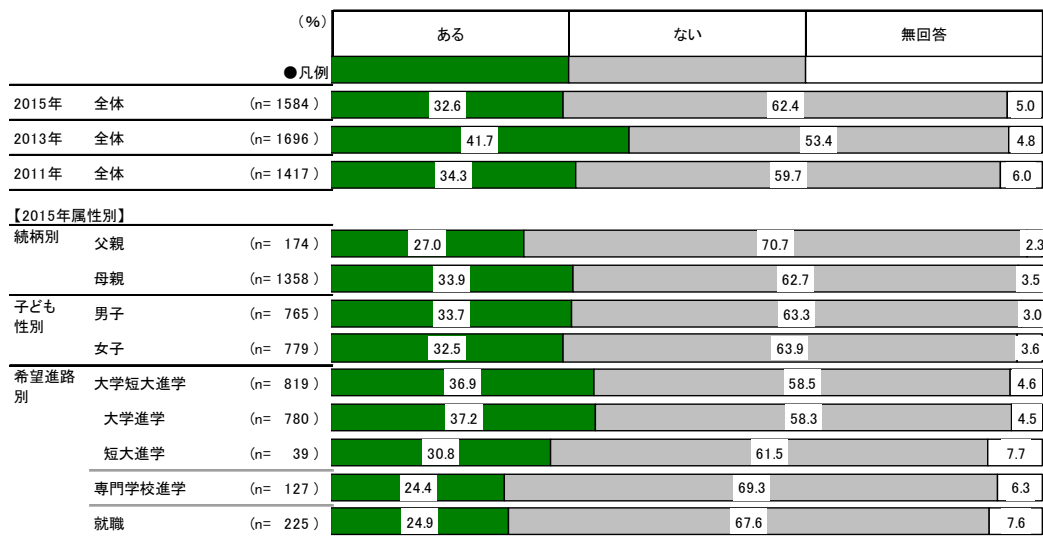
▶ 8割がキャリア教育について「良いことだと思う」が、「非常に良い」は減少傾向。

- 保護者に『キャリア教育』という言葉を知ったことがあるか尋ねたところ、33%が「ある」。過去調査と比較すると2013年に比べて認知率は低下した。
- 次に、キャリア教育の定義を提示したうえで、キャリア教育が推進されていくことをどう思うか尋ねた。「非常に良いこと」は26%、「まあまあ良いこと」の54%と合わせ80%が「良い」と評価している（思う・計）。過去調査と比較すると、「（良いと）思う・計」のスコアには変化がないが、「非常に良いことだと思う」のスコアは過去調査より減少傾向。

※調査で提示した『キャリア教育』の定義

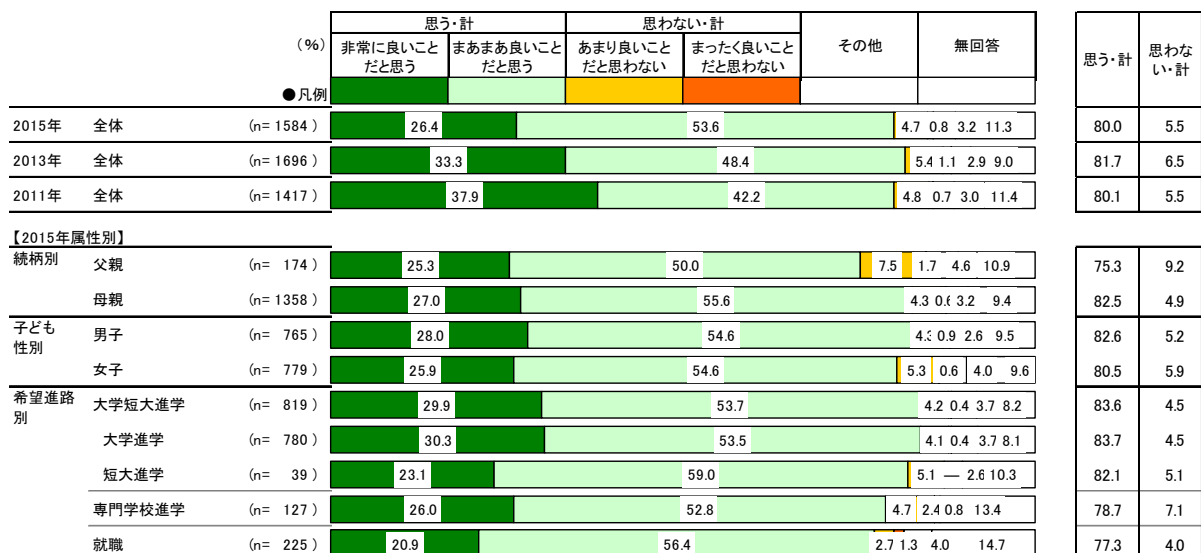
「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」

【保護者】2015年『キャリア教育』という言葉を知ったことがあるか（全体／単一回答）



Hh_Q29_1

【保護者】『キャリア教育』が推進されていくことをどう思うか（全体／単一回答）



※【2015年属性別】 10 「2015年全体」より10ポイント以上高い
 5 「2015年全体」より5ポイント以上高い
 -10 「2015年全体」より10ポイント以上低い

Hh_Q29_2

<フリーコメント> キャリア教育に対する意見や要望【保護者】

- キャリア教育については、一人一人に対し、向き合っていけるなら良いと思う。[福岡県/母親/女子]
- 働く意味を意識させるために必要です[兵庫県/父親/男子]
- 社会的、職業的自立が何を指すのか、どのような生き方がよいのか根本的な所について、生徒が自分で考えたり話合ったりするようにしてほしい。[東京都/母親/女子]

- キャリア教育は視野が狭くならないか不安がある。[北海道/父親/女子]
- キャリア教育の説明が書いてありますが具体例などあげてもらってもっとわかりやすいですがこの様に説明内容が難しいので親自身が理解できず子供にアドバイスが出来ない。[福岡県/母親/女子]

35.進路指導への要望／意見・要望

▶ 高校の進路指導に対する高校生の要望は、「もっと進路に関する情報提供をしてほしい」。

- ①もっと進路に関する情報提供をしてほしい (32%)
- ②もっと生徒のことを理解してほしい (22%)
- ③もっと進学や就職に関して具体的に指導してほしい (22%)
- ④もっと職業に関する知識をもって指導してほしい (21%)
- ⑤もっと適正や可能性を気づかせてくれる指導をしてほしい (21%)

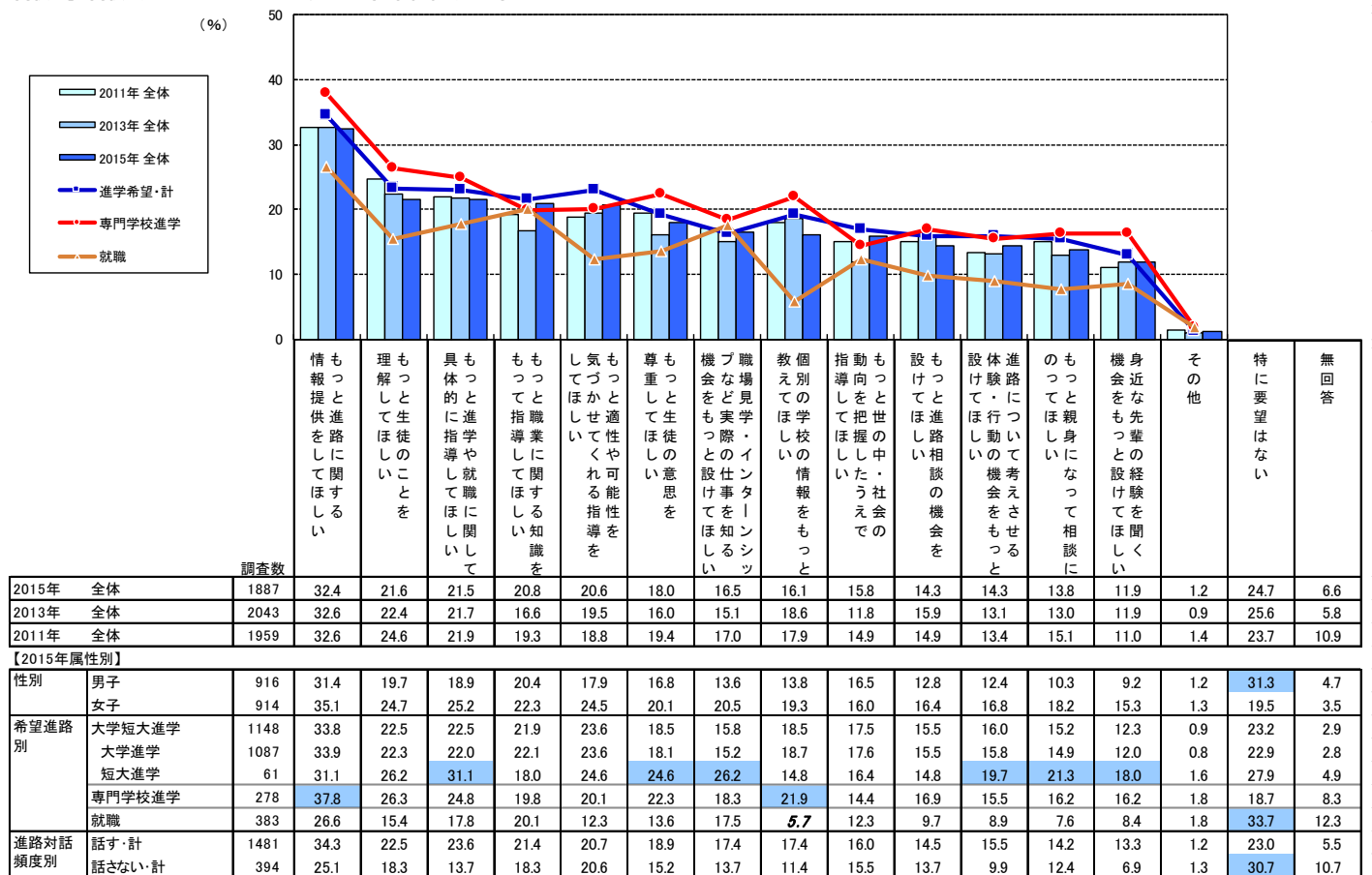
▶ フリーコメントでは、「個人で話す時間をつくってほしい」「価値観を押しつけすぎないでほしい」など、一方的ではなく個人の希望を聞いたうえでの指導をして欲しいという意見・要望が挙げられた。

● 高校の進路指導についての要望を、高校生と保護者それぞれにすべて選んでもらった。高校生の回答上位は上記のとおり。トップは「もっと進路に関する情報提供をしてほしい」。また、生徒の理解・具体的指導についての要望が上位に挙がった。

● 男女とも上位の顔ぶれは同様だが、女子のスコアが男子より高い項目が多く、進路指導への要望が幅広い。

● 希望進路別にみると、進学・就職いずれの進路も「もっと進路に関する情報提供をしてほしい」がトップ。

【高校生】 高校の進路指導について要望すること（全体／複数回答）



※「2015年全体」降順ソート

※【2015年属性別】

10 「2015年全体」より10ポイント以上高い

5 「2015年全体」より5ポイント以上高い

-10 「2015年全体」より10ポイント以上低い

Kh_Q34

<フリーコメント> 高校や教師に対する意見や要望【高校生】

- 提案した職業を頭ごなしに却下して、適当な大学ポンポン出してくるだけで、何も為にならないから1人1人にしっかりとしてほしい
[東京都/女子/大学]
- 個人で話す時間を作してほしい。[兵庫県/男子/就職]
- 職場体験など就職に関する事をする機会をもう少し増やしてほしい。
[群馬県/女子/就職]

- 自分の経験や価値観を押しつけすぎないでほしい。
[福岡県/女子/大学]
- 学力を上げようがんばっているけど、学力よりも大切な社会性とか身につけているのか心配。学校としての考え方に合わない者は許せない頑固なところをなおしてほしい。[三重県/女子/大学]

▶ 高校の進路指導に対する保護者の要望も、「もっと進路に関する情報提供をしてほしい」。

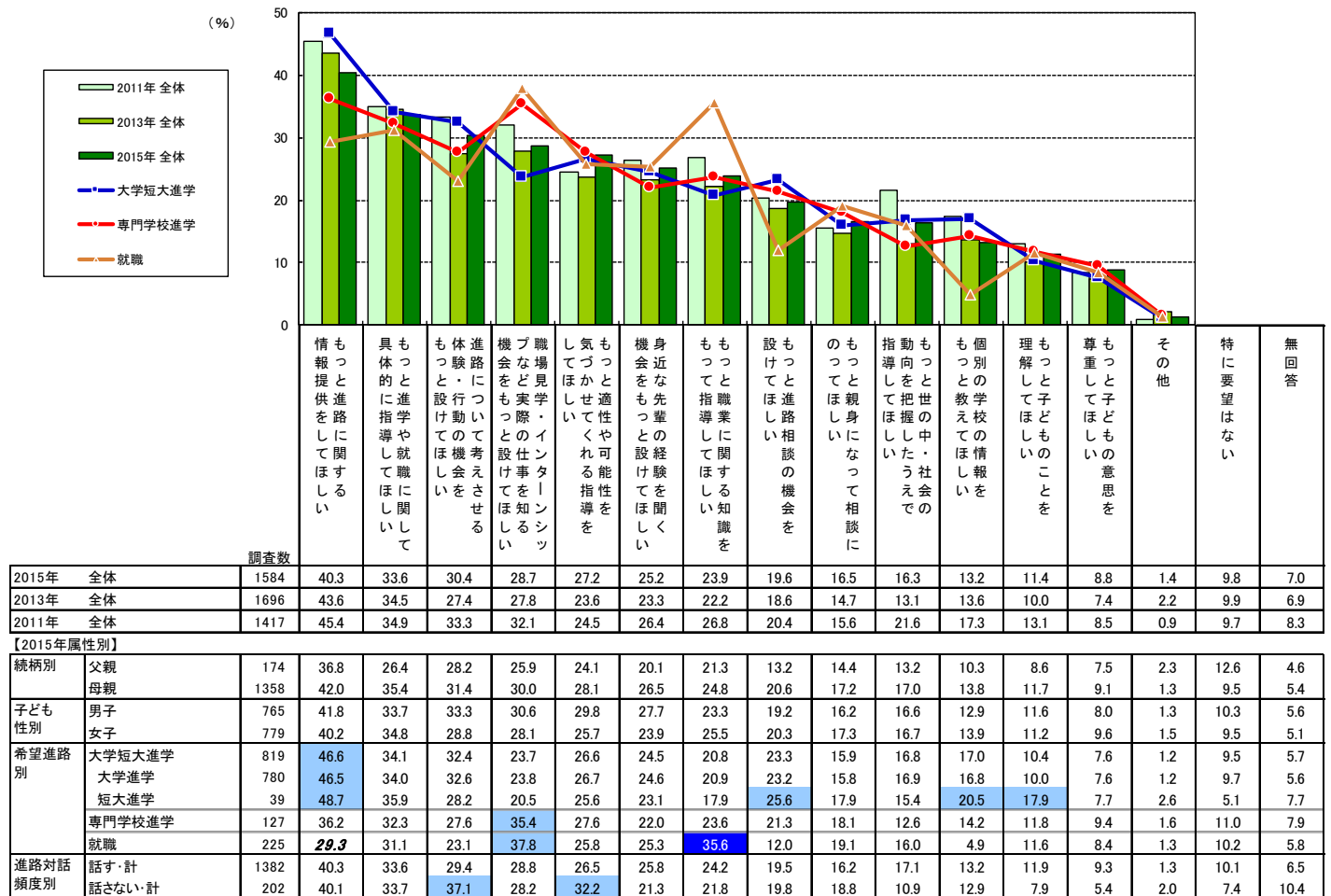
- ①もっと進路に関する情報提供をしてほしい (40%)
 ②もっと進学や就職に関して具体的に指導してほしい (34%)
 ③進路について考えさせる体験・行動の機会をもっと設けてほしい (30%)
 ④職場見学・インターンシップなど実際の仕事を知る機会をもっと設けてほしい (29%)
 ⑤もっと適正や可能性を気づかせてくれる指導をしてほしい (27%)

▶ フリーコメントでも、「情報がほしい」といった意見のほか、「職業を体験」などの意見が挙げられた。

●保護者の回答上位は上記のとおり。トップは高校生と同様、「もっと進路に関する情報提供をしてほしい」で、半数近くが要望している。以下、「進路について考えさせる体験・行動の機会」「職場見学・インターンシップなど実際の仕事を知る機会」が上位に挙がり、保護者は進路や職業を知る体験・行動を伴う指導の要望が多い。

●希望進路別にみると、大学短大進学、専門学校進学の進学希望者は「もっと進路に関する情報提供をしてほしい」、就職希望者は「職場見学・インターンシップなど実際の仕事を知る機会をもっと設けてほしい」がそれぞれトップ。

【保護者】 高校の進路指導について要望すること（全体／複数回答）



※「2015年全体」降順ソート

※【2015年属性別】

10 「2015年全体」より10ポイント以上高い

5 「2015年全体」より5ポイント以上高い

-10 「2015年全体」より10ポイント以上低い

Hh_Q28

＜フリーコメント＞ 高校や教師に対する意見や要望【保護者】

- 大学受験方法などよくわからないので、子供まかせになっている。もっと情報がほしい。[三重県/母親/女子]
 ○国公立大、私大も含め、いつ、どの時期に、どのような事をしたらいいか、進学のための学習内容と、提出書類や書類とりよせなども教えてほしい。[兵庫県/母親/女子]
 ○有名校、国公立大、難関大合格率にとらわれない広い視野での指導。個人個人の個性を生かした指導を望みます。[広島県/母親/女子]

- 職業体験など実施されているが、実際に職業を体験出きることはよいと思うが、体験した上で現場の人の話を聞く機会を増やした方がよいと思う。もっと深くほり下げた体験があるとよりよいのでは？ [三重県/母親/女子]
 ○今後とも進路指導の機会を設けて、本人が理解できるようにしてほしい。キャリア教育をすることによって、就職してすぐに辞めるというような事がないようにしてほしい。[兵庫県/母親/男子]

Ⅷ グローバル化社会における高校生と保護者の意識

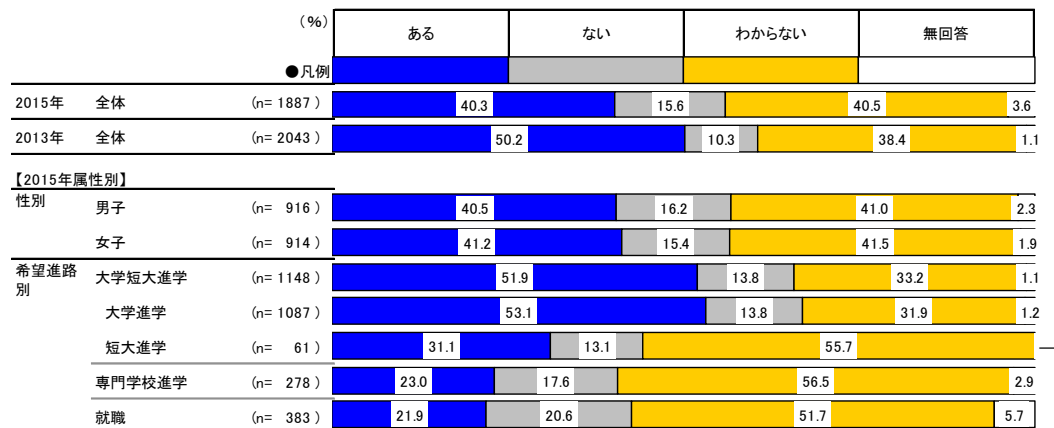
36. 将来の進路に対するグローバル化社会の影響

1) グローバル化の影響の有無

▶ 社会・経済のグローバル化の影響について、高校生の40%、保護者の43%が「ある」と回答。

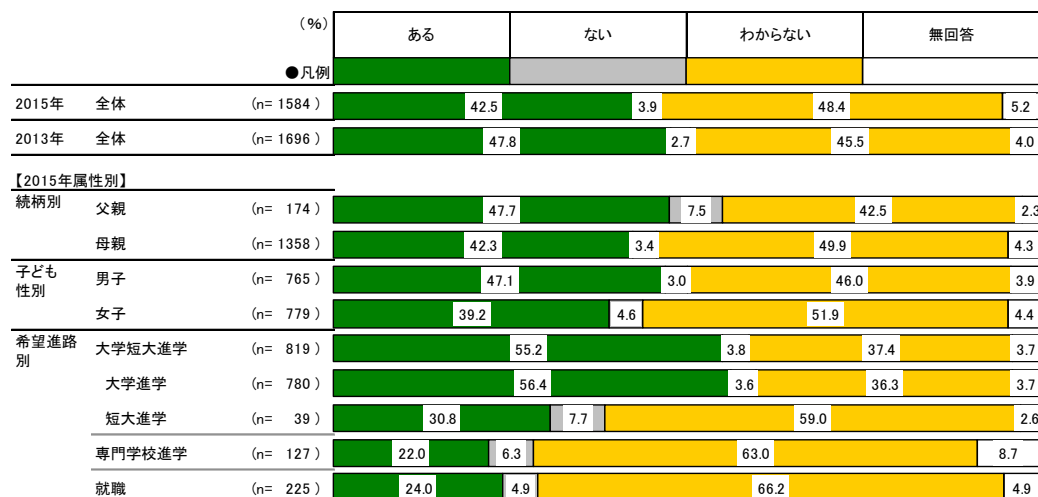
- 高校生に自分の将来に社会・経済のグローバル化の影響があると思うかを聞いた。40%が影響が「ある」と回答。ついで「わからない」が4割を占めている。
- 性別にみると、大きな差異はみられない。
- 希望進路別にみると、大学進学希望者では「ある」が5割を占め、短大進学・専門学校進学・就職希望者に比べて影響が「ある」と感じる割合が高い。
- 保護者に対しても同様に、子どもの将来に社会・経済のグローバル化の影響があると思うかを聞いた。「ある」と回答したのは43%で、高校生と同程度。「わからない」は48%と、高校生に比べて割合が高い。
- 続柄別にみると、母親よりも父親のほうが「ある」の割合が高い。
- 子どもの性別にみると、女子よりも男子のほうが「ある」の割合が高い。
- 希望進路別にみると、高校生の回答と同様に大学進学希望者の「ある」の割合が他の層に比べて高い。

【高校生】 自分の将来にグローバル化の影響があると思うか（全体／単一回答）



Kh.Q29

【保護者】 子どもの将来に社会・経済のグローバル化は影響があると思うか（全体／単一回答）



Hh.Q23

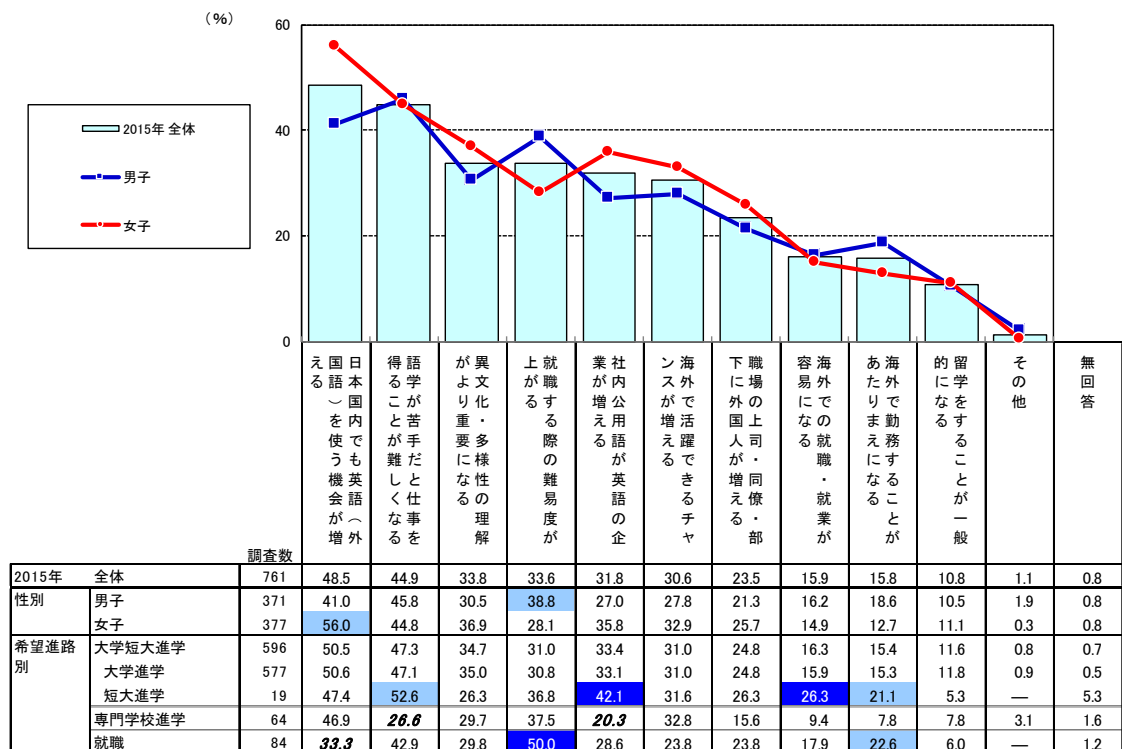
2) グローバル化による将来への影響

▶ グローバル化による自分の将来への影響は「日本国内でも英語を使う機会が増えること」がトップ。ついて「語学が苦手だと仕事を得ることが難しくなる」

- ① 日本国内でも英語を使う機会が増える (49%)
- ② 語学が苦手だと仕事を得ることが難しくなる (45%)
- ③ 異文化・多様性の理解がより重要になる (34%)
- ④ 就職する際の難易度が上がる (34%)
- ⑤ 社内公用語が英語の企業が増える (32%)

- 将来にグローバル化の影響が「ある」高校生と保護者に、具体的な影響を選んでもらった。高校生の回答上位は上記のとおり。
- 性別にみると、男子は女子に比べて「就職する際の難易度が上がる」が高く、女子は男子に比べて「日本国内でも英語を使う機会が増える」が高い。

【高校生】2015年 グローバル化による自分の将来への影響（グローバル化による自分への影響「ある」回答者／複数回答）



※「2015年全体」降順ソート

※【2015年属性別】

10 「2015年全体」より10ポイント以上高い

5 「2015年全体」より5ポイント以上高い

-10 「2015年全体」より10ポイント以上低い

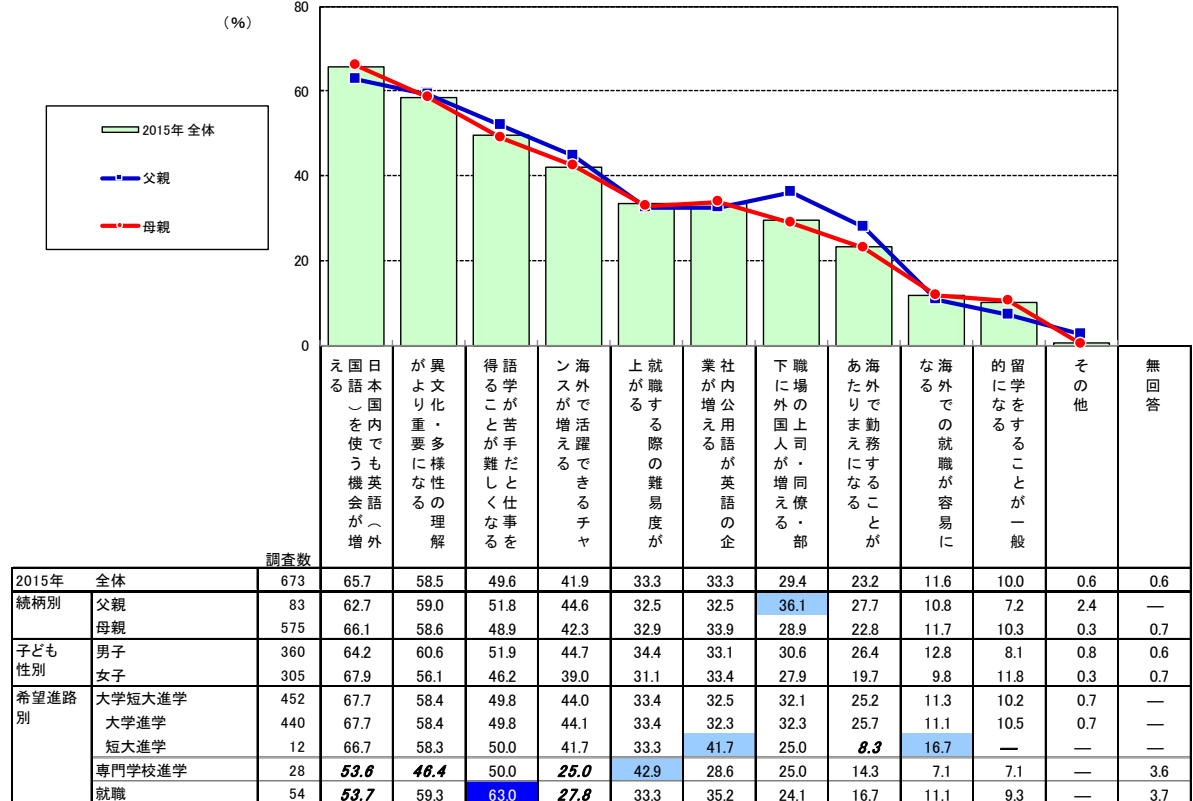
Kh_Q29_SQ1

▶グローバル化によるお子さんの将来への影響は「日本国内でも英語を使う機会が増えること」がトップ。ついで「異文化・多様性の理解がより重要になる」

- ①日本国内でも英語を使う機会が増える (66%)
- ②異文化・多様性の理解がより重要になる (59%)
- ③語学が苦手だと仕事を得ることが難しくなる (50%)
- ④海外で活躍できるチャンスが増える (42%)
- ⑤就職する際の難易度が上がる (33%)

- 同様に、保護者に具体的な影響を選んでもらった。保護者の回答上位は上記のとおり。
- 続柄別にみると、上位の顔ぶれは同様だが、父親は母親に比べて「職場の[上司・同僚・部下に外国人が増える]」が高い。
- 子どもの性別にみると、男子は女子に比べて全般にスコアが高く、男子の子どものほうが具体的に影響があると思われることがうかがえる。

【保護者】2015年 グローバル化は自分の将来にどのような影響を及ぼすか（グローバル化の影響「ある」回答者／複数回答）



※「2015年全体」降順ソート

※【2015年属性別】10 「2015年全体」より10ポイント以上高い
5 「2015年全体」より5ポイント以上高い
-10 「2015年全体」より10ポイント以上低い

Hh_Q23_SQ1

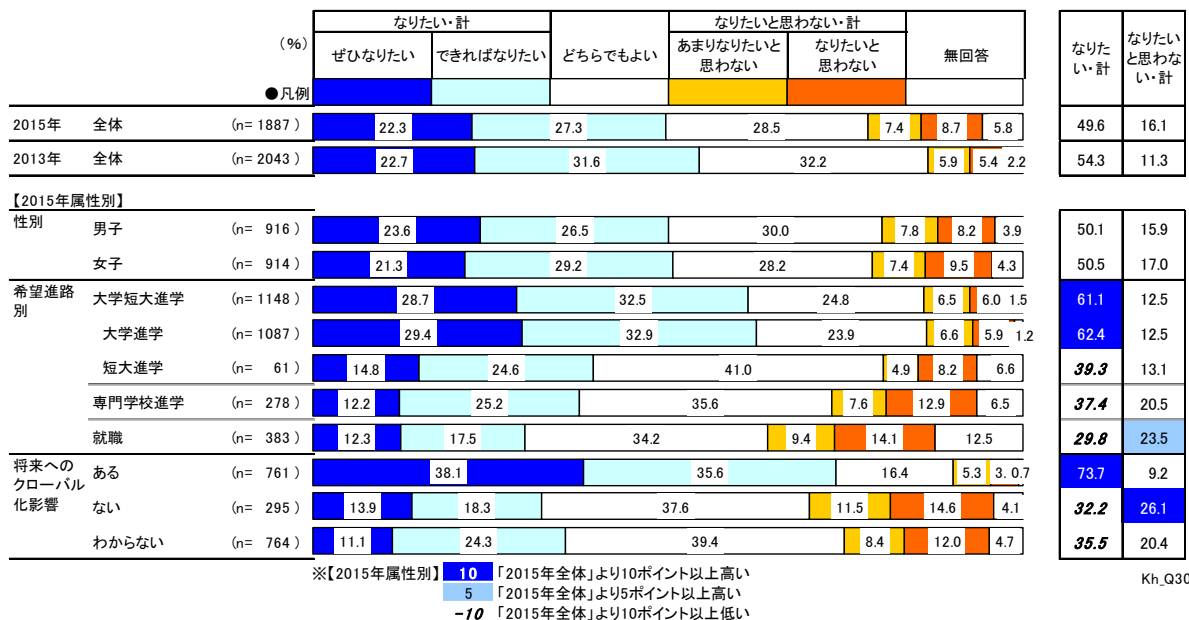
37. グローバル社会で通用する人材になりたい(なっしてほしい)か／その理由

1) 高校生の認識

▶ 高校生の50%がグローバル社会で通用する人材に「なりたいたい」と回答。

- 高校生に将来グローバル社会で通用する人材になりたいか尋ねたところ、「ぜひなりたいたい」は22%、「できればなりたいたい」の27%とあわせて50%が「なりたいたい」と回答した(なりたいたい・計)。
- 希望進路別では大学進学希望者の62%が「なりたいたい」と回答し、短大進学・専門学校進学・就職希望者にくらべ意向が高い。
- 61ページの「将来へのグローバル化の影響」の回答別にみると、影響が「ある」と回答した者の74%が「なりたいたい」と回答。グローバル化の影響が「ない」もしくは「わからない」と回答した者でも3割以上が「なりたいたい」と回答した。
- グローバル社会で通用する人材になりたいと思う理由について、「グローバル社会で通用する人材にならないと生きていけない気がするから」「国を越えて人助けをしたい」などの意見が挙げられた。
なりたくない理由としては、「英語が苦手」など言語面の不安、「国内のほうが安心」「海外は怖い」などの治安の心配、「興味がない」などの無関心さが挙げられた。

【高校生】 グローバル社会で通用する人材になりたいと思うか (全体／単一回答)



<フリーコメント> グローバル社会で通用する人材になりたい・なりたくない理由【高校生】

■ぜひなりたいたい

- いろいろな体験をすることで自分を成長させたいから。[兵庫県/男子/大学]
- これからの将来もずっとグローバル化が進んでいくと思うから[広島県/男子/大学]
- 国を越えて人助けをしたい[兵庫県/男子/大学]
- 将来は、英語がしゃべれてグローバル社会で通用しないと安定した仕事にはつけないと思うから[広島県/男子/大学]
- 世界で活躍できる人間になりたいから[北海道/男子/大学]

■できればなりたいたい

- グローバル社会で通用する人材にならないと生きていけない気がするから。[広島県/男子/大学]
- 企業内でも外国人が増えると思うので、もっと英語を話せるようになりたいから。[東京都/女子/大学]
- 広い視野をもって生きることができると思うしそのほうが楽しいだろうと思うから。[三重県/女子/大学]
- 色々な人の考え方や価値感を理解して、それを自分の仕事に活かしたいから。[三重県/女子/大学]
- 世界の食について学びたいから。[東京都/女子/大学]

■どちらでもよい

- グローバルの意味があまりよくわからない。[群馬県/女子/専門学校]
- そのために英語を頑張ろうとは思わないが、コミュニケーションはしっかりとりたいたい[福井県/女子/短大]
- 英語が苦手だし、国内にいたいから。[宮城県/女子/大学]
- 英語などで話すときに自分がわからない単語のときは相手に迷惑をかけてしまうから[群馬県/男子/大学]
- 英語を役立てたいが日本を離れたくはない[三重県/女子/大学]

■あまりなりたいたと思わない

- グローバル社会の意味がよくわからないから[群馬県/男子/専門学校]
- 英語が苦手だから[宮城県/男子/大学]
- 国内のほうが安心できるから[広島県/男子/大学]
- 日本に貢献したいから[北海道/男子/大学]

■なりたいたと思わない

- 英語ができないから[東京都/女子/大学]
- 海外は怖いから。日本にいたいから。[兵庫県/女子/大学]
- 興味がないから[福井県/男子/就職]
- 自分の将来の夢に関連がないから。[群馬県/女子/専門学校]

2)保護者の認識

▶保護者の41%が子どもにグローバル社会で通用する人材に「なってほしい」と回答。

▶フリーコメントをみると、社会で認められる人材になるために「なってほしい」という意見がある一方で、「子ども自身が考えること」という意見もある。

- 保護者に対しては、子どもにグローバル社会で通用する人材になってほしいと思うかを尋ねたところ、「ぜひな
ってほしい」は11%、「できればなってほしい」の31%とあわせて41%が「なってほしい」と回答した(な
ってほしい・計)。保護者は「どちらでもよい」が46%と半数を占めており、高校生に比べて意向者は少ない。
- 続柄別にみると、「なってほしい・計」は大きな差異はみられないが、「ぜひな
ってほしい」は母親よりも父親のほうが割合が高い。
- 性別にみると、女子よりも男子のほうが「なってほしい」の割合が高い。
- 希望進路別では大学進学希望者の「なってほしい」割合が短大進学・専門学校進学・就職希望者にくらべて高い。
- な
ってほしいと思う理由について、「グローバル化への対応」に加えて、視野の広い考え方・働き方をしてほしいと
いう意見が挙がっている。また、「本人が決めること・考えること」であるため「どちらでもよい」と回答したという意
見もみられた。

【保護者】2015年 子どもにグローバル社会で通用する人材になしてほしいか(全体/単一回答)

		な ってほしい・計			な ってほしいと思わない・計				
		(%)	ぜ ひ な ってほしい	でき れば な ってほしい	ど ち ら で も よ い	あ ま り な ってほしいと 思わない	な ってほしいと 思わない	無 回 答	
●凡例									
2015年	全体 (n= 1584)	10.4		30.6		45.5		3.3 2.1 8.1	40.9 5.5
2013年	全体 (n= 1696)	10.6		28.0		48.6		2.9 2.4 7.6	38.6 5.2
【2015年属性別】									
続柄別	父親 (n= 174)	14.4		27.0		48.3		3.4 2.3 4.6	41.4 5.7
	母親 (n= 1358)	9.7		31.5		46.2		3.5 2.1 7.0	41.2 5.6
子ども性別	男子 (n= 765)	10.6		34.6		43.8		2.9 2.1 6.0	45.2 5.0
	女子 (n= 779)	10.0		27.3		48.7		4.0 2.3 7.7	37.4 6.3
希望進路別	大学短大進学 (n= 819)	15.0		38.7		39.6		2.4 0.5 3.8	53.7 2.9
	大学進学 (n= 780)	15.4		39.2		39.2		2.4 0.3 3.5	54.6 2.7
	短大進学 (n= 39)	7.7		28.2		46.2		2.6 5.1 10.3	35.9 7.7
	専門学校進学 (n= 127)	4.7		22.8		49.6		6.3 3.9 12.6	27.6 10.2
	就職 (n= 225)	4.4		17.3		52.9		7.6 5.8 12.0	21.8 13.3
将来へのグローバル化影響	ある (n= 673)	20.2		41.6		33.9		1.5 0.9 1.9	61.8 2.4
	ない (n= 61)	3.3		16.4		54.1		8.2 8.2 9.8	19.7 16.4
	わからない (n= 767)	3.0		23.7		57.8		4.7 2.9 8.0	26.7 7.6

※【2015年属性別】 10 「2015年全体」より10ポイント以上高い
5 「2015年全体」より5ポイント以上高い
-10 「2015年全体」より10ポイント以上低い

Hh_Q25

<フリーコメント> グローバル社会で通用する人材になしてほしい・な
ってほしくない理由【保護者】■ぜひな
ってほしい

- グローバル化進展は不可避であり、第一線で活躍する上で、グ
ローバル社会に通用する人材であることは、必須である[北海道/父親/男
子]
- 英語が得意のようなのでぜひ、いかしてほしい[宮城県/母親/女子]
- 視野を広げ、色んな立場から物を考えられる人になしてほしい
[兵庫県/母親/女子]

■できればな
ってほしい

- 会社での公用語が英語化していく中で、結果、海外と取り引きや、支
店が多くなり、外国駐在員になる可能性も増えるから。
[兵庫県/母親/男子]
- 経験が増え、人としての厚みが増す。知識が豊富になる。他人種、他
職種との連携により若い頃の可能性にチャレンジしてもらいたい。
[福岡県/母親/男子]
- 視野の広い大きな人間になしてほしいので[広島県/母親/男子]

■どちらでもよい

- 子供が将来やりたい仕事の内容で自らの意志で決めてほしい
[広島県/母親/男子]
- 必要であれば自然と身についてくると思うから。[福岡県/母親/男子]

■あまりな
ってほしいと思わない

- 治安が不安[群馬県/母親/男子]
- 本人に興味があれば背中を押すが今のところあまり興味がなさそう
な。[兵庫県/母親/女子]

■な
ってほしいと思わない

- 治安に不安がある。子供のやりたい分野は日本でも、必要としてもら
える所はたくさんあるから。[福井県/母親/女子]
- 主人の会社を手伝ってほしいから[三重県/母親/女子]

38. グローバル社会で通用する人材になるために必要な力

1) 高校生の認識

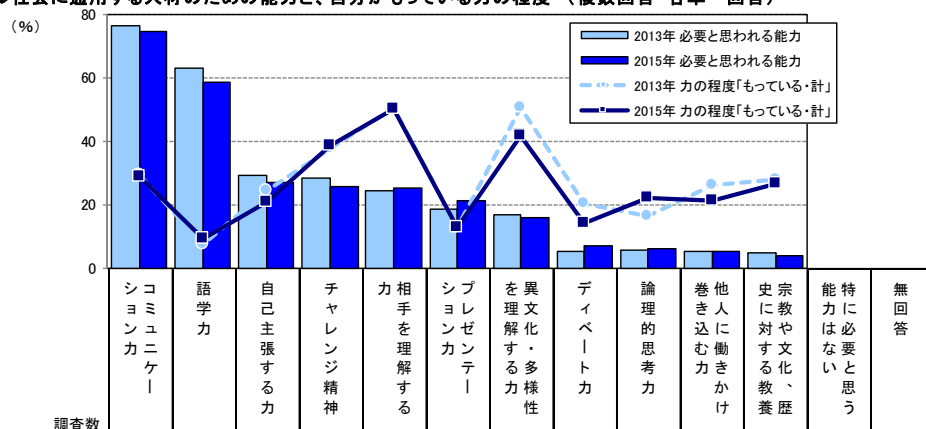
▶ 高校生が考えるグローバル社会に通用する人材に必要な力は「コミュニケーション力」「語学力」。

- 高校生にグローバル社会に通用する人材になるために必要な能力を最大3項目まで選んでもらったところ、トップは「コミュニケーション力」で74%、ついで「語学力」で58%。「自己主張」「チャレンジ精神」等は3割にとどまる。

▶ 「語学力」が必要と回答した高校生のうち、その能力を「もっている」と回答したのは9%にとどまる。

- 各能力を「必要」と回答した高校生に、自分自身がその能力をもっているかどうか回答を得た。「コミュニケーション力」が「必要」と回答した者のうち、能力を持っていると回答したのは29%（もっている・計）。同様に「語学力」では能力を持っているのは9%にとどまり、語学の必要性を認識しながらも、実際に能力を持っているのは1割に満たない。

【高校生】グローバル社会に通用する人材のための能力と、自分がもっている力の程度（複数回答・各単一回答）



■①グローバル社会で通用する人材になるために必要と思われる能力（全体／3項目まで複数回答）

2015年 全体	1887	74.4	58.4	26.8	25.7	25.3	20.9	15.7	6.8	6.0	5.0	4.0	0.2	7.8
2013年 全体	2043	76.3	63.1	29.3	28.1	24.1	18.5	16.8	5.3	5.4	5.0	4.8	0.1	4.0

【2015年属性別】

性別	男子	916	74.1	59.1	30.6	25.2	28.7	22.4	13.2	6.3	8.2	5.2	3.9	0.2	4.9
	女子	914	78.0	60.8	24.6	27.2	22.6	20.7	19.0	7.7	4.3	5.0	4.3	0.1	6.2
希望進路別	大学短大進学	1148	77.8	64.5	28.5	25.7	22.3	22.9	17.5	9.6	6.2	4.9	4.2	0.1	3.0
	大学進学	1087	77.5	64.7	29.0	25.8	21.9	22.6	17.8	9.8	6.4	4.8	4.2	0.1	2.9
	短大進学	61	83.6	62.3	19.7	24.6	29.5	27.9	11.5	4.9	1.6	6.6	3.3	—	6.6
	専門学校進学	278	75.2	52.9	24.1	26.3	29.9	18.3	16.5	1.4	7.2	5.8	4.7	—	10.4
	就職	383	67.9	48.0	25.3	25.3	33.2	18.5	10.7	2.6	6.0	5.0	3.1	0.5	14.9

■②自分がもっている力の程度：「もっている・計」一覧（各能力「必要」回答者／各単一回答）

2015年 全体	28.5	8.9	20.8	38.6	50.0	12.7	41.6	14.0	21.9	21.3	26.3
	(n=1403)	(n=1102)	(n=506)	(n=485)	(n=478)	(n=394)	(n=296)	(n=129)	(n=114)	(n=94)	(n=76)
2013年 全体	29.1	7.4	24.2	37.6	50.3	12.7	50.4	20.4	16.4	26.2	27.6
	(n=1559)	(n=1289)	(n=599)	(n=575)	(n=493)	(n=377)	(n=343)	(n=108)	(n=110)	(n=103)	(n=98)

【2015年属性別】

性別	男子	27.4	9.1	21.8	39.0	50.2	14.6	43.8	13.8	26.7	18.8	33.3
		(n=679)	(n=541)	(n=280)	(n=231)	(n=263)	(n=205)	(n=121)	(n=58)	(n=75)	(n=48)	(n=36)
	女子	29.5	8.6	19.6	38.6	49.8	10.6	40.2	14.3	12.8	23.9	17.9
		(n=713)	(n=556)	(n=225)	(n=249)	(n=207)	(n=189)	(n=174)	(n=70)	(n=39)	(n=46)	(n=39)
希望進路別	大学短大進学	27.8	8.6	21.4	41.0	54.7	12.5	46.8	13.6	22.5	25.0	22.9
		(n=893)	(n=741)	(n=327)	(n=295)	(n=256)	(n=263)	(n=201)	(n=110)	(n=71)	(n=56)	(n=48)
	大学進学	27.6	8.8	22.2	41.1	55.9	12.6	46.9	13.1	22.9	26.9	21.7
		(n=842)	(n=703)	(n=315)	(n=280)	(n=238)	(n=246)	(n=194)	(n=107)	(n=70)	(n=52)	(n=46)
	短大進学	31.4	5.3	—	40.0	38.9	11.8	42.9	33.3	—	—	50.0
		(n=51)	(n=38)	(n=12)	(n=15)	(n=18)	(n=17)	(n=7)	(n=3)	(n=1)	(n=4)	(n=2)
	専門学校進学	31.6	8.8	17.9	34.2	36.1	5.9	32.6	—	20.0	12.5	23.1
		(n=209)	(n=147)	(n=67)	(n=73)	(n=83)	(n=51)	(n=46)	(n=4)	(n=20)	(n=16)	(n=13)
	就職	28.1	9.2	18.6	33.0	50.4	15.5	29.3	20.0	21.7	15.8	33.3
		(n=260)	(n=184)	(n=97)	(n=97)	(n=127)	(n=71)	(n=41)	(n=10)	(n=23)	(n=19)	(n=12)

※①「2015年 全体」降順ソート

※②「もっている・計」＝「十分もっている」・「まあまあもっている」の合算値

※③（力の程度）は①（必要と思われる能力）で選択した能力についてのみ回答 Kh_Q32

2) 保護者の認識

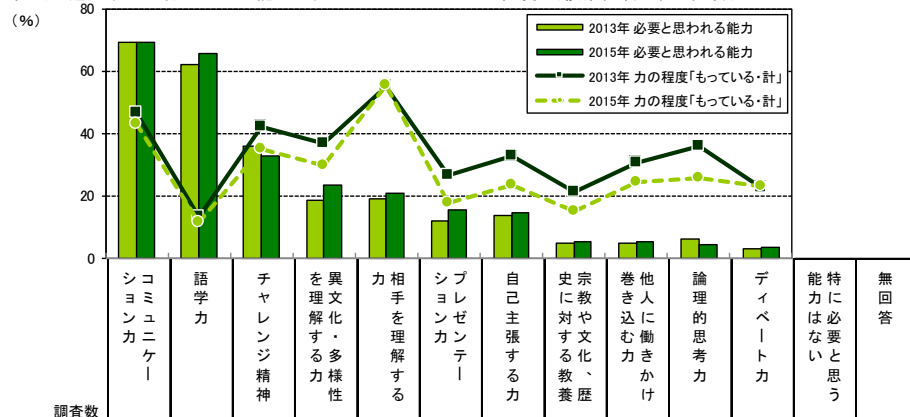
▶ 保護者が考えるグローバル人材に必要な力は、高校生同様に「コミュニケーション力」「語学力」。

- 保護者にも高校生同様、グローバル人材に必要な能力を最大3項目まで選んでもらったところ、「コミュニケーション力」(69%)、「語学力」(66%)で上位2項目は高校生と共通。ついで「チャレンジ精神」は33%で、高校生の「必要」のスコアよりも高い。

▶ 「語学力」を必要と認識しながら、子どもがその能力を「もっている」と回答したのは11%にとどまる。

- 各能力を「必要」と回答した保護者に子どもがその能力をもっているかどうか回答を得た。「コミュニケーション力」は43%(もっている・計)、「語学力」は11%が「もっている」と回答し、高校生の「もっている」のスコアよりも高い。

【保護者】グローバル社会で通用する人材のための能力と、子どもがもっている力の程度（複数回答・単一回答）



■①グローバル社会で通用する人材になるために必要と思われる能力（全体／3項目まで複数回答）

2015年 全体	1584	69.1	65.7	32.7	23.4	20.8	15.4	14.6	5.1	4.9	4.2	3.3	0.8	10.0
2013年 全体	1696	69.1	62.1	35.6	18.6	19.1	11.9	13.7	4.7	4.7	5.9	2.9	—	13.5

【2015年属性別】

続柄別	父親	174	64.4	61.5	35.1	27.6	27.6	19.5	15.5	5.2	1.1	7.5	1.7	7.5
	母親	1358	71.5	68.0	33.1	23.1	20.0	15.2	14.9	5.3	5.5	3.8	3.5	8.5
子ども性別	男子	765	67.8	64.8	35.3	22.7	21.4	17.4	15.6	5.0	5.4	4.2	3.4	8.6
	女子	779	73.0	69.1	31.1	24.6	20.8	13.9	14.2	5.5	4.7	4.2	3.1	8.5
希望進路別	大学短大進学	819	75.9	73.4	32.6	28.1	20.4	17.3	14.0	5.4	5.4	4.2	4.5	3.5
	大学進学	780	75.9	73.3	32.7	28.3	20.5	17.4	13.8	5.5	5.3	4.4	4.7	3.6
	短大進学	39	76.9	74.4	30.8	23.1	17.9	15.4	17.9	2.6	7.7	—	5.1	2.6
	専門学校進学	127	55.9	59.1	28.3	16.5	19.7	12.6	21.3	3.9	3.1	4.7	1.6	19.7
	就職	225	60.4	52.9	31.6	15.6	24.0	17.8	14.2	4.0	5.8	3.6	1.3	16.4

■②子どもがもっている力の程度：「もっている・計」一覧（各能力「必要」回答者／各単一回答）

2015年 全体	43.0 (n= 1095)	11.2 (n= 1041)	35.1 (n= 518)	29.7 (n= 370)	55.5 (n= 330)	17.6 (n= 244)	23.3 (n= 232)	14.8 (n= 81)	24.4 (n= 78)	25.4 (n= 67)	23.1 (n= 52)
2013年 全体	46.3 (n= 1172)	13.3 (n= 1053)	42.2 (n= 604)	36.7 (n= 316)	54.9 (n= 324)	26.4 (n= 201)	32.6 (n= 233)	21.3 (n= 80)	30.4 (n= 79)	36.0 (n= 100)	22.4 (n= 49)

【2015年属性別】

続柄別	父親	34.8 (n= 112)	10.3 (n= 107)	37.7 (n= 61)	18.7 (n= 48)	47.9 (n= 48)	17.6 (n= 34)	25.9 (n= 27)	33.3 (n= 9)	— (n= 2)	23.1 (n= 13)	— (n= 3)
	母親	43.8 (n= 971)	11.4 (n= 923)	35.1 (n= 450)	32.2 (n= 314)	56.6 (n= 272)	18.0 (n= 206)	22.8 (n= 202)	12.5 (n= 72)	24.0 (n= 75)	27.5 (n= 51)	25.0 (n= 48)
子ども性別	男子	42.4 (n= 519)	8.7 (n= 496)	30.0 (n= 270)	26.4 (n= 174)	50.6 (n= 164)	18.8 (n= 133)	16.0 (n= 119)	13.2 (n= 38)	26.8 (n= 41)	28.1 (n= 32)	26.9 (n= 26)
	女子	43.2 (n= 569)	13.8 (n= 538)	41.3 (n= 242)	33.3 (n= 192)	61.1 (n= 162)	16.7 (n= 108)	31.5 (n= 111)	16.3 (n= 43)	21.6 (n= 37)	24.2 (n= 33)	20.8 (n= 24)
希望進路別	大学短大進学	41.5 (n= 622)	13.6 (n= 601)	34.5 (n= 267)	30.0 (n= 230)	56.9 (n= 167)	19.7 (n= 142)	25.2 (n= 115)	9.1 (n= 44)	22.7 (n= 44)	29.4 (n= 34)	29.7 (n= 37)
	大学進学	41.0 (n= 592)	13.8 (n= 572)	34.5 (n= 255)	29.9 (n= 221)	55.6 (n= 160)	20.6 (n= 136)	23.1 (n= 108)	9.3 (n= 43)	22.0 (n= 41)	29.4 (n= 34)	29.7 (n= 37)
	短大進学	50.0 (n= 30)	10.3 (n= 29)	33.3 (n= 12)	33.3 (n= 9)	85.7 (n= 7)	— (n= 6)	57.1 (n= 7)	— (n= 1)	33.3 (n= 3)	— (n= 0)	— (n= 0)
	専門学校進学	42.3 (n= 71)	9.3 (n= 75)	33.3 (n= 36)	23.8 (n= 21)	72.0 (n= 25)	25.0 (n= 16)	22.2 (n= 27)	— (n= 5)	— (n= 4)	50.0 (n= 6)	— (n= 2)
	就職	45.6 (n= 136)	5.0 (n= 119)	38.0 (n= 71)	20.0 (n= 35)	46.3 (n= 54)	10.0 (n= 40)	15.6 (n= 32)	11.1 (n= 9)	46.2 (n= 13)	— (n= 8)	— (n= 3)

※①「2015年 全体」降順ソート

※②「もっている・計」＝「十分もっている」・「まあまあもっている」の合算値

※③(力の程度)は①(必要と思われる能力)で選択した能力についてのみ回答 Hh_Q26

39.子どもを留学させたいか／その理由

- ▶ 子どもを留学させたいと考えている保護者は2割。非意向者は4割で意向者よりも多数派。
- ▶ 大学進学希望者の3割が「留学意向あり」。一方、専門学校進学・就職希望者は6割が留学には否定的。
- ▶ 子どもを留学させたい理由のトップは「自分の視野や考え方が広がる」。
- ▶ 子どもを留学させたいと思わない・どちらでもよいと思う理由のトップは「海外の治安に不安」。

- 保護者に子どもを留学させたいかどうかをきいたところ、「留学させたい」が6%、「できれば留学させたい」の17%とあわせ、子どもを留学させたいと考えているのは23%。
- 続柄別にみると、父親よりも母親のほうが「留学させたい・計」の割合がわずかだが高い。
- 子ども性別にみると、「留学させたい・計」の割合は男子・女子で同程度。
- 希望進路別では、大学進学希望者では3割が子どもの留学を希望しているが、専門学校進学・就職希望者では「留学させたいと思わない・計」が6割を占めており、留学については否定的である。
- 子どもの留学意向がある保護者にその理由を選んでもらったところ、「自分の視野や考え方が広がる」が89%でトップ。ついで「外国の価値観・文化が理解できる」「英語で会話ができるようになる」が7割弱。
- 続柄別にみると、父親は母親に比べて「外国の価値観・文化などを理解できる」が高い。
- 子どもの留学について「させたいと思わない」もしくは「どちらでもよい」と回答した保護者にも理由を選んでもらったところ、トップは「海外の治安に不安がある」で53%。ついで「留学を考えたことがない」(33%)。
- 続柄別にみると、母親は父親に比べて「海外の治安に不安」「費用が高い」「子どもが英語が苦手」の割合が高い。
- 子ども性別にみると、女子は男子に比べて「海外の治安に不安」のスコアが高い。

【保護者】 子どもを留学させたいと思うか（全体／単一回答）

		(%)	留学させたい・計		どちらでもよい	留学させたいと思わない・計		無回答	留学させたい・計	留学させたいと思わない・計
			留学させたい	できれば留学させたい		あまり留学させたいと思わない	留学させたいと思わない			
●凡例										
2015年	全体	(n= 1584)	6.4	16.8	33.0	15.9	23.2	4.6	23.2	39.1
2013年	全体	(n= 1696)	5.7	16.0	32.8	17.5	24.4	3.6	21.7	41.9
【2015年属性別】										
続柄別	父親	(n= 174)	5.7	21.3	27.6	14.4	29.3	1.7	27.0	43.7
	母親	(n= 1358)	6.7	16.3	34.5	16.4	22.4	3.7	23.0	38.8
子ども性別	男子	(n= 765)	6.5	16.7	35.4	14.6	23.9	2.7	23.3	38.6
	女子	(n= 779)	6.5	16.9	32.0	17.6	22.8	4.1	23.5	40.4
希望進路別	大学短大進学	(n= 819)	9.5	22.2	36.6	15.8	13.3	2.6	31.7	29.1
	大学進学	(n= 780)	9.9	22.7	36.8	15.3	12.9	2.4	32.6	28.2
	短大進学	(n= 39)	2.6	12.8	33.3	25.6	20.5	5.1	15.4	46.2
	専門学校進学	(n= 127)	2.4	6.3	26.0	18.1	39.4	7.9	8.7	57.5
	就職	(n= 225)	0.9	7.6	21.8	17.8	47.1	4.9	8.4	64.9
将来へのグローバル化影響	ある	(n= 673)	11.9	25.3	35.1	13.8	12.5	1.5	37.1	26.3
	ない	(n= 61)	4.9	11.5	18.0	14.8	47.5	3.3	16.4	62.3
	わからない	(n= 767)	2.1	10.7	34.2	18.8	31.6	2.7	12.8	50.3

※【2015年属性別】

10

5

-10

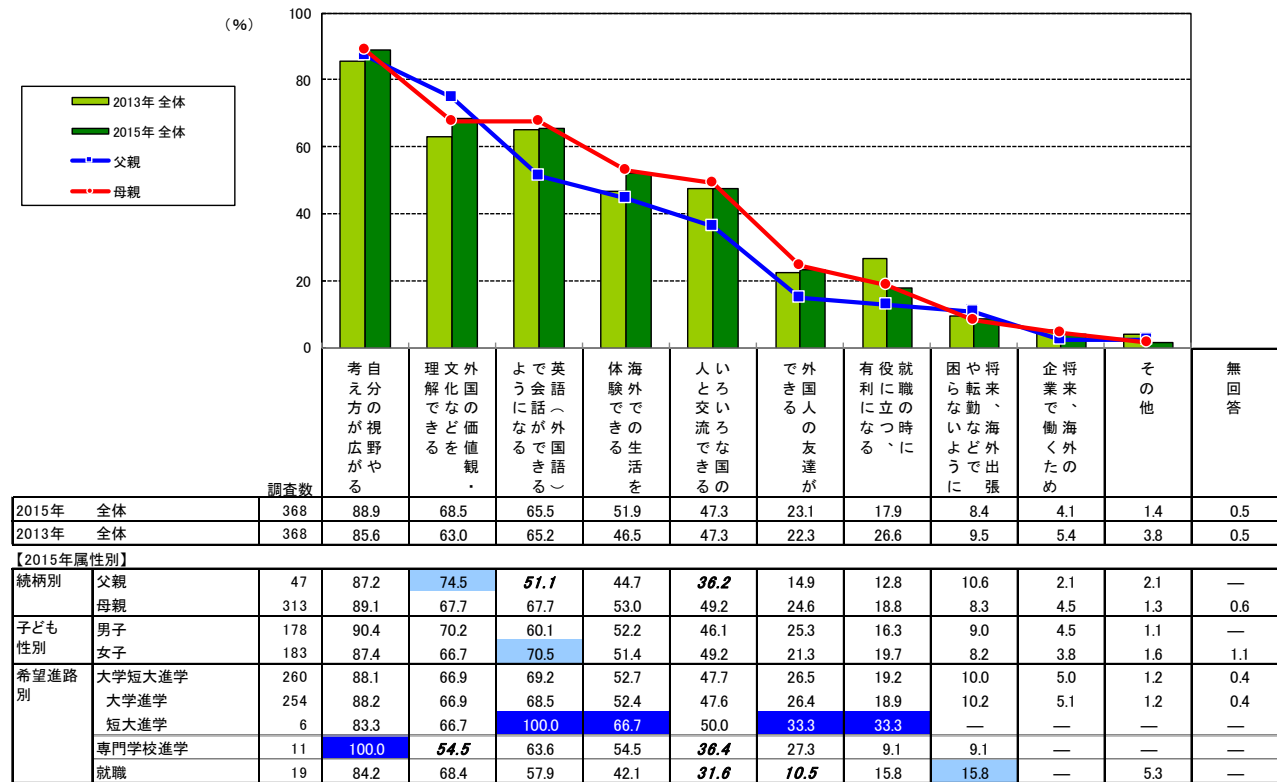
「2015年全体」より10ポイント以上高い

「2015年全体」より5ポイント以上高い

「2015年全体」より10ポイント以上低い

Hh_Q24

【保護者】 子どもを「留学させたい」と思う理由（子どもを「留学させたい・計」／複数回答）



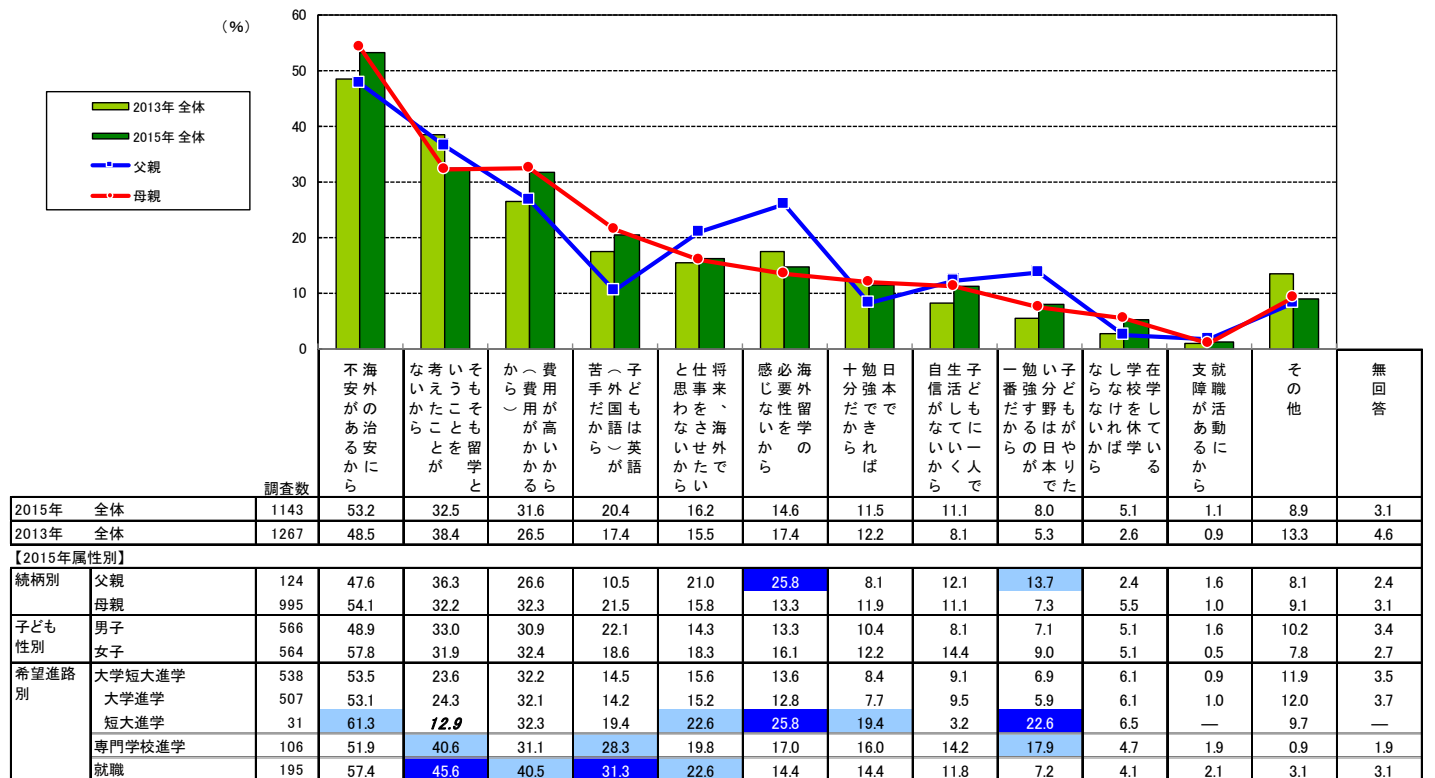
※「2015年全体」降順ソート

※【2015年属性別】

10	「2015年全体」より10ポイント以上高い
5	「2015年全体」より5ポイント以上高い
-10	「2015年全体」より10ポイント以上低い

Hh_Q24_SQ1

【保護者】 子どもを「どちらでもよい」「留学させたくない」と思う理由（子どもを「留学させたいと思わない・計」もしくは「どちらでもよい」／複数回答）



※「2015年全体」降順ソート

※【2015年属性別】

10	「2015年全体」より10ポイント以上高い
5	「2015年全体」より5ポイント以上高い
-10	「2015年全体」より10ポイント以上低い

Hh_Q24_SQ2

40. 学生時代に積みたい海外経験／その理由

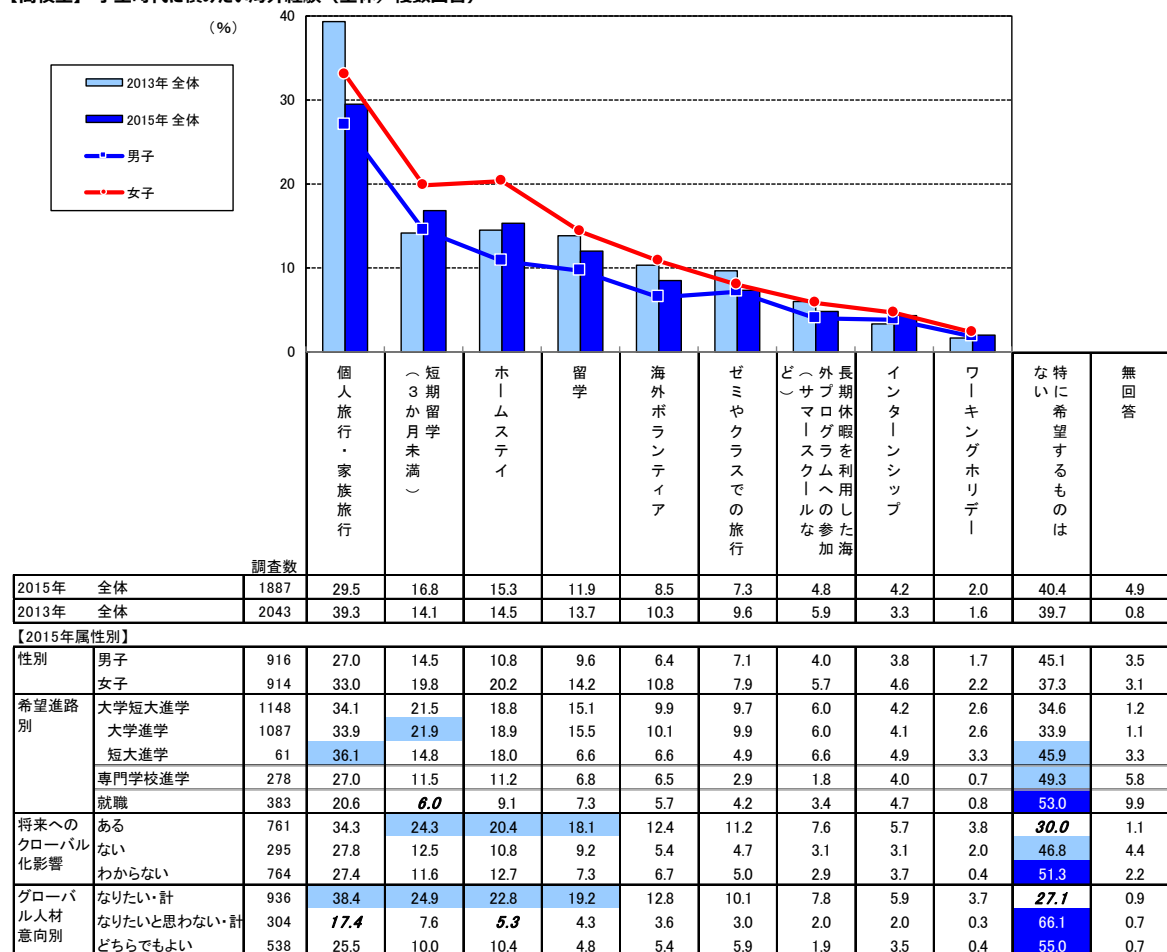
1) 学生時代に積みたい海外経験

▶ 高校生が学生時代に積みたい海外経験のトップは「個人旅行・海外旅行」。次いで「短期留学」が2割弱。

▶ 男子よりも女子のほうが積みたい経験が幅広い。

- 高校生に「学生時代に積みたい海外経験」をすべて選んでもらったところ、「個人旅行・家族旅行」が30%で突出。「ホームステイ」「短期留学」は2割弱にとどまった。また「特に希望するものはない」は4割と、海外経験について興味を示さない者もいる。過去調査と比較すると、「個人旅行・海外旅行」は減少した。
- 性別にみると、全般に男子よりも女子のほうがスコアが高く、積みたい海外経験が幅広い。「特に希望するものはない」の回答も女子よりも男子が高く、海外経験については女子のほうが積極的である。
- 希望進路別では、大学進学希望者は他の層に比べて全般にスコアが高く、比較的海外経験に積極的である。
- 将来のグローバル化の影響を「ある」、もしくはグローバル社会で通用する人材に「なりたい」と回答した者は他の層に比べて「旅行」「ホームステイ」「留学」などのスコアが高く、海外経験を積むことに積極的である。

【高校生】 学生時代に積みたい海外経験（全体／複数回答）



※「2015年全体」降順ソート

※【2015年属性別】

10 「2015年全体」より10ポイント以上高い

5 「2015年全体」より5ポイント以上高い

-10 「2015年全体」より10ポイント以上低い

Kh_Q31

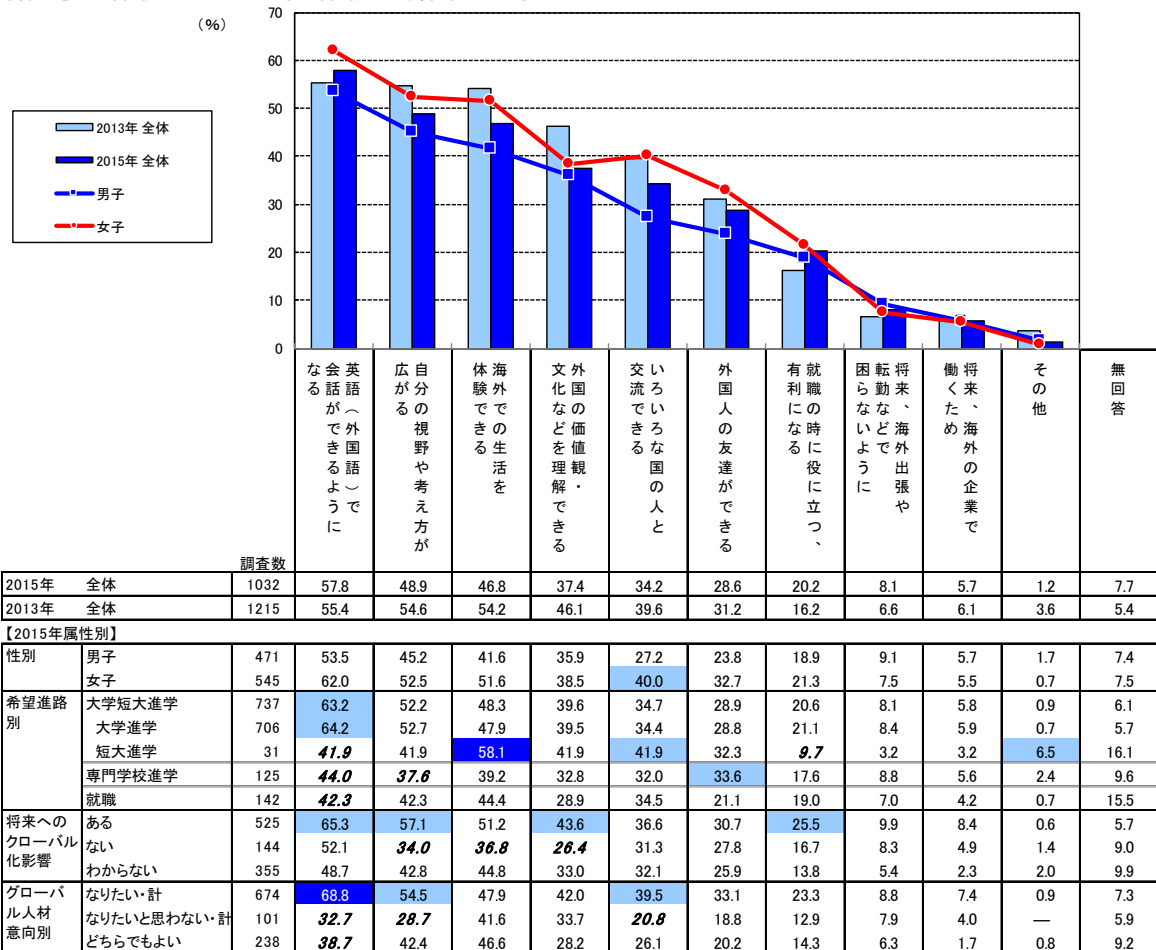
2)海外経験を積みたい理由

▶ 高校生が海外経験を積みたい理由は「英会話ができるようになる」「視野・考え方が広がる」「海外の生活を体験」。

▶ グローバル化を意識する層ほど「英会話」「視野・考え方が広がる」ことを期待。

- 70ページの設問でいずれかの海外経験を積みたいと回答した高校生にその理由をすべて選んでもらったところ、「英語(外国語)で会話ができるようになる」「自分の視野や考え方が広がる」「海外での生活を体験できる」が5割強で上位に並んだ。一方、「就職で役立つ・有利になる」など、将来の就職や仕事に関する項目は下位。
- 性別にみると、全体に男子よりも女子のほうがスコアがやや高く、海外経験に期待することが幅広い。
- 将来のグローバル化の影響を「ある」、もしくはグローバル社会で通用する人材に「なりたい」と回答した者は他の層に比べて「英会話」「視野・考え方が広がる」「価値観・文化の理解」「人との交流」などのスコアが高い。

【高校生】 海外経験を積みたい理由（海外経験希望あり／複数回答）



※「2015年全体」降順ソート

※【2015年属性別】 10 「2015年全体」より10ポイント以上高い
 5 「2015年全体」より5ポイント以上高い
 -10 「2015年全体」より10ポイント以上低い

Kh_Q31_SQ1

